社団法人 日本建築協会
昭和52年6月25日発行
毎月1回25日発行
昭和24年3月19日
第3種郵便物認可

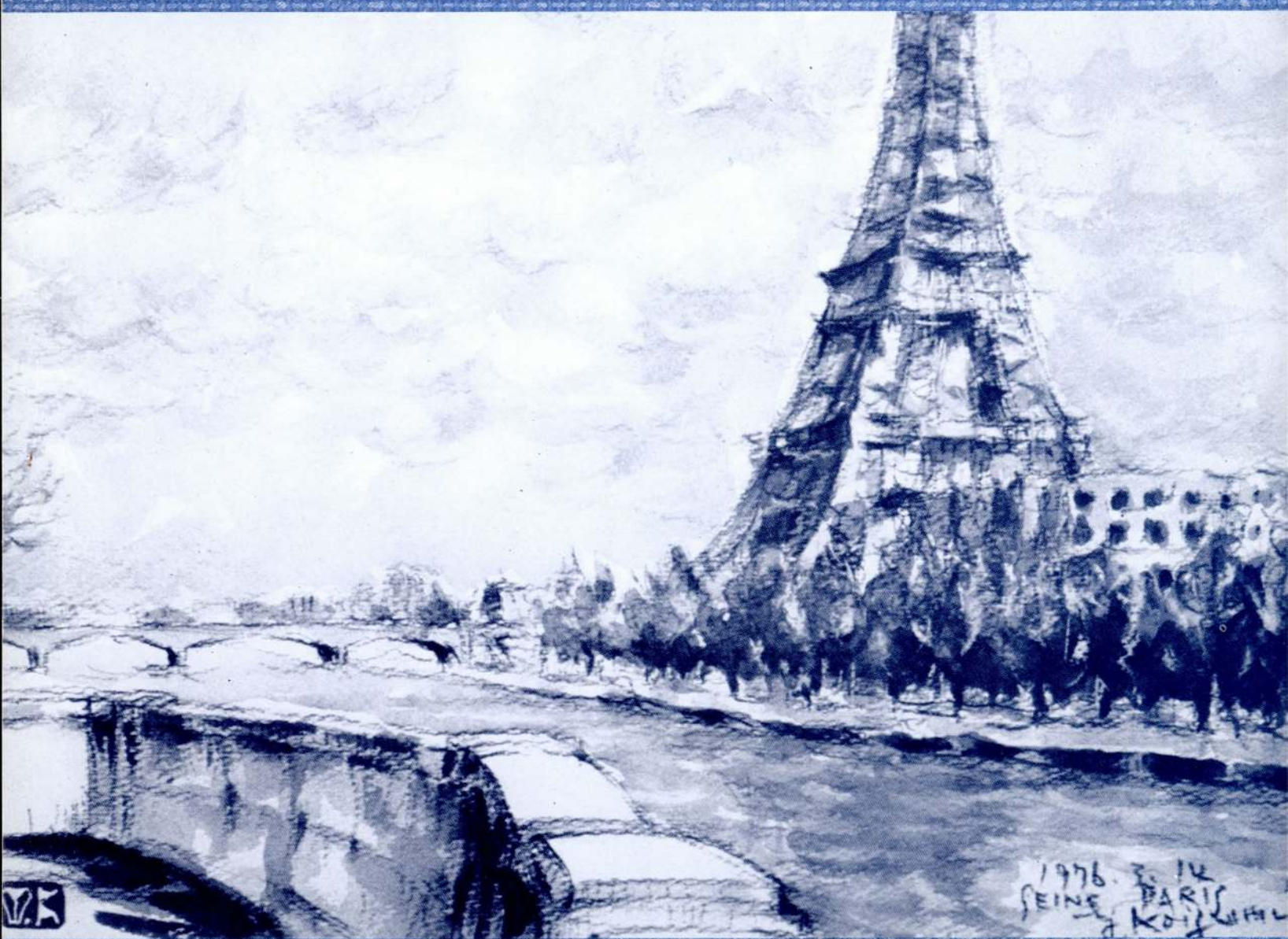
6 建築と社会

特集●身障者施設

1977
VOL.58
NO.663

ARCHITECTURE
AND
SOCIETY

日本建築協会



完全を求める二つの心から
一つの芸術品が生みだされた。



TOTOピエール・カルダン洗面化粧台。
美を創造するカルダンと、
機能を追求するTOTOの劇的な出会いから
生み出された世界に誇りうる
最高級の洗面化粧台です。

Pierre Cardin

TOTO
カルダン洗面化粧台

歴史的遺構セミナー

◀鴻池新田会所を見る

今回、東大阪市教育委員会のご厚意と、京都府立大学林野教授のご指導のもとに、国の史跡に指定されている「鴻池新田会所」について現地での調査をかねたセミナーを催すことにいたしました。

「鴻池新田」は現在国鉄片町線の駅名にその名が残っておりますが、宝永２年（1705年）にときの豪商鴻池善右衛門宗利によって開発されたもので、近世における新田開発、とりわけ町人請負新田としてはもっとも広大なものだといわれています。また、同５年新田の開発とともに「会所」が設けられましたが、この会所は文政年間（1818～1829年）に大改造が行われたまま現在に至っており、その歴史的遺構としての価値には世評高いものがあります。

会所は主に「本屋」・「土蔵」・「庭園」などで構成され、そのうち「本屋」は会所の中心的役割を占める建物で単層入母屋造二重本瓦葺、面積約660㎡（200坪）という豪壮な構えで、新田開発事業の管理、監督をする事務所あるいは、当時の庄屋や代官などを接待する社交の場として使用されていました。また「土蔵」には新田からの収納米を貯蔵する米蔵、文書蔵及び道具蔵などがあり、とくに米蔵は南北約40m、東西12m二階建という大規模なものです。「庭園」は江戸末期の典型的な廻遊式庭園として有名で、豪商鴻池家の繁栄の一端を物語るものといえます。

当日は林野先生にご同行の上、ご説明をお願いし、また、会所内の建物群についての意見交換なども行う予定です。

なお、会場の都合で定員は増加できませんので至急にお申込み願います。

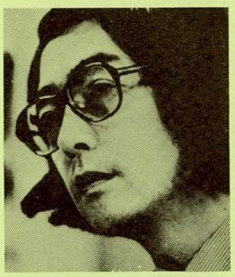
日　　時　7月5日(火)集合13：45→解散16：00
集合場所　国鉄・片町線「鴻池新田」駅 改札出口付近
●目標会旗

〔参考〕 集合所までの交通費は各自負担のこと
国鉄環状線「京橋」経由→片町線で京橋より４ツ目の停留所です。大阪より110円、京橋より80円
片町線・京橋発車　13時8分または25分発に乗車のこと。(所要15分位です。)

講　　師　京都府立大学教授　工学博士　林野全孝氏
会　　費　５００円　（資料代　その他）
定　　員　４０名
スケジュール
14：00→15：00　見学
15：00→16：00　セミナー、質疑応答
申　　込　今回に限り、会誌発行遅延のため、**お申込は電話受付け**にいたします。
●申込先→建築協会事業課(TEL06－231－9640)へ氏名・勤務先名・連絡電話番号・返信用宛名・郵便番号を明確に電話にてお申出下さい。
●電話は6月30日(木)午後5時限りとします。
●定員を超過したときは抽せんにて決定し、ハガキで７月４日までにお知らせいたします。

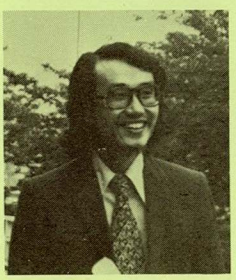
「注」当日は参加証持参の方に限ります。今回は非公開場所のため遅刻されると入れませんからご注意願います。

◀音環境とアコースティックデザイン



一柳　慧氏

1933年、神戸生まれ。ミネソタ大学、ジュリアード音楽院New School For Social Research（ニューヨーク）卒。作曲を平尾貴四男、池内友次郎、ジョン・ケージ、ピアノを原智恵子に学ぶ。1966年より現代音楽祭「オーケストラル・スペース」を組織。現在は作曲活動のほかに音による環境デザイン、騒音公害へのソフトウエア的アプローチなど現代の音や音楽の問題をメタ・コンサートの方向に拡大した領域で活動を行っている。1972年銀座ソニービルで「サウンド・デザイン～音のある生活空間～展」を開く。



中嶋鴻毅氏

1944年、大阪生まれ。大阪大学基礎工学部卒。在学中は物性工学を専攻していたが、音の知覚に興味を持ち、現在音声情報工学の研究に従事。研究のかたわら、音の新しい領域にアプローチしている現代音楽を聴衆の立場からとらえようと、演奏会、講演会の企画を行っている。大阪大学産業科学研究所に勤務。

われわれは日々建築都市その他の環境にかかわる創造活動にたずさわっています。その環境を構成するさまざまな構成因子のもっとも重要なものの一つでありながら消極的（たとえば防音、吸音）にしかあつかわれず、むしろおろそかにされがちな「音」について考えてみましょう。邪魔だと思われる騒音もまったく音のない世界にさまよえば人は落ちつきをなくすでしょう。流すレコードの種類で喫茶店がはやったり、すたれたり、お客の層が変わったりします。〝みおつくし〟の鐘の音が大阪の象徴であった時代もあります。

そういった「音」について、その根源的なとらまえ方から積極的な利用に至るまで、現代音楽の作曲家として著名な一柳慧氏と電子工学にたずさわっておられる中嶋鴻毅氏にセミナーをお願いしました。みなさん、ふるってご参加下さい。

日　　時　7月9日(土)　開場13：30
開会14：00→閉会16：30
会　　場　**大同ホール**（吹田市江坂1-23 大同生命ビル1F）
ただし・地下鉄、御堂筋線・「江坂」駅前（TEL 06-385-1131）
講　　師　一柳　慧氏（作　曲　家）
中嶋鴻毅氏（大阪大学 産業科学研究所）
定　　員　２００名
会　　費　５００円（参加証ご持参の方）
７００円（当日入場の方）・満員のときはお断りします。
プログラム
14：00→16：00　講演、レコード演奏とスライド
16：00→16：30　質疑応答
申　　込　往復ハガキにて（１名１枚限り）氏名・勤務先名・連絡電話番号・返信用宛名・郵便番号を記入し、「音環境」と明記の上７月４日(月)までに建築協会事業課へ。
(〒541 大阪市東区北浜３丁目37)
折り返し参加証をお送りいたします。

◀大阪ガスのLNG基地の見学



大阪ガス泉北工場の貯蔵タンク群

エネルギーの確保が、その国の運命を左右するといわれる現在、新しいエネルギーとしてLNG（液化天然ガス）が世界的にクローズアップされつつあります。外国で産出する天然ガスを-160℃の超低温液体にして、これを運ぶタンカーや貯蔵するタンクも特殊な低温材料や工法が採用されております。

大阪ガスはこのLNGを気化した天然ガスを今までの都市ガスに替えるため、泉北製造所第一工場を建設して昭和47年より受入れ、50年5月より切替え（天然ガス転換）をはじめましたが、さらに第二工場も今夏の受入のため建設が進んでいます。

天然ガスは世界的には、石油の70%にひってきする量があるといわれ、クリーンなエネルギーとしてわが国の電力、製鉄などの企業でも公害防除のため積極的に導入がすすんでおります。

今回は大阪ガス殿のご好意と大林組殿のご協力により、泉北製造所を見学することになりました。

多数ご参加をお待ちします。

日　　時　7月20日（水）集合13：20→解散16：30

集合場所　南海電車・本線「羽衣」駅 東出口改札付近 ●目標会旗

〔参考〕　集合所までの交通費は各自負担のこと
- 大阪、難波より本線急行乗車（和歌山方面行）→「羽衣」下車…所要約20分、運賃180円、急行発車時間12時43分又は57分にご乗車下さい。

集合所よりは大阪ガスご提供の貸切バスで現地へ参りますので遅刻されないように。

定　　員　４０名

会　　費　３００円

行　　程

13：50→14：30　LNGと設備概要説明
14：30→15：00　映画とLNG実物実験
15：00→16：30　工場見学
終了後　バスにて羽衣駅へ→解散

見学場所　堺市築港浜寺町４（TEL 0722—62—0021）
大阪ガス泉北製造所 第1・第２工場

●直接、車で参加される方は事務局へご連絡の上、上記にお問合せ願います。

申　　込　往復はがきに限ります。１名１枚限りとし、氏名・勤務先名・役職・連絡電話番号・返信用宛名・郵便番号を記入し、「大阪ガス泉北工場見学」と明記の上７月11日（月）までに建築協会事業課へ。バスの関係上定員を超過した場合は抽せんにて決定いたします。

◀通常総会開催通知

昭和52年度第１回通常総会を下記のとおり開催いたします。本務ご多忙のところ洵に恐縮ながら何卒お繰り合わせご出席下さいますようお願い申し上げます。

社団法人　日本建築協会　会長　塚　本　猛　次

記

と　き　昭和52年 6日28日（火）午後４時半～
ところ　日本建築協会４階集会室（東区北浜３－37）
ぎだい　1　昭和51年度事業報告承認の件
2　〃　〃　決算報告承認の件
3　昭和52年度収支予算承認の件

◀会員の受賞

このたび下記の方々は建設関係功労者として夫々表彰を受けられました。ここに誌してその栄誉をお慶び申し上げます。

記

春の叙勲
勲四等瑞宝章　松森 英雄 氏（西日本建設業保証㈱常務取締役）
勲五等瑞宝章　藤岡 正一 氏（藤岡設計事務所長）
大阪府知事表彰　打浪 政信 氏（新興建材工業所常務取締役）
〃　〃　友田 俊夫 氏（友田工業社長）
〃　〃　吉田 信武 氏（吉田建築事務所長）
兵庫県知事表彰　越智 隆晴 氏（神京設計事務所専務取締役）

◀昭和52～3年支部選出評議員の選任

各支部選出の新しい評議員が下記のとおり決定いたしました。

記

（京　都）森 田　英 一氏（伏見工業高校）
高 橋　政 吉氏（明和管工業㈱）
（和歌山）栂 野　正 春氏（栂野建築事務所）
島 田　正 巳氏（㈱島田組）
（中　国）清 田　幸 夫氏（㈱清田工務店）
平 本　俊 秋氏（㈱日興）
（東　海）中 島　　一氏（愛知工業大学）
宮 崎　辰 敬氏（宮崎辰五郎建築事務所）

東海支部役員名簿（敬称略）　昭和52年４月１日　現在

注）①……任期１年
②……任期２年

支 部 長　一 圓　俊 郎②
副支部長　服 部　小 虎①　宮 崎　辰 敬②
幹　　事　水 野　金 市①　中 島　　一②
〃　長谷部　利 夫①　森　　鉦 一②
〃　森 田　徹 男①　盛 田　輝 勇②
常 議 員　岩 田　鏐太郎①　小 川　利 光②
〃　加 藤　毅 夫①　菊 池　利 治②
〃　藤 田　幸 男①　小 坂　忠 勝②
〃　柳 澤　次 郎①　三 国　泰 路②
相 談 役　城 戸　武 男

◀昭和52年度日本建築協会理事会務分掌

理事各位の会務分掌が下記のとおり決まりました。

（敬称略，◎印主幹）

会務／部門別	総務（14名）	会計（7名）	編集（12名）
技術部門	市川　宏 小林　清 ◎佐野　正一 寺田　徳重	大澤徳吾郎 ◎山田　義行	井上　滉 岡田　光正 北垣　智造 小西　岬 窪田　祐 ◎松村　慶三 三浦二三男 山田　幸一
総合部門	浅沼　茂夫 木下　正利 奥村　俊夫 鴻池　藤一 竹中　錬一	大林　芳郎 松村　雄二	前野慶太郎
電気部門	今元　康彦	小林　四郎	菅谷　健児
管工部門		須賀　孝	尾亀清四郎
建材部門	田中　政二	室谷　山水	渡辺　亮

◀昭和52年度日本建築協会常設委員会委員

昭和52年4月19日開催の定例理事会において、下記のとおり各委員を委嘱いたしました。（敬称略 ◎印委員長　○印副委員長　△印幹事　＊顧問）職場名は略称を用いました。

■編集委員会

会誌「建築と社会」の企画・編集

編集委員長

◎中村甲一（日建設計）

編集理事

井上滉（大建設計）
尾亀清四郎（三晃空調）
岡田光正（大阪大学）
北垣智造（大阪市建築局）
窪田祐（大林組）
小西岬（田中小西建築事務所）
菅谷健児（大阪電気暖房）
前野慶太郎（あめりか屋）
松村慶三（浦辺建築事務所）
三浦二三男（藤木工務店）
山田幸一（関西大学工学部）
渡辺亮（東洋シャッター）

（作品作風小委員会）

○大辻真喜夫（竹中工務店）
後藤攻（大建設計）
榊原潤（清水建設）
沢田伸（兵庫県建築部）
奈良鉄一（大林組）
横尾迪夫（安井建築設計事務所）
横川隆一（日建設計）

（計画分科会）

石東直子（市浦都市開発建築コンサルタンツ）
小林奉之（フジタ工業）
五島信明（日本住宅公団）
杉本昇（大阪府建築部）
△鈴木良介（京都工繊大学）
藤本尚久（近畿大学）
松村茂樹（京都大工学部）

（構造分科会）

大井恭二（竹中工務店）
木本英爾（大阪市大工学部）
中塚佶（大阪大学）
△中東達男（アスコラル構造研究所）

（設備分科会）

河崎孝太郎（高砂熱学工業）
河津隆之（斉久工業）
中根芳一（大阪市大生活科学部）
△西村喜卿（総合設備コンサルタント）
林禎造（大阪電気暖房）

（施工材料分科会）

△野村康治（鹿島建設）
古荘昭憲（大林組）
柳生研太郎（積水ハウス）

（法令分科会）

△西尾宗晴（大阪府建築指導課）
松本好雄（大阪市審査課）

（投稿欄小査員会）

稲毛政信（神戸市住宅局）
○芝山昭（藤木工務店）
鈴木武（近畿地建営繕部）
関川康（京阪電鉄土木部）

（広告企画小委員会）

阿部坦（鴻池組）
○尾亀清四郎（三晃空調）
岡田満夫（須賀工業）
桑田和明（松村組）
下前裕一（東畑建築事務所）
杉村勝三（竹中工務店）
十倉毅（日本建築総合試験所）
中野孝治（安井建築設計事務所）
水嶋繁樹（銭高組）
山田雄祐（大林組）
渡辺亮（東洋シャッター）

■教育委員会

建築教育についての調査、研究、講座ならびに工高生デザインコンクールなどの企画および実施

◎岡田光正（大阪大学）

（講習会小委員会）

臼井弘（須賀工業）
○佐々木保
中村堯（日建設計）
杉村正三郎（阪急電気工事）
田賀勉（田賀建築事務所）
野崎恒夫（西松建設）
林正一（大成建設）
藤野長士（新日本技術コンサルタント）
松岡力（飛島建設）
△三木敏男（奥村組）
山口道博（戸田建設）
△若野暢三（清水建設）

（工高生教育小委員会）

△上野賢三（都島工業高校）
△植田武（今宮工業高校）
○斎藤暢（UA斎藤事務所）
崎山宗威（大阪工業高等専門学校）
中野吉晟（西野田工業高校）

■事業委員会

見学・講演・説明・展示・懇親会・若い会員の集いなどの事業企画および実施

◎窪田　祐(大林組)
○乾　正一(関西電力)
○三品哲夫(大阪市建築局)
○柳　真也(村野・森建築事務所)

(見学会小委員会)

○堀田宗男(鴻池組)
△水谷　勇(松村組)
池田光太郎(大阪市交通局)
上出秀雄(藤木工務店)
島田民彦(竹中工務店)
高島三郎(鹿島建設)
永井誠一(大林組)
前野良規(大阪市建築局)
山岸豊美(大成建設)
山口　勝(清水建設)

(広報小委員会)

○市川正夫(竹中工務店)
△奥村　勇(大林組)
△佐藤　泰(大阪市公園局)
△原見昌志(安井建築設計事務所)
△南　次郎(浅沼組)
荒巻恭士(近畿電気工事)
大熊逸雄(大阪府建築部)
岡本　正(大阪市南消防署)
奥村　進(東畑建築事務所)
片岡昌之(日本住宅公団)
斎藤　誠(銭高組)
平川玄治(修成建設専門学校)
福山克己(淀川製鋼所)
発地良一(旭硝子)

(若い会員の集い小委員会)

○森下元之(大阪市公園局)
△印藤義博(大阪市建築局)
△瀬戸本　淳(瀬戸本淳建築研究室)
△千葉和成(大林組)
△古川博司(竹中工務店)
井本隆一(阪急電鉄)
岩本一良(日本住宅公団)
植田凱夫(村野・森建築事務所)
大久保久能(坂倉建築研究所)
大隅暁子(緑のある空間研究所GAL)
太田貞興(小河建築設計事務所)
河上隆志(東畑建築事務所)
菅家克子(アトリエトリフォイル)
木田伸一郎(安井建築設計事務所)
桑田信篤(日建設計)
佐野利治(浅沼組)
斎藤英雄(近畿地方建設局)
阪倉嘉一(大阪府企業局)
関根幹雄(堺市公園部)
田中　勝(鴻池組)
中川　一(野村建設工業)
三好庸隆(市浦都市開発建築コンサルタンツ)
安原盛彦(大成建設)
山形政昭(大阪芸術大学)
湯山得一郎(清水建設)
渡部朝子(企画設計社)
鈴鹿幸雄(日本住宅公団)

■住宅委員会

住宅に関する研究並びに改善についての一般啓蒙、よろず相談住宅展の開設、住宅に関するスライドの制作

赤尾信一郎(日本住宅公団)
新居勝彦(鴻池組)
石川　清(星和地所)
○岩本尚三(大阪市都市再開発局)
大塚重雄(大阪市住宅供給公社)
奥村嗣夫(京阪電鉄)
加藤忠雄(大阪市公園局)
加藤秀夫(日本分譲住宅協会)
楫　脩(大林組)
木原正雄(近畿工業)
◎小西　岬(田中小西建築事務所)
菅原廷治(田中小西建築事務所)
○高田重清(小堀住研)
高橋昭子(関西大学)
辰己詢二(大阪府建築部)
徳橋憲二(三晃空調)
原　茂(銭高組)
平松利一(田島応用化工)
藤江康男(大阪市住宅サービス公社)
溝神宏至朗(安井建築設計事務所)
○山下聡清(近鉄住宅建設)
山田敬太郎(あめりか屋)
山本司朗(大建設計)
吉岡重和(大阪府企業局)

■建材委員会

建材のコンサルタント・新建材の紹介

＊堀内三郎(京都大学)
生田喜一郎(大阪市営繕部)
打浪政信(新興建材工業所)
大生仁雄(鹿島建設)
金田　宏(大林組)
北島　全(大建設計)
許斐国照(大阪市建築局企画室)
合原一夫(戸田建設)
恒成　恒(大阪府土木部)
羽生永紀(大成建設)
原　尚弘(クラレエンジニアリング)
藤川　慧(日本建築総合試験所)
星　忠甫(東畑建築事務所)
星野二郎(岳建築設計事務所)
堀内成樹(松村組)
○牧田顕治(大阪府建築部)
松本英良(竹中工務店)
○元木貞次(東洋紡エンジニアリング)
森　末雄(佐渡島)
森口輝臣(日本住宅公団)
◎山田幸一(関西大学)
山本　茂(大日本土木)
湯浅武夫(住鋼エンジニアリング)
和田得也(藤木工務店)

■建築データシート委員会

建築データシートの企画・編集・刊行

監修 坂　静雄(日本建築総合試験所)
＊篠崎一郎(浅沼組)
＊埴田昌彦(安井建築設計事務所)
＊中原　茂(中原茂建築事務所)
＊松村志津男(松村志津男事務所)
◎井上　滉(大建設計)
○△真塚達夫(東畑建築事務所)
△酒井蔚聿(大建企画設計)
△羽入　洋(清水建設)
△樋口　登(日本万博記念協会)
△藤井雅央(大成建設)
今井　平(大阪市交通局)
木村久夫(大阪市建築局)
北村恭一(大建設計)
桑山知昭(高砂熱学工業)
坂井茂信(日建設計)
正法院陽三(日本建築総合試験所)
杉村勝三(竹中工務店)
鈴川太郎(大林組)
高橋　裕(鹿島建設)
竹内　新(鴻池組)
中北　清(東畑建築事務所)
中村哲士(安井建築設計事務所)
西村喜卿(総合設備コンサルタント)
春田浩司(近畿地建営繕部)
林　禎造(大阪電気暖房)
深沢勝美(大阪府営繕部)
山本国男(日建設計)
吉村篤一(建築環境研究所)
吉村政幸(須賀工業)

(特別委員)

伊藤　元(安井建築設計事務所)
岡本　繁(須賀工業)

■出版委員会

建築に関する図書の企画・編集・刊行

◎小林　清(新住宅社)
佐々木　保
清水寿栄次(関電産業)
玉田　健(竹中工務店)
水谷　勇(松村組)
横井元昭(大林組)
須賀好富(近畿大学)
山田　修(市立工芸高校)
赤谷吉信(都島工業高校)
吉村　武(東住吉工業高校)

■法規委員会

建築に関する法規の研究・普及並びに建議

大橋孝則(大阪府建築指導課)
梶原　明(大阪府建築指導課)
上川恭弘(大阪府建築振興課)
川崎正嗣(大阪府土木部)
田中隆夫(大阪市消防局予防部)
足立幸一(大阪市建築指導部)
○西川幸之輔(大阪市建築指導部)
松本好雄(大阪市建築指導部)
近藤達夫(大阪市総合計画局)
西山　充(大阪市総合計画局)
原田利教(東大阪市計画部)
古屋敷　栄(八尾市開発部)
加納英雄(堺市都市計画部)
竹口信夫(大阪建築士事務所協会)
◎市川　宏(東畑建築事務所)
○越智隆晴(神京設計事務所)
楠　昭夫(村野森建築事務所)
下山壌補(大建設計)
永安照男(日建設計)
福田朝生(双星社竹腰事務所)
吉仲　清(吉仲建築設計工房)
渡辺甚吉(池田宮彦設計事務所)
○田渕穣一(大林組)
高木　穣(竹中工務店)
武曽一郎(清水建設)

建築と社会
ARCHITECTURE AND SOCIETY
© 1917年創刊
第58集
663号

CONTENTS 1977 6

特集・身障者施設
SPECIAL FEATURES ON THE WELLFARE FACILITIES FOR PHISICALLY HANDICAPPED PERSONS

1 会　　告　歴史的遺構セミナー・鴻池新田会所を見る。音環境とアコースティックデザイン。大阪ガスのＬＮＧ基地の見学。通常総会開催通知。会員の受賞。昭和52～３年度支部選出評議員の選任。昭和52年度日本建築協会理事会務分掌。昭和52年度日本建築協会常設委員会委員。

作品作風

6 ●兵庫県障害者能力開発センター
設計：兵庫県建築部営繕課　施工：関西建設工業

10 ●藤井寺市立老人福祉センター 松水苑
設計：日建設計　施工：海原建設

14 ●高槻市立老人福祉センター
設計：山田守建築事務所　施工：鴻池組

16 ●神戸市立心身障害福祉センター
設計：神戸市住宅局営繕部営繕課、東畑建築事務所　施工：大本組

18 ●心身障害児療育相談施設「奈良仔鹿園」
設計：教育施設研究所　施工：浅沼組

21 法令コーナー１１５　許可申請手順について／大阪府下特定行政庁

22 新建材紹介コーナー15　浸透性撥水防水塗料「タナックス」／藤川慧
「新建材紹介コーナー」についての報告／山田幸一

23 建築と社会ニュース　第６回中之島まつり。緑化施設表彰
樹の話シリーズNo.32モリシマアカシア

24 読者の頁　本会誌に対するアンケートの意見。私たちのグループNo.９阪神電鉄美術班／福崎敏秋

25 レポート　すべての子どもに水と土と太陽とそして仲間たちを!!／平野憲司、内海豊

26 若い会員の集いレポート　建築家に話を聞く(5)…漆原美代子のインテリア・アーキテクチュア／三好庸隆・竹氏宏和・T·O·Y

28 スケッチブック　最近竣工した新建築９点（No.1261～1269）

29 建築の眼　前庭，生垣，ポーチ，門／湯川利和。医師，弁護士，建築家／大西国太郎。中小建設業者育成の指導とその反省／大生仁雄。大衆化ということ／山口安男。

特集＝身障者施設

総論

32 人間尊重の街づくり・施設づくり—障害者を中心とした　荒木兵一郎

ルポルタージュ

38 建築的環境のバリヤーズ・フリー設計へむけて—近畿地区における心身障害者施設・公共施設・住宅などの具体例をもとに考える　藤本　尚久　田中　直人

計画例

50 公害病患者と生活空間保障—水俣病患者の場合を中心に　西村　一朗

海外の事例

54 中国の身障者のための工場〝上海低電圧第二工場〟を訪ねて　石東　直子

55 デンマーク・スエーデンの老人福祉事情について　上村　幸之

60 構造の頁 36　プレストレストコンクリートＳＴ版の設計例／徳永雄一郎

61 施工材料の頁 36　最近の地盤改良について／中堀和英

62 設備の頁 35　冷蔵倉庫について（その２）／山畑政徳

64 都市設計資料 20　都市構造物の設計手法(I)／神戸都市設計資料研究会

66 月報　日本建築協会月間の動き（昭和52年４月分）

４月号目次の若い会員の集いレポートの執筆者が間違っておりました。下記のように訂正します。
瀬戸本淳→井本隆一

表紙絵・渡欧スケッチ—小泉豊（吉田建築事務所）
セーヌ河畔

次号特集予告
■７月号特集／照明設備
■８月号特集／埋立地における構造問題—大阪南港と芦屋浜を例として
■９月号特集／計画特集
■10月号特集／建築における省エネルギー化

編集委員会（昭和52年度）○印副委員長△印幹事

編集委員長　横川隆一
中村甲一
編集理事
井上滉
尾亀清四郎
岡田光正
北垣智造
窪田祐
小西岬
菅谷健児
前野慶太郎
松村慶三
三浦二三男
山田幸一
渡辺恵
編集委員
●作品風小委員会
○大辻眞喜夫
後藤攻
榊原潤
沢田伸
奈良鉄一
横尾迪夫

●計画分科会
石東直子
小林奉之
五島信明
杉本昇
△鈴木良介
藤本尚久
松村茂樹
●構造分科会
大井恭二
木本英爾
中塚信
△中東達男
●設備分科会
河崎孝太郎
河津隆之
中根芳一
△西村喜卿
林禎造
●施工材料分科会
△野村康治
古荘昭憲

柳生研太郎
●法令分科会
△西尾宗晴
松本好雄
●投稿欄小委員会
稲毛政信
○芝山昭
鈴木武
関川康
●広告企画小委員会
阿部坦
○尾亀清四郎
岡田満夫
桑田和明
下前裕一
杉村勝三
十倉毅
中野孝治
水嶋繁樹
山田雄祐
渡辺恵

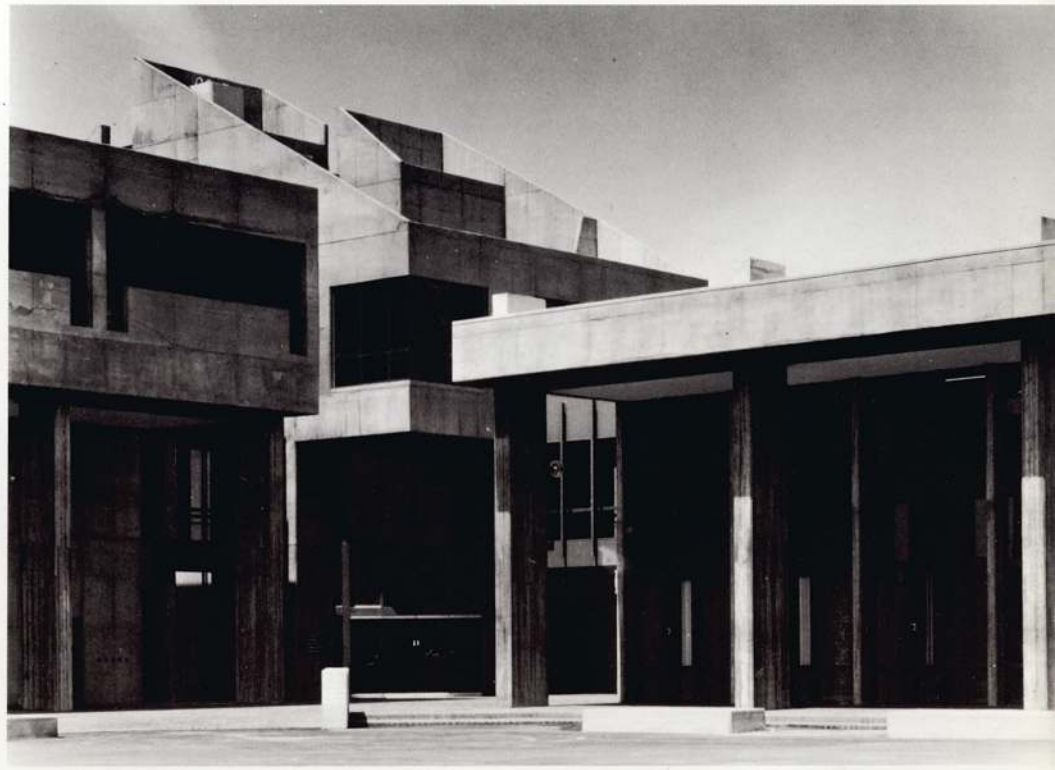
編集人　松井昭光
印刷　昭和52年6月20日
発行　昭和52年6月25日
発行人　吉田悦二
発行所　(社)日本建築協会
大阪市東区北浜３—37
電　06—231—9648
振替口座　大阪39975
印刷所　大信印刷株式会社
大阪市福島区福島６—20—10
電　06—451—5346(代)
売価　６００円(送料別)



兵庫県障害者能力開発センター

施工　関西建設工業

設　　計	兵庫県建築部営繕課
所 在 地	神戸市垂水区曙町1070
建築面積	1,985.8㎡
延床面積	3,332.5㎡
構造規模	RC、5棟、1～3F
工　　期	昭和49年12月～昭和52年5月
主要仕上	外壁・内壁…コンクリート打放しの上、メタラック吹き付　床…内外とも炻器質レンガタイル貼り











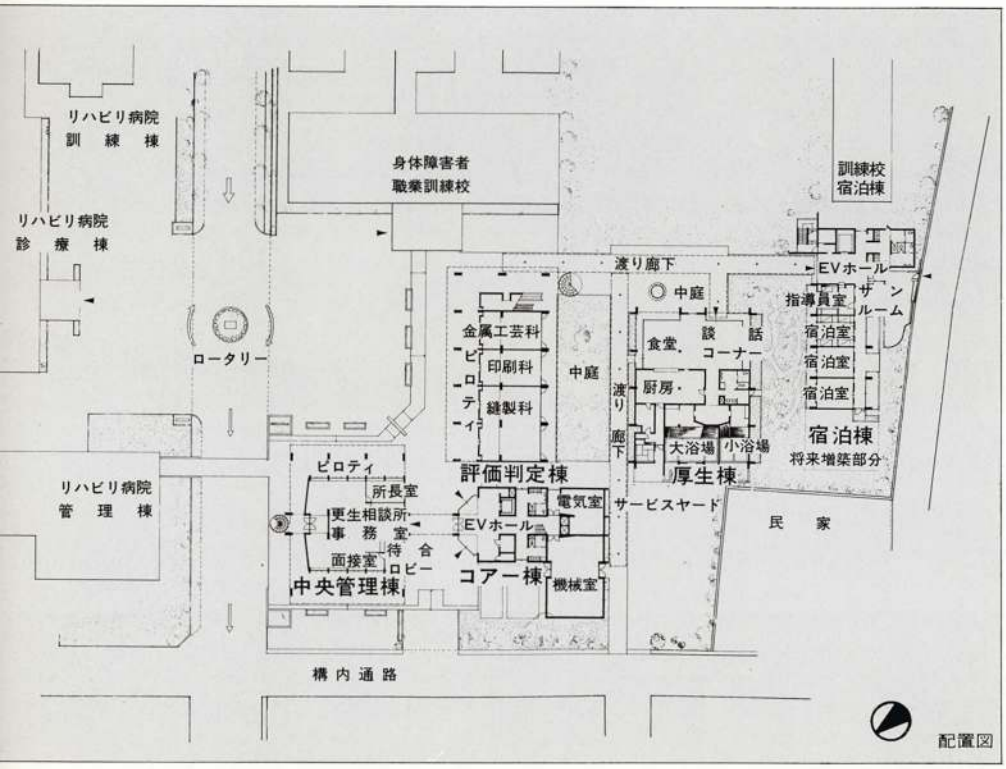


1．中央管理棟とコアー棟を結ぶブリッジ下より評価判定棟ピロティをみる
2．コアー棟玄関回り
3．コアー棟より中央管理棟との2階連絡通路をみる
4．病院棟より、北東全景をみる
5．ロータリーよりコアーをみる
6．評価判定棟ピロティより各科をのぞむ

撮影　東出清彦

兵庫県
障害者能力開発センター

設計　兵庫県建築部営繕課
施工　関西建設工業



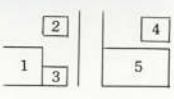


"障害者と街づくり"の問題が声高らかに叫ばれ、運動化しつつあった頃、この度の計画もそれと期を一にして始まった。
能力開発センターとは何か。この課題は、障害者の要求と福祉対策の実態を把握し、リハビリセンターがそこで果たす役割を探り、より総合化されるプロセスの中でその中核としての能力開発センターの位置付を明確にすることでありそれが今回の計画のポイントであった。



そもそもリハビリとは、疾病の発生時、障害の初期から始まり、治療・訓練、職業訓練を経て社会復帰し、その後の経過観察を経て、社会人として参加できるまでをさす。昭和41年、大阪市大(当時)の栗原嘉一郎教授によってマスタープランが作成され、総合リハビリとしての第一歩を踏み出した。ところがその後、本来総合的な能力評価・能力開発の機能を持たすべき更生相談所は、スペースの狭少と、リハビリ病院・職業訓練校・機能回復訓練課・授産所などの各専門職員の縦割り組織の中で、更には専門職員の養成、研修、並びに研究部門の不足などにより、部分的な評価・判定に留まっていた。
リハビリがより総合的なリハビリへ発展するには、医学的評価はもちろん、職業的評価や社会的・心理的評価などを総合して残存する能力を開発し、リハビリの各パートにおける専門職が評価センターに定期的に集まり、総合評価を行なって、そのオリエンテーションを決める、そういう指導体制の強化が求められてくる。これが今度の能力開発センター(能力評価センター)





1．宿泊棟より厚生棟越しに評価判定棟とコアー棟をみる
2．渡り廊下より厚生棟中庭と入口附近をみる
3．宿泊棟より厚生棟と中庭および判定棟、コアー棟をみる
4．能力開発センター（評価判定棟3F）
5．運動場より渡り廊下で連結された宿泊、厚生、判定、コアーの各棟をみる

である。ここには県下各地から来る障害者を、1～2週間滞在させ、その間に必要な検査や診療・能力の評価判定を行い、最終の評価までもっていき、最後にこのセンターに留まってリハビリを行うべきか、病院で治療を続行すべきか他の施設に移すべきかを判定し、社会復帰ならどの職種が適当かの評価を行い、リハビリチームの総力を結集する場である。

計画は障害者との打合せから始まり、既存施設街並の実地調査を行う中で、問題の所在がより明確になった。それは、障害者にとって、〝外に出る〟とか〝歩く〟ということは、最も切実で基本的な要求だということである。従ってここでは、動線の〝legibility〟(明瞭度)が最大の力点であった。物理的障害を取り除き、生活空間を広げ、〝歩く〟こと自体を積極的に機能としてとらえることが、集まり、交流することの契機となろう。動線は建物内外を問わず、全て〝道〟である。柱廊(ピロティ)を廻し、解放的な渡り廊下で棟を継ぎ、中庭を設定し、更には意図的に南廊下形式とし、それにアルコーブ状のサンルームを設けたのも、また内外の空間を連続させるため、内外とも同一仕上にしたのも、全てそのためである。

点から線へ、線から面への広がりが、この平面計画や配置計画の段階までは配慮できた。〝街づくり〟の思想は、都市や街並だけでなく、配置計画や平面計画においても適応されねばならないだろう。しかしよりマクロな視点に立てば、まだまだ点でしかない。点から線、線から面への広がりは、障害者問題がより高らかに叫ばれそれが彼等だけでなく、老人・子供・妊婦等、我々自身の問題として認識されるうちに、保障されるだろう。(黒田達雄/兵庫県建築部営繕課)





(本文41頁参照)

藤井寺市立老人福祉センター「松水苑」

施　　工　海原建設
空調衛生ガス　山田工業
電　　気　近畿電気工事
浄　化　槽　藤吉工業

この建物は、藤井寺市が老人対策の一環として企画された老人クラブである。この建物の利用者の年令は70才前後が中心である。開館は9時～5時で、朝夕市内へ巡廻バスで送迎する。

私達はこの設計に取組むに当り、まず老人の肉体的な機能老化に対応した建物でなければならないこと。精神的には穏やかな暖みのある憩いの場であること。老人の生活機能を大切にした空間であることなど、その使い易さ、





親しみやすさに留意した。外観は伸び伸びとした穏やかな稜線で、建物をかぶせるようなやさしさをねらった。配置計画においては、より多くの部屋が太陽を享受できるように、建物を正南に向けた。庭を集約的に南にまとめ、老人は気ままに広い縁側から庭に降り親しむことができる。玄関入口は前庭を広くとり、緑で囲んだ落ち着いたアプローチとした。道路から玄関に至るまで、老人にとって歩行



に負担な階段は一切設けていない。

平面計画においては建物の中央の広い廊下を軸として、両側に各室を配置する。老人は玄関から入って、右往左往することなく、わかりやすく目的室に行ける親切な計画である。受付はよくみられる小窓式の事務的応待でなく、カウンターに職員が出て、互いに椅子に腰かけて、老人に心の通った応待のできる空間とした。この建物の特徴の一つは徘徊できる回廊である。老人は固定した場所で一定時間が経つと、退屈し動きたくなり、その退屈さをカバーするのに広間の周囲を徘徊できるように計画されており、歩きながらラウンジに沿った図書、談話、ゲーム、囲碁将棋の各コーナの違った空間の情景の変化を楽しむことができる。

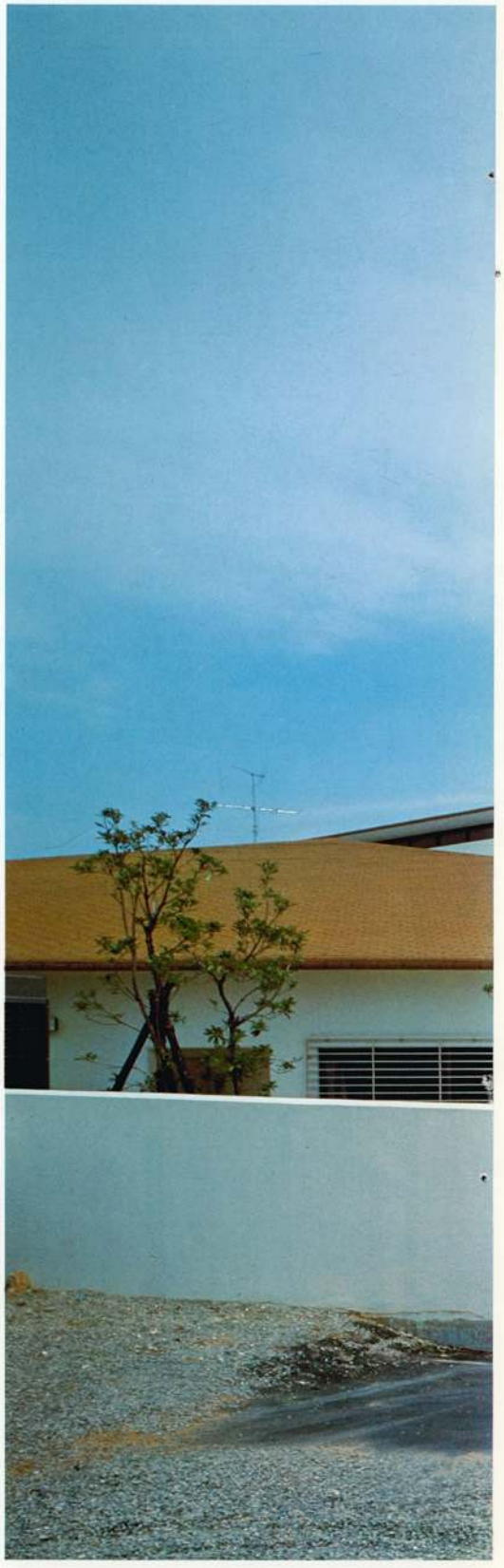
浴室は単なる風呂場としてではなく、籐椅子、電気アンマ機、花壇など老人生活の中心的なウエイトを占める場として、温泉的雰囲気を演出した。床には滑り防止に天草砥石を敷きつめ、浴槽へは手摺を設け、脱衣室との仕切ガラス戸はアクリライト板にするなど、安全には細心の留意をしている。

食堂はよくみられる事務的なパイプ椅子をやめ、情緒ある木製床机と緋毛氈とした。入口にはのれんをかけるなど楽しさを演出し、寛ぎの場とした。老人生活におけるテレビの比



重も考慮し、老人間のチャンネル権争いを回避するため、テレビコーナを1階に1ヶ所、2階ラウンジに2ヶ所、計3ヶ所設置した。囲碁将棋コーナにおいては、椅子机式の他に、縁台の気分で床机の上に畳敷の坐式コーナをも併設している。

この他、浴室便所のドアチェックのきいた重い扉は、老人の握力ではその開閉が苦痛であるのでここでは扉なしの目隠し入口とした。玄関、広間入口等には、履物をはき替えるときに老人のバランスを支える手摺を設けるなど、細かく考慮した。(黄 進興/日建設計 計画主管)

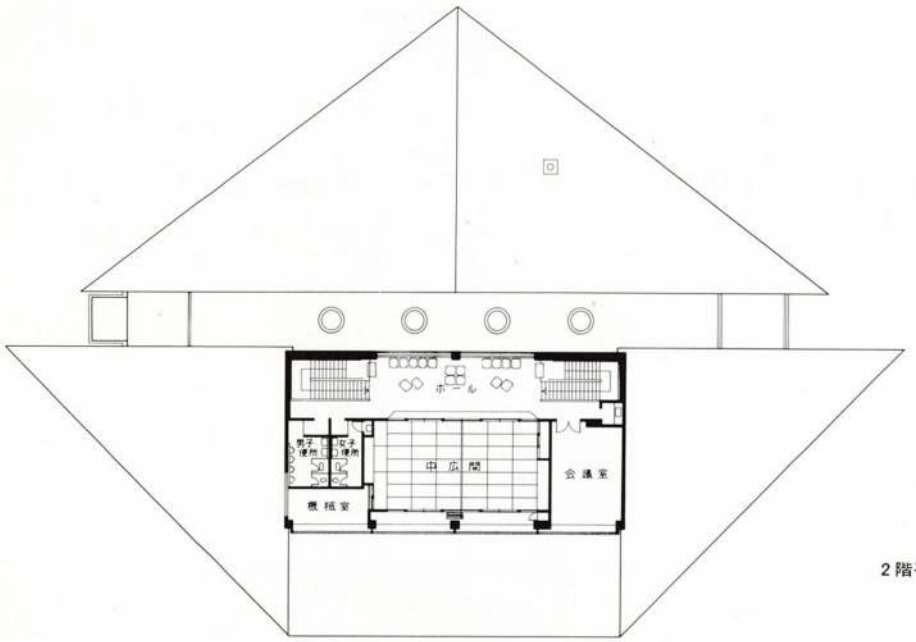


設　　計　日建設計
所 在 地　藤井寺市国府２丁目５番38号
建築面積　1513.38㎡
延床面積　1864.98㎡
構造規模　RC、B１、２F
工　　期　昭和51年８月～昭和52年３月

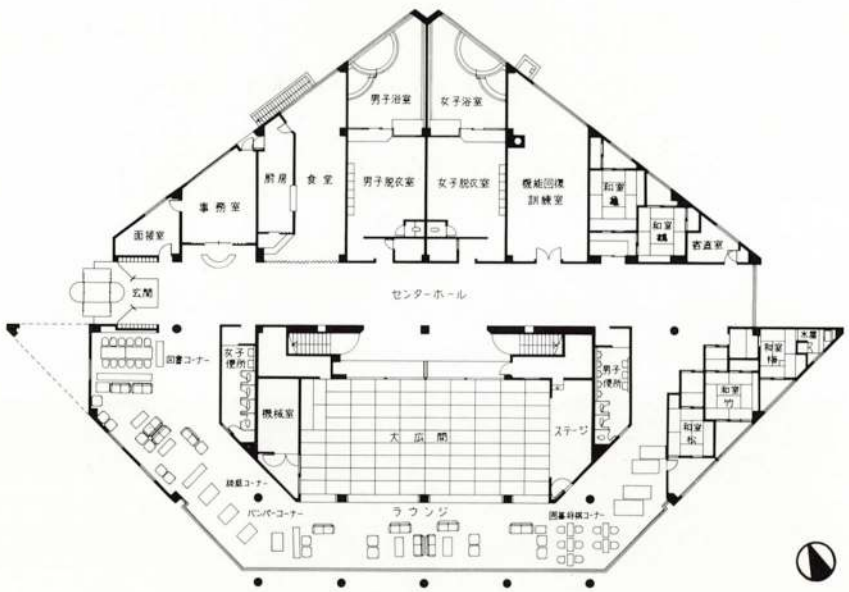


藤井寺市立
老人福祉センター
松水苑

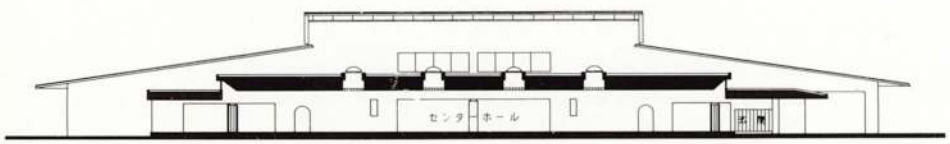
設計　日建設計
施工　海原建設



2階平面図



1階平面図



断面図











1	1．テレビのあるラウンジと中広間（2階）
2	2．大広間（1階）
3	3．床机とのれんのある食堂
4	4．天草砥石を敷きつめた浴室
5	5．脱衣室









1
2 | 3 | 4

1．庭園南東よりラウンジをみる
2．玄関入口よりセンターホールをみる
3．センターホールとラウンジの回廊をみる
4．バンバーコーナーよりラウンジをみる（左、大広間 右、庭園）
撮影　東出清彦

神戸市立心身障害福祉センター

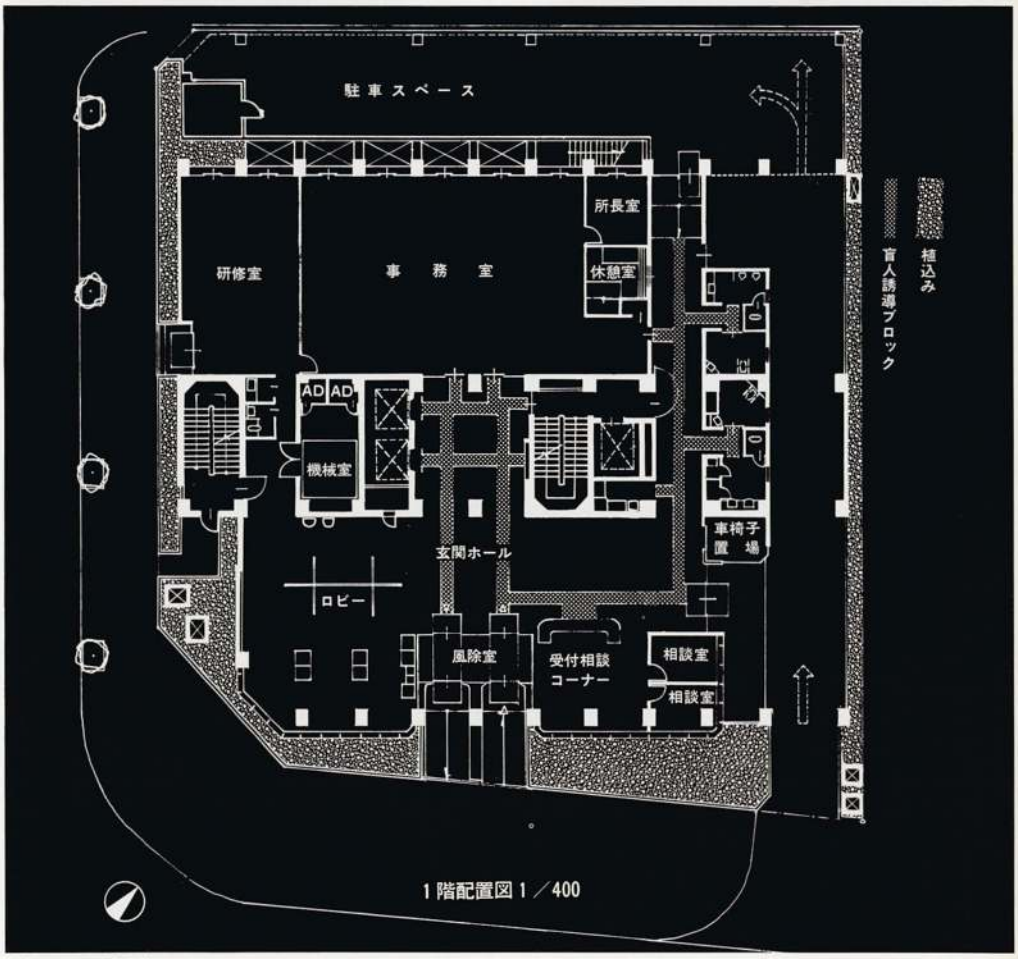
施工　大本組



設　　計　神戸市住宅局営繕部営繕課
　　東畑建築事務所
所 在 地　神戸市兵庫区水木通2丁目1番10号
敷地面積　1,396.17㎡
建築面積　1,192.18㎡
延床面積　7,431.26㎡
構造規模　SRC、B1、7F
工　　期　昭和50年12月～昭和52年3月

当センターは、あらゆる障害者の多様な問題にこたえる一元的な相談窓口及び総合的診断・判定部門、機能訓練部門、身体障害者授産部門、レクリエーション部門等から成り、障害者援護の中枢的施設として位置付けられる。
複合施設における各施設、各部門ごとの独立性の確保、今後の施設整備に対応したフレキシビリティの確保、障害者に対する安全なアクセシビリティの確保等が計画条件として抽出され、その結果、バルコニーを有する簡潔なコアプランの中で、その障害に応じて各部位の寸法・材質等種々の配慮を払っていくことにした。
例えば、床材については、適度のクッション性、すべりにくくてひっかからないといった点を重視し、盲人用誘導ラインとしては、ノンスリップシートを中央に配している。また必要な箇所には、車いす用プロテクター、手摺等を配備し、便所では、床材、手摺、ナースコール、手洗器、鏡、扉等のトータルな配慮を試みている。
エレベーター（透明ガラスの一部使用、ピット内の階数表示、自動放送設備、副操作盤など）、点滅式警報表示灯、自家報及び非常放送と連動した緊急報知用ランプ等の設備上の配慮を行っている。
さらに全館を通じて、文字、光、音、点字等によるサインシステムをデザインすることにより、障害者を安全に誘導出来るように計画している。
（神戸市住宅局営繕部営繕課）





1階配置図 1／400



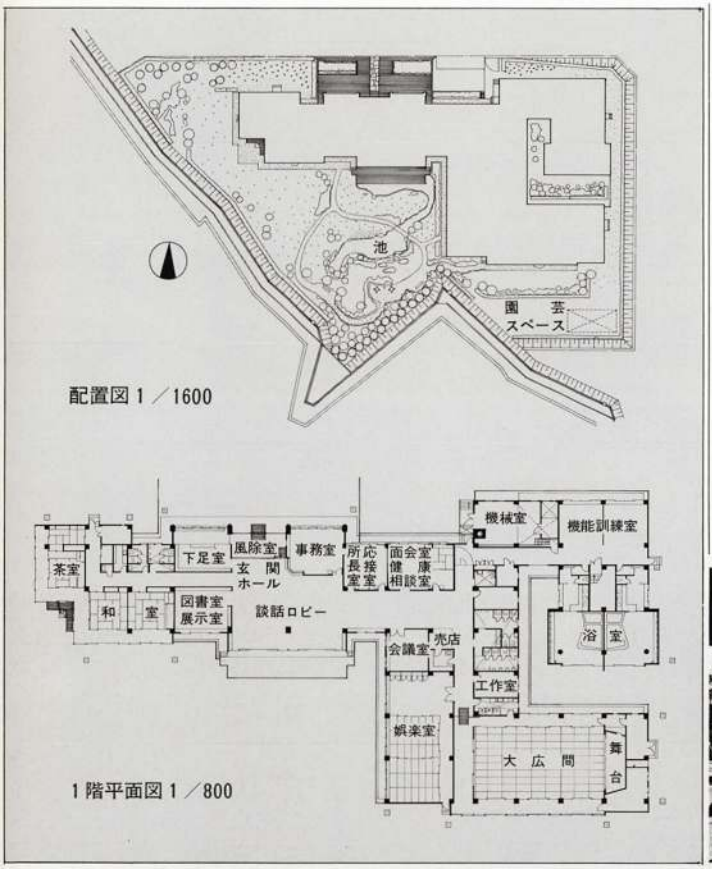


1　4　1．南西からみた外観
　　2　2．訓練室
　　3　3．観察室
　　4．車椅子置場前より受付相談コーナー、玄関ホール、ロビーをみる

（本文39,40頁参照）

高槻市立老人福祉センター

施工　鴻池組

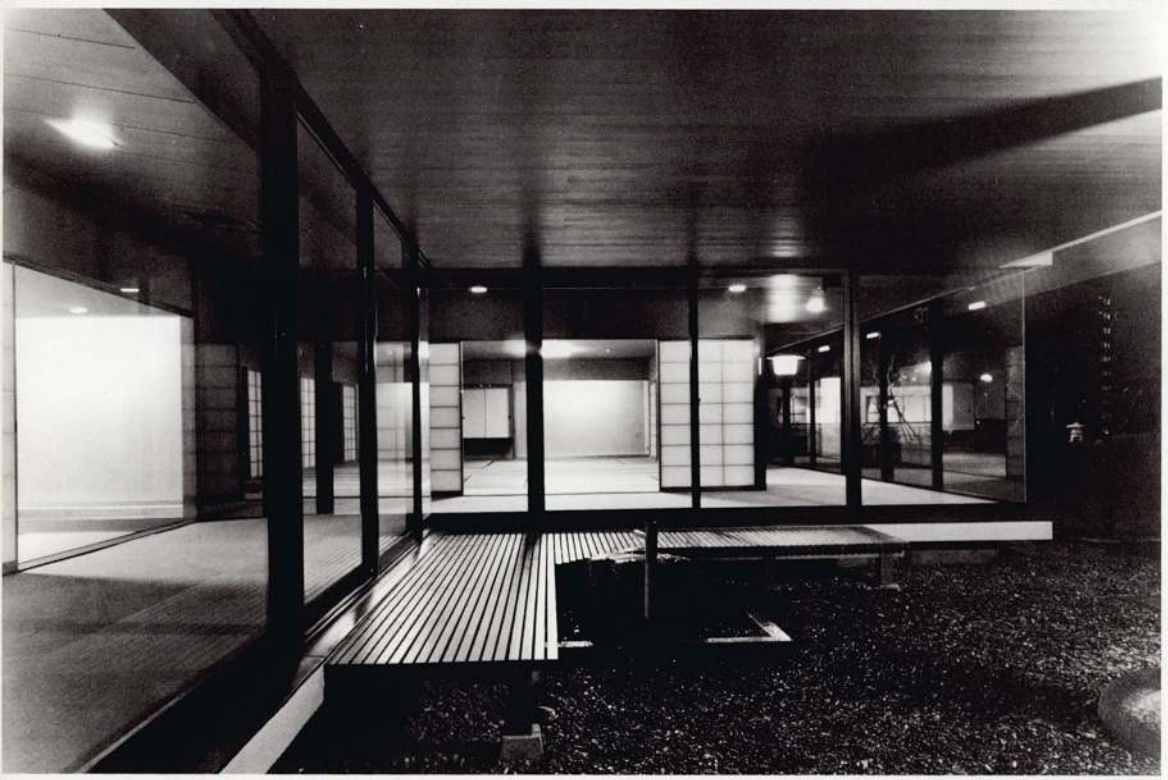


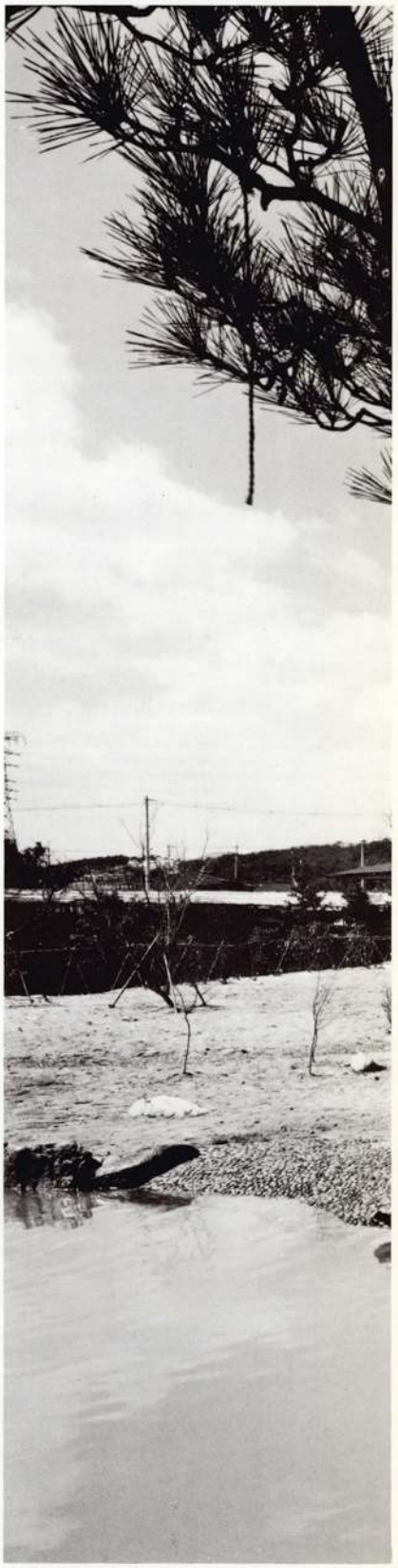
設　　計　山田守建築事務所
所 在 地　高槻市郡家新町48番 6 号
敷地面積　5,732㎡
建築面積　1,890.963㎡
延床面積　1,685.793㎡
構造規模　RC、一部SRC、 1 F
工　　期　昭和51年 8 月－昭和52年 3 月

高槻市立老人福祉センターは今成塚古墳に隣接した同市内の中では位置環境共に恵まれた場所に建設された。建物としては小規模のものであるので動線等の難しさは余り無いが、老人の憩の場所としてふさわしい雰囲気を造り上げるため、平面計画を含め意匠の面ではかなり心を砕いたつもりである。建物はその用途上からも平屋の和風とし、敷地に対して少々ぜいたくかもしれないが、古墳を借景とした庭園とも一体に計画し、のびのびとした開放感にひたれる様に考えると共に、今後その東及び北側に隣接して計画される他の福祉施設の景観をも損わぬ様にした。

（山田達郎/山田 守建築事務所）







撮影　三輪写真

1 2 3

1．談話ロビーより庭園をみる
2．庭園西側より和室をみる
3．庭園より外観南面をみる



心身障害児療育相談施設「奈良仔鹿園」

施工　淺沼組



設　計	教育施設研究所 戸外利用システム研究所（屋外施設）
施　工	ニチノー緑化（屋外施設）
所在地	奈良市古市町１－２
敷地面積	20,311㎡
建築面積	1,802㎡
延面積	1,606㎡
構造規模	RC、１F、一部２F
工　期	昭和50年11月～昭和52年３月

心身障害児の療育は、これまで施設中心に考えられてきた。しかし、その施設は不便な場所に建設される場合が多く、施設職員の確保にも難しい問題がある。また至便な場所に建設されたとしても両親、地域社会から引き離された生活の中で、本当に子供のための療育が出来るのかどうか疑問視される。この様なことから在宅療育が重視され、欧米諸国でもこの傾向に進んでいる。しかし、両親に療育の技術的な面や精神的負担がかかるといった難点があるため施設と在宅の中間的な場として計画、建設されたものである。当施設敷地は奈良市街から南へおおよそ５km、奈良公園、春日山に近く自然林におおわれた丘陵地でここに構想に基ずき平面計画を行った。計画は構想に基ずく４部門から構成されホールを中心に放射状に配している。即ち定期的に通園し治療の出来る通園施設部門、障害児とその親達が一緒に宿泊し治療、療育相談の出来る場、また修学旅行等で奈良を訪れる障害児にも開放する宿泊施設部門、その親たちが療育相談等専門家による研修を受ける研修施設部門、心療、医療、機能回復訓練等の出来る治療施設部門、さらに屋外に於いては野外で自然に親しみながら各種の遊具を使い、遊びながら自然に機能回復訓練等の出来る「オプト・アドベンチャー・ランド」計画等屋内外を通じ子供たちがそのハンデキャップを克服出来る様な自由で明るい開放的な施設とした。（谷　正博／教育施設研究所）



撮影　東出清彦







1 | 2 3 4

1．駐車場より外観西面をみる
2．プレイルームで遊ぶ子どもたち
3．池、屋外食堂エリヤをみる
4．外観南面、ソロバンスライダー、空飛ぶ船をみる

心身障害児療育相談施設「奈良仔鹿園」

設計　教育施設研究所
施工　淺沼組



配置図 1/1200

1. キュービクル
2. 機械室
3. 管理人室
4. テラス
5. 倉庫
6. 会議室
7. 事務室
8. 受付
9. 食堂
10. 厨房
11. 下足室
12. 車椅子置場
13. ホール
14. 休憩室
15. 医務室
16. 集会室
17. 談話コーナー
18. 相談室
19. 指導室
20. 宿泊室
21. 家族風呂
22. 水治療室
23. 脱衣更衣室
24. シャワー
25. プレイルーム
26. リネン庫
27. 談話室
28. 職員研修室
29. 図書研究室
30. 吹抜
31. 屋外食堂エリア
32. 駐車場
33. プレイハウス
34. 空飛ぶ船
35. ソロバンスライダー
36. パネルトンネル
37. モノレール
38. スリバチクレーター
39. 丸太道
40. 訓練プール
41. 水路
42. 浄化槽
43. 訓練スベリ台
44. キャンプ場
45. 発声聴覚訓練伝声管
46. 炊事場
47. 屋外便所
48. 調整槽
49. 受水槽









1
2　1．テラスより中庭をみる
3　2．廊下より宿泊室をみる
4　3．ホールより談話コーナーをみる
　　4．受付前よりホールをみる

日本建築協会法規委員会

法令コーナー

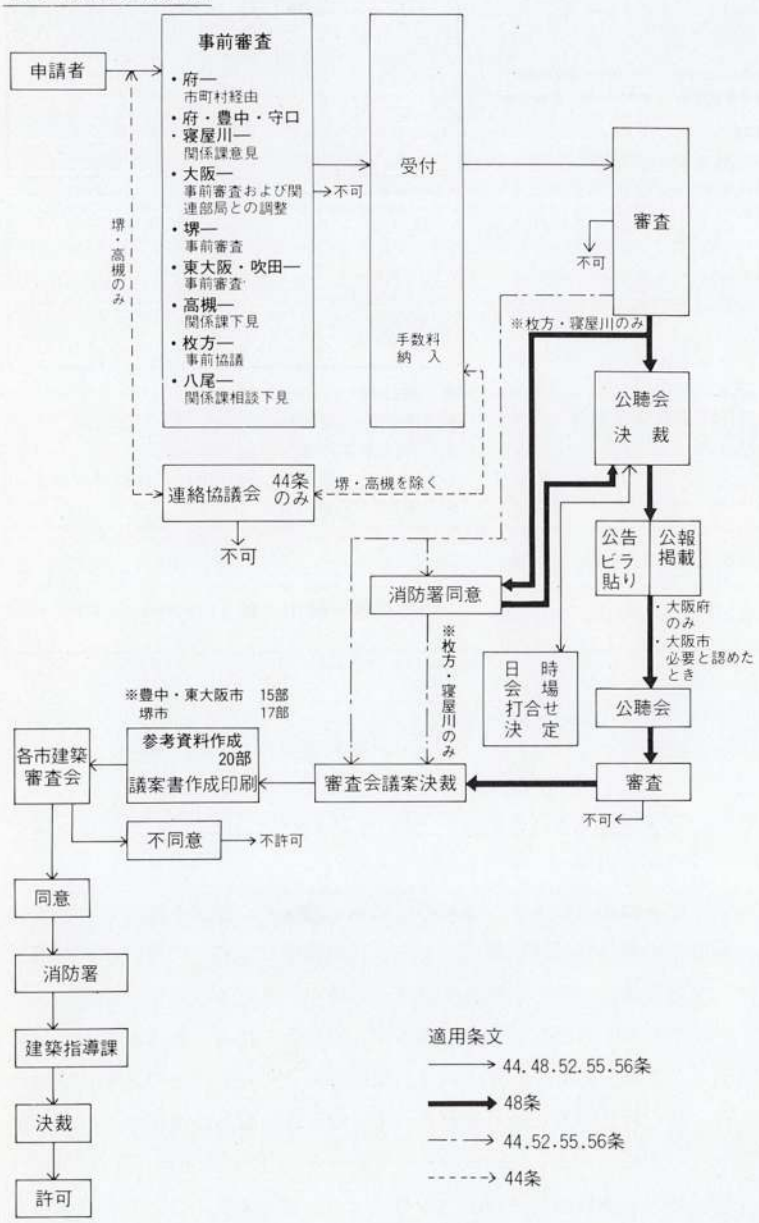
質疑などの投稿をお待ちしております。

115

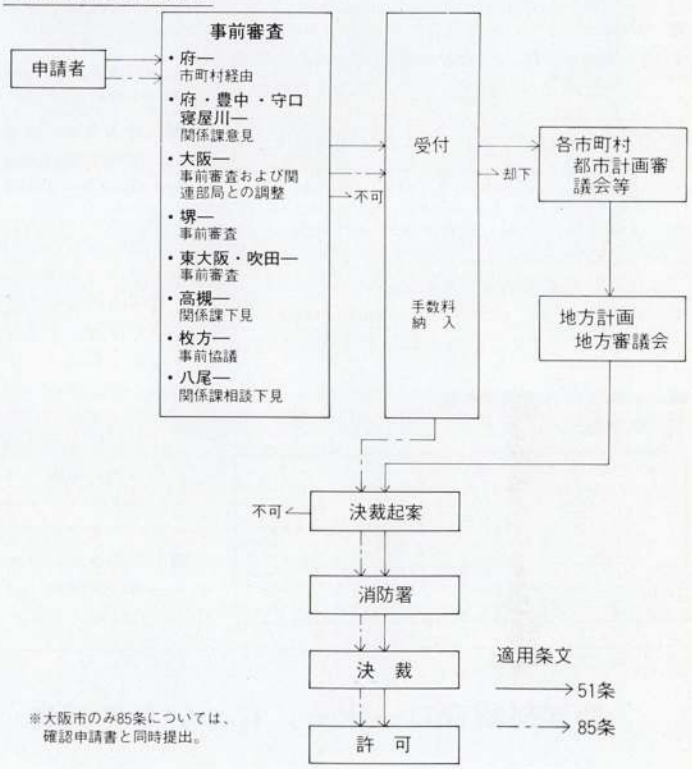
許可申請手順について　昭和52年5月現在

先月号の「確認申請書」の手順の紹介に引き続き、「許可申請書」の手順の概略を掲載し、各位の所管行政庁における事務運用の一助としたい。
詳細については、所管行政機関にお問い合わせ願いたい。（大阪府下特定行政庁）

許可申請書の手順（1）



許可申請書の手順（2）



日本建築協会建材委員会

新建材紹介コーナー

《新建材紹介　No. 27》

浸透性撥水防水塗料『タナックス』

田中石灰工業株式会社
本　社：〒780 高知市五台山3983 TEL 0888—83—2588
営業所：〒562 大阪府箕面市大字粟生外院7-280 TEL 0727—29—1518

今日、一般に外装材として使用されているコンクリート、PC板、モルタル、ブロック、石綿スレート、石綿けい酸カルシウム板、リシン、石造材等の無機多孔物質は、防水性がないこと、汚れがつき易いこと、劣化が激しいこと等の問題を有しているが、美観をそのまま残し、防水能力を与える浸透性撥水防水塗料『タナックス』をここに紹介する。

■ 特長

1) 汚れ防止：ほこりや泥が水と共に内部に浸透するのを防止し、ビル、住宅、建物等の外壁を汚れから守る。
2) 撥水防水効果：タナックスは塗布乾燥後、水が付着しても表面で水滴になり、水の内部浸透を防止する。
3) はなたれ（白華）防止：タナックスは水の内部への浸透を防止するので、コンクリート等のはなたれ現象の防止にも効果。
4) 持続性：タナックスは撥水性の強い非シリコン系樹脂であるので、性能は通常5年以上持続する。

■ 被施工物と標準塗布量

1) 標準型

被施工物	施工回数	塗布量 cc/㎡	塗布量 ㎡/ℓ
アクリルリシン	1～2回	200～300	3.5～5
モルタル	1～2回	250～350	3～4
PC板	1～2回	250～350	3～4
セメント瓦	1～2回	250～350	3～4
打ち放しコンクリート壁	1～2回	250～350	3～4
石綿スレート	1～2回	250～350	3～4
コンクリートブロック	2回	350～400	2.5～3

2) 強力型

被施工物	施工回数	塗布量 cc/㎡	塗布量 ㎡/ℓ
石綿スレート	2回	250～350	3～4
けい酸カルシウム板	2回	400～500	2～2.5
石造材	2回	400～500	2～2.5
ALC板	2回	400～500	2～2.5



モルタルにタナックス標準型塗布後



アクリルリシンにタナックス標準型塗布後



けい酸カルシウム板にタナックス強力型塗布後

■ 施工方法と注意事項

1) 被施工物の表面が乾燥していること。
2) タナックスを使用する前には、缶のままよく振ってとり出し、希釈しないでそのまま使用すること。
3) 塗布は表面から液が充分流れる程度全面に塗布すること。2度塗りの場合は施工間隔を充分置いて施工すること。
4) 施工器具はエアレス・スプレー、ローラー刷毛、刷毛等で行い、施工は気温5℃以上で使用すること。ただし、室内で施工中は換気に充分注意し、本剤は引火点が低い（約40℃）から火気には充分気をつけること。
5) 施工後3～4時間以内に雨等がかからないように注意すること。

■ モルタルにタナックスを塗布した吸水及び透水の試験例

1) 試験用モルタルの製作はJIS A 1404「建築用セメント防水剤の試験方法」に準じた。
2) タナックスを吸水試験においては全面、透水試験に片面を塗布した。塗布量は350cc/m²。塗布後11日室内放置。
3) 試験方法はJIS A 1404に準じて行った。ただし、透水試験においては圧力を100g/cm²とした。

	種類	供試体	1時間後 吸水量(g)	1時間後 吸水比	24時間後 吸水量(g)	24時間後 吸水比
吸水試験	プレーンモルタル	1	16.8	0.044	35.9	0.103
		2	17.8		36.7	
		3	13.4		35.2	
		平均	16.0		35.9	
	塗布モルタル	1	0.9		4.0	
		2	0.7		3.4	
		3	0.6		3.3	
		平均	0.7		3.7	

	種類	供試体	1時間後の透水量(g)	透水比
透水試験	プレーンモルタル	1	15.6	0.201
		2	14.4	
		3	14.8	
		平均	14.9	
	塗布モルタル	1	0.4	
		2	0.3	
		3	0.3	
		平均	0.3	

■ 用途

1) 建築物外壁の保護防水、汚れ防止。
2) 防波堤等の風化、塩害防止。
3) 寒冷地の建造物、高速道路の凍結破砕防止。
4) 床材の保護防水。

建材委員／藤川　慧（日本建築総合試験所研究員）

「新建材紹介コーナー」についての報告

建材委員長　山田　幸一（関西大学）

建材委員会の新しい企画として、「新建材紹介コーナー」が発足して本月で1年3ヵ月目、紹介した製品数も27に達し、本誌の中でこのコーナーの占める位置もようやく安定してきた。これもひとえに本欄に登場願ってご協力をいただいた各建材関連企業、わけても調査・執筆の労をわずらわせた委員各位の熱意の賜と感謝している。

本コーナー設定の趣旨は本誌1976年4月号で述べたが、要は新しく開発・発売された建材を商品名で採りあげ、機を失せず論評を加えて建築実務家の参考に供しようというものであった。なにぶん1ページ中に2テーマを詰め込むのであるから、余り詳細な紹介は望むべくもないが、各製品ともその特徴や使用上の注意、それに将来性といったところに重点をおいて執筆するように心掛けた。そして何よりもその内容が建材企業側からする宣伝・広告とは趣をまったく異にし、委員による忌憚ない意見の開陳を行うところにこの企画の新鮮さがあったと思っている。読者諸氏もこの点に特に注意してお読みいただけば幸いである。一方、既掲載の各企業に対しては、記事内容の当否や掲載の効果などに関し近くアンケート調査を行うことにしており、その結果もいずれ本誌上に報告するつもりである。

ところで、今まで本コーナーに登場した製品は委員の単なる思いつきで採りあげたものではなく、委員会の討議に付して掲載を決定したものばかりで、そのような篩にかけた以上、同種の製品の中で標準以下というようなものはよもや混っていないと確信している。その意味でここに載ったものは、実務家に安心して使っていただけるものばかりと断言してはばからない。ただ本コーナーを発足させてしみじみ感じたことであるが、委員会で掲載に価するものと判断しても、それを応諾される企業の意外と少ないことである。建材は星の数ほどあるにもかかわらず、月2点の製品の選定がこれほどまで困難であるとは思いもよらなかった。この点、企画に甘さがあり、特に日本建築協会のネームバリューに甘えすぎたことを委員長としては反省せざるを得ず、委員各位に余分の負担をかける結果になったことをお詫びしたい。幸いに今月までは友好団体である日本建材協会の協力も得て欠落なく本コーナーを埋めることができた。当委員会としては今後とも鋭意新建材の発掘に勉めるつもりであるが、なにぶんにも限られた委員の数では見落しも多いと思われるので読者諸氏からの積極的な情報の提供をお願いしたいし、また本コーナーに関するご批判・ご感想をお寄せいただきたいものである。

建築と社会 ニュース

ニュース原稿をお送りください。

第６回中之島まつり

今年で６回目を迎えた「中之島まつり」（中之島まつり実行委員会主催）は、５月３日から５日まで中之島公園一帯で行われた。あいにく４、５日の２日間は雨に見舞われたが、それでも“浪速っ子のフェスティバル”とあって、３日間で30万人の人々がくり出した。

今年のメーン・テーマは「創ろうひろっぱ!!　みつけよう大阪」。まつりは会場を６つの時代に分けて、それぞれのブロックにふさわしい生活様式、風俗を再現し趣好をこらしていた。

〈江戸〉ムシロで囲んだ丸太組の芝居小屋。中に入ると、ゴザに座って浪曲、奇術、落語、日舞、演劇の観賞。お茶席では女子大生がみごとなお点前を披露、また、遊びのコーナーとして矢場も設置され、これが子どもたちの人気のマトとなった。

〈明治〉ミニＳＬが、本物そっくりに煙をはきながら走りまわり、一回乗車料 300円の人力車が所狭しとかけまわる。緒方洪庵の適塾に習い、寺子屋ふうの書道教室では、子どもたちが日頃の腕前を発揮していた。

〈大正〉和服に白エプロンの女給さんがいるカフェーでは、アコーディオンの生演奏。ここの目玉商品は一杯 300円のカレーライス。手回しの蓄音機からは“ナツメロ”が流れ、５日には寮歌祭も行われた。

〈昭和・戦後〉焼け跡のヤミ市に古着屋、古道具屋が軒を並べる。雑炊、焼イモ、コロッケ…を販売する飲食物広場。竹馬、竹トンボ等のなつかしいおもちゃを子どもたちにつくらせ、それで遊ばせる。ここには“手づくりの味”があった。

〈現代〉屋外ステージでは、フォーク、ロック、コーラスグループの熱演。思わぬ飛び入りも加わって会場は最高潮。

〈未来〉タイムトンネルを抜けると、サンパのリズムが流れるこの広場。芝生ではのびのびと日光浴をきめこむカップル。淀川の生き物や植物を集めたコーナー、野草のテンプラや小魚の飴だき、つくしのつくだに等の自然食コーナー、ここは人と人とが調和する広場である。



建築物に附属する緑化施設の表彰

大阪市建築局建築指導部指導課は、昭和52年度第８回建築物に附属する優秀な緑化表彰施設を発表した。

ビル緑化表彰施設

区分	建築物	所有者・管理者	代表者
表彰状	日清食品ビル	日清食品	安藤百福
	ローレルハイツ大淀	スミトーハウジング	佐藤周作
感謝状	コープ・野村屋町	野村不動産	磯野萬亀男
	天王寺スカイハイツ	ファミリー	堀越治
	立正佼成会大阪善門館	立正佼成会	庭野公利
	エバーグリーン住吉	熊谷組大阪支店	早野晴彦
	シャトー鶴見	三菱住宅	東條克彦
	淀川製鋼大阪工場	淀川製鋼所	石毛千冬

ビル緑化・設計者表彰　（感謝状贈呈）

設計事務所名	設計者	設計建築物
大成建設大阪支店１級建築士事務所	中村銀之助	日清食品ビル
東海興業大阪支店１級建築士事務所	藤田　芳信	ローレルハイツ大淀
安井建築設計事務所	佐野　正一	コープ・野村屋町
長谷川工務店	西浦　正勝	天王寺スカイハイツ
浅高組１級建築士事務所	七尾　健三	立正佼成会大阪善門館
前美設計	中原　英雄	シャトー鶴見

※　設計者は建築確認申請の設計者とする。
※　自社ビルの設計者は対象外とする。



▲日清食品ビル

▼ローレルハイツ大淀



樹の話シリーズ・32

モリシマアカシア　Acacia mollissima Willd

まめ科

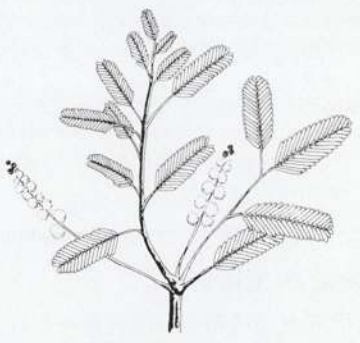
本シリーズの21回目でニセアカシアについて紹介したが、今回はホンモノのアカシア属の一つ、モリシマアカシアとその仲間について書いてみたい。

日本ではアカシアと言えば円い葉で白いえんどう豆のような花の咲く樹を思いうかべ、アカシアの並木道は札幌のロマンを唄い、アカシアの雨が止むと恋が終る。だが、植物学の分類とは無粋なもので、これらのアカシアは学名で Robinia Pseudo - Acacia と記すように文字どおりニセアカシアのことである。ニセアカシアの並木道にはペテン師が横行し、ニセアカシアの雨が降ろうが降るまいが愛なんて芽生えてきそうにもない。やはりアカシアだからこそロマンを語れるのである。

では本物のアカシアとは何であろうか。それは熱帯地方が原産地で約 500種あり、そのうち約 400種がオーストラリア産であり、ユーカリと並んで同国の代表樹である。1800年代にヨーロッパに渡り、日本には約15種類ぐらいが明治年間に渡来している。この仲間の共通点は葉がシダの葉に似た羽状複葉（図参照）で、花は黄色で球形のものが穂状に集合して咲き、芳香がある。日本ではモリシマアカシアが最も多く普及しており、樹高10m程度の常緑高木で樹肌はザラつき、葉はダークグリーンの大形の羽状複葉、裏面は少し白味を帯びて小葉は夜になると併合して閉じ眠てしまう。花は黄色で穂状につき６月に開く。この樹皮にはタンニンが含まれており、皮ナメシ用に多く植林されたという。熱帯性なので関東南部が北限で、潮風に抵抗力があるので防潮、防砂用に植栽されている。陽樹で生長が早く、萌芽力があるので都市内では適度に剪定しないと枝葉が繁茂しすぎて重くなり、台風時には倒木の危険性があり、また過度に剪定すると枯死する心配もあってなかなか手間のかかる樹である。移植は寒冷期を避けなければならない。この他で造園用としてよく使われるのはフサアカシア（ハナアカシア）ギンヨウアカシア、メラノキシロン（ヤナギバアカシア）等がある。分布、形状、性質ともモリシマアカシアとほとんど同じだが、花の咲く時期が２～３月である。最近は特にフサアカシアが多く使われており、千里ニュータウンなどでは早春に甘い香りを放って黄色の花が咲きほこる。大阪市内では東成区の神路公園にアカシアの花木公園が整備されている。増殖は実生で、この樹のある公園などではサヤから種子が飛び散り、周りに苗がたくさん芽生えているのをよく見かける。

ところで、ニセアカシアにアカシアの名を取られたので、本物のこれらのアカシアは一体何と呼ばれたのか。ホンモノアカシア？ホンケアカシア？いや、これらのアカシアをミモザと呼んで、ヨーロッパ風の香りをこの樹に託したのである。

（森下記）





読者の頁

今回「読者の頁」では、去る1月号で実施した本会誌「建築と社会」についてのアンケートの中で、最近とくに関心をおもちの問題・ご意見を書いていただきましたが、その主なものを元文どおり掲載しました。なお、お名前は匿名とし、あとは年齢、専門職種にとどめました。《投稿欄小委員会》

T・N　27才　構造

①〔読者コーナー〕会員間の意見発表でなく、雑多の問題（例えば新聞の類似した読者コーナーの様なもの）を処理する欄があれば良いのではと思う時もあります。②意匠の作品発表ばかりでなく、構造の作品発表、もっと範囲を広げて土木技術者等の作品発表もしてみたら、いかがですか。

T・K　22才　学生

最近「用地コンサルタント」というものが用地買収をするにあたって検討されているらしいが、どういうものか誌上で紹介してほしいと思います。また「日経アーキテクチュア」という雑誌に「木造住宅見積り表示の新視点」という記事が載っていましたが、こういう特集（積算に関する）をしてほしいと思う。

S・K　40才　広報

建築協会主催見学会は、当社の広報誌の資料収集に役立つので、本年は積極的に利用させて頂きます。

T・I　26才　公務員

建築家なしの集住体の実態、高度成長期をかわきりに住宅政策における民間の手による多住戸マンション、また、連続住宅がどんどん郊外に建設されました。現在において、そこで生活しておられる人々の生活感、また、集住体とは何かを世論よりレポートし、これからの住宅政策において、どのような基本概念をもち、設計していくことが良いのかを考えるべきだと再度思います。それは理論のみで追求するのではなく、一般世論を通し実感としての感想を掲載していくべきです。きっと今までの建築家と呼ばれる人々の考えとは違った面もあらわれると思います。

M・N　29才　設計

都市形成のアプローチとしての建築は、人間をマスとしてしかとらえていない。人間をもっと大事にした視点からの都市作りをめざしていきたい。

T・F　44才　行政

1.文部省関係の単価（学校建設の補助単価）および近畿地区の建設単価（公表できる範囲で良い）。
2.警察庁関係の設計基準内容および警察署設置に伴う指導要領。
3.「建築の眼」は興味深く読んでおりますが、建築家以外の人の建築に対する要望等の欄もあっては如何（例えば家を建てられた人、ビル経営者、作家、学校の先生etc.）。

K・S　45才　設計

1.本棚から出す場合、整理された目録が1月か、12月号に出ていると、雑誌としての利用がたいへん効果的でありますので希望したい。(12月号に総目録が出ております＝編集）
2.建物紹介には、できるだけ平面図を多くのせてほしい。

F・K　22才　学生

私は残念ながら、この雑誌を最近知ったばかりです。これから読んでいこうと思うのですが、通信販売はしていないのですか。

40才　施工

スケッチブックの拡充を希望します。

T・A　28才　設計

建築界に根強く流れている表現の単純性（シンプリズム）について、私なりに研究していますが、諸先生方の意見も聞きたいと思っております。

J・N　28才　都市計画、設計、造園

建築（都市を含む）の技術の進歩には著しいものがある。理論、計画、デザイン、工法のどれをとっても、その内容は高度にしかも複雑化している。しかし、それらをつなぐソフトな学問が、前記のハードな部分の進み方についていっていないのではないか。そういう意味で建築協会の進み方はユニークで好ましい。もっと人間のための建築（都市）はいかにあるべきかを進めてほしい。ただ残念なのは、情報（特に作品集等）が関西を中心にしてあるので、すぐれたものは日本・世界を問わず、例え少しでも良いから載せてほしい。

J・W　19才　学生

作品作風・新建築の欄をもっとふやしてカラー写真にしてもらいたい。

R・S　62才　設計

「建築と社会」の封筒の隅がよく破れて届くからもう少し丈夫な紙が使えないか。
法令コーナー、新建材紹介コーナー、構造の頁、施工材料の頁、設備の頁、樹の話シリーズなど、シリーズものぐらいは奇数頁から始めて貰えば、整理ファイルするのに便利です。何とか考えて貰えないでしょうか。

K・Y　18才　学生

今後の建築関係各事務所の展開と新卒業生の就職問題、大・中・小企業、コンサルタント、学校の先生の一言。

H・T　39才　都市計画

特集記事の内容をもう少しページをさいて下さい。サワリだけの感じがします。住宅のもつ社会性は極めて大です。30年代に建設された木質、文化、建売の問題、最近のこれに類似したミニ開発、低質マンション等、多角面から取り上げ、人間環境としての住宅のあり方を追求してはいかがでしょうか？

E・O　55才　都市計画、設備

1.朝食会に加入したい。
2.会費に比し、内容は充実している。
3.高層建築・地下街の防災・震災時のテクノロジーアセスメント。
4.テクノロジーアセスメント、または環境アセスメントの手法の講習会に、アタックのチーム編成。
5.高層建築物の溶接不良の問題、ボイラー溶接士の技能検定などのような建築溶接に対する品質保証の問題など。

43才　行政

以前、無料だった見学会が最近は有料になりましたが、資料代としてはやや高価な場合があります。

T・S　63才　構造

1.「建築と社会」の製本が針がねで綴じられており不便!!のり付けにすれば、必要な箇所をスクラップするのに非常に便利ですから、是非のり付けに変えていただきたい。
2.昨年の12月号“建築と設備の施工上での接点の問題”等は是非スクラップしたい良い記事です。また同号の座談会は最低。
3.青年技術者は中止されたし。理由は採用されん為に推せん者の造言が多いと思われる。
4.本年1月号デザインの動向一部分と全体の座談会、アンケートとも面白くない記事である。

T・O　30才　施工

話題の建築家等の専門外の随筆などがおもしろい。

M・M　36才　設計

低成長経済下での建設界、難問の山積。一部の恵まれた巨大資本の建設会社や設計事務所を除き、経営、人事等で悩み多く、広きにわたる中小ゼネコン、サブコン、事務所の問題をじっくり取り上げて欲しい。記事そのものがダイジェスト的になるのは、ある程度止むをえないとしても、羅列で終わって個性を失う手はあるまい。
最近、関心を寄せること、マネージメント、コンストラクション（M・C）なり。

〔私たちのグループNo.9〕

『阪神電鉄 美術班』

—自己をみつめ創造の拡大をめざして—

美術班の創設は古く、昭和30年頃ということを聞いている。当時は班員が30名近くもいて、ヌードモデルなども使い、10年近く活発な活動をしていたそうであるが、班員の年齢の老化などに伴い、最近では活動らしきことはほとんどできない状態であった。

しかし、昨年頃から若手も少数ながら増え「定期的に活動していく中で自分をみつめ、創造するよろこびをともに分かちあえるような美術班にしていこう」という声が高まってきた。そんな中で、昨年7月から毎週金曜日に絵の好きな仲間5人ぐらいで仕事を終えてからの活動が始まった。

活動内容は、デッサンと油絵（人物写生）を基本にし、そのほかに野外写生会や美術作品の鑑賞会、会社で行われる秋の総合文化展への出品、夏の合宿などがある。これまでにも、写生会やゴッホ展の見学などを行い、班員以外の人も多数集まり、なかなかの評判であった。秋の総合文化展では、日頃の活動が実り出品作品も増えて、本当の意味での日頃の活動を発表する場となったことは、ひとつの成果であったと思う。

現在では班員も増え、ほとんどが本社勤務で、土木、建築、総務、経理、電子計算部といろいろな職場から集まっている。欲を言えば、もっと本社以外の現場の人の参加も望んでいる。班員はほとんどが初心者で、初めはてこずっていたが、班長の指導により絵を描くうえで基本となるデッサンをやってきたせいか、皆なかなかの上達ぶりである。練習時間は午後5時半から8時までの2時間半で、会社の厚生施設である美術室は、ちょっと狭いせいか窮屈ではあるが、私たちの格好のアトリエである。モデルを使っての人物写生では、それぞれ独自の世界がキャンバスの中に描かれていく。部屋の空気は静止し、時間は止まる！　我にかえって時計を見るともう8時である。最近「時間」という流れの早さに驚かされることが多い。

このような雰囲気を回りの青年たちに広め、文化的な面でのイニシアチブをとっていけるような活動ができたらと考えている。とはいえ、活動の内容や会費の利用、場所のことなど、さまざまな問題が残っており、まだまだ安心できない状態ではあるが、班員皆で協力して美術班を発展させていきたいと思っている。　文責　福崎敏秋



美術室での活動風景

すべての子どもに水と土と太陽と そして仲間たちを!!

—いづみ保育園企画にあたり—

合同設計　平野憲司、内海　豊

これは長い苦難をのりこえ、いづみ保育園を生みだした、働きたい、働かねばならない、お母さんたちが願いをこめて唄いあげた、キャッチフレーズです。

いづみ保育園は堺市の新金岡団地で10年間にわたって共同保育所を作り、ねばり強く苦難に満ちた運動を続けてこられたお母さんたち、保母さんたちの血のにじむような努力が、地域の多くの人達や大阪保育運動連絡会など多くの人々に支えられて生みだされた保育所です。このようにして生れたいづみ保育園には４つの運動目標があります。

１．子どもの生活と豊かな発達を保障する。
２．働く婦人の生活と権利を保障する。
３．保育者集団の生活と権利を保障し安心して働ける職場であること。
４．地域に開かれた保育所であること。

以上のような運動目標をかかげた、いづみ保育園建設の先進的な運動実践は、保育所づくりの新しいモデルケースとして、各方面から期待と注目を集め、また苦しい保育運動を実践している多くの仲間たちに、大きな希望を与えています。

私たちは設計にあたって、この運動目標に応えられる建築技術者でありたいと願い、いづみ保育園の方々と、また、大保連施設部会の保母さんたちや、これに参加する新建の技術者の皆さんと徹底した話合いを軸に設計を進めました。



南西側からみた外観

どのような保育を目ざすのか、またその保育を助け保障する施設はどうあるべきか、つまり保育内容と施設の関わりについて、また、たいへんな保育労働を軽減し安心して働ける施設はどうあるべきか。そして地域の人達の力によって生みだされたいづみ保育園では、保育所と地域の関わりはどうあるべきか、など大きくは保育所の社会的役割、ありかたの問題から、小さくは棚、流しなど設備の寸法、ディテールにいたるまで時間を忘れ徹底して話合うなかで、一つ一つの問題を解決してきました。また認識のズレをなくすうえで、見学会や多くのスケッチを書いたことが大いに役立ったと思います。

このような取組みのなかから、敷地が狭いゆえにさけられなかった２階建の問題を吹抜とゆったりした階段で克服し、子どもたちの豊かな発達にとって重要な食事について話合うなかから食堂の設置が、保育者の健康を守り円滑な保育者集団の形成を願ってシャワー室を備えた休憩室が、また父母と保育者の協力を話合うなかからゆったりしたベンチのある玄関ホールが、というように種々の特徴が導きだされ、いくつかの困難を共に克服しつつ実現にこぎつけることができました。

このようにしていづみ保育園の設計監理を行うなかで、徹底して話合うことによって、ズレをなくし共通の認識を持つことが「目的に合ったもの」をつくるうえでいかに重要か!!を学びました。このことは園長、清水住子先生の言葉から充分にくみとれます。

『はじめ、私は建築の人には、せいぜい注文をつけて保育しやすい建物を建ててもらえばよいと思っていました。

ところがいづみ保育園の設計監理を合同設計の方々にしていただき、いろいろと話合うなかで、私の考えは間違いであることがわかりました。一つの建物を建てることは、それを利用する人と建築家との共同の創造であることを知りました。

「人間社会のよりよい生活の場づくり」を「建築」も「保育」も追求すべき課題としているのではないでしょうか。それゆえに私たちの夢は限りなく広がります。そしてそれを現実に移そうとする時、今の世に生きている生きざまをそのまま映す形でしか実現できないことも共通の悩みです。求めてやまない「よりよい生活の場づくり」をきびしい現実にどうからませるか、どこに理想へつながる布石を打つかがそれぞれの仕事の要です。

ここに「建築」と「保育」という異ったジャンルでありながら、対等の立場で保育園をつくり上げる喜びがあると思います。』

◇　　◇　　◇

いづみ保育園の設計について

私たちは、いづみ保育園の４つの運動目標に応えられる技術者たり得るため、次のことを私たちの克服すべき課題として取組みました。

１．子どもたちに豊かな生活空間をつくる。
２．保育者が働きやすい施設をつくる。
３．地域のコミュニティーセンターたり得る施設をつくる。

以上の３点を敷地が狭いハンディーを背負うなかで、いかに安く質の高いものに結晶させるか、建築技術者にとって魅力あるテーマです。

１．子どもたちに豊かな生活空間を!!

子どもたちは集団の中で多くの人々と楽しく遊び交流するなかで豊かに成長します。「食べる」こと「遊ぶ」ことが子どもたちの生活の中心です。

その生活の中で子どもたちの多様な交流をいかに可能にするかを重視し、その中核をなす食堂、遊戯ホールを中央部に置き、それらを取り囲むように保育室を配置しました。吹抜とゆったりした階段を設けることによって遊戯ホールと保育室を、同時に１階と２階を楽しくつなぎ、遊びと交流の中心としての遊戯ホールを構成し、同時に敷地が狭いことに起因する２階建のハンディーを克服しました。



遊戯ホール（１F）

また食堂は２才から５才までの子どもたちが交流しながら楽しく食べられる広さを確保し、同時に調理室に隣接させ、調理の人と交流することによって、つくる苦労を知るとともに調理の人は食欲旺盛な子どもたちを見て働く喜びを感じてほしい、こんな願いをこめてつくりました。保育室は、明るく快適な環境を求めて天窓を設け、室内の均質な明るさと日照を確保し、地窓と合わせて通風をよくしました。

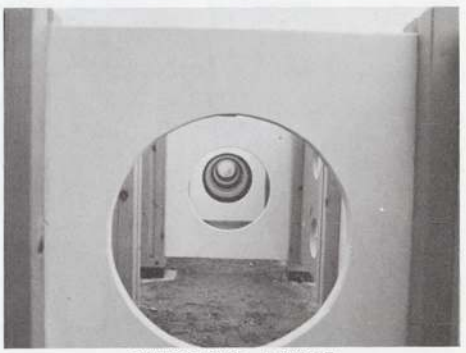
また子どもの集団の声はたいへんな反響を起こします。これをやわらげ静かな環境と暖かい雰囲気を確保するため、米松羽目板で壁を構成し、天井はコンクリートスラブにネオパールスキン吹付けを採用しました。

保育室と食堂は頭寒足熱の理にかなった床暖房を保育所に最も適した暖房方式であると、確信を持って採用しました。

また保育所では子どもの安全を確保することが重要です。柱や壁のコーナーに丸みを持たせたり、サッシュでの指詰対策を考えるなど危険を取り除く努力をしました。

０才、１才保育室は静かな環境と接地性を重視し、独自の園庭を確保し平屋建としました。幼児用園庭では子どもたちが親しみを持って遊べるよう変化に富んだ木製遊具を設計しました。

これから始まる保育のなかで私たちの意図がどのように生かされ、また、子どもたちが、どのような遊びを発見してくれるか期待をかけています。



木製遊具を使った遊び場

２．保育者に働きやすい職場を!!

保育者の労働は大変なものです。これまで、保育労働を軽減したり、労働環境を整備する視点での施設づくりは充分に進んでいません。いづみ保育園では保育者の休憩と交流の場を確保するためシャワー室を備えた休憩室を設けました。また食堂の設置や床暖房の採用などによって、作業量を少くしたり、作業動作に合った寸法の採用など、保育者の健康を守り働きやすい職場としての施設づくりに努力しました。

３．地域に開かれた保育所を!!

保育は父母と保育者と地域の密接な協力が必要です。いづみ保育園は日常的な交流ができるように、ゆったりとしたベンチのある玄関ホールを設けました。また食堂、遊戯ホールが、地域の人々に活用され、地域のセンターになってほしいと願っていましたところ、竣工祝賀会では私たちの意図した通りの利用がすばらしい雰囲気のなかで行われました。



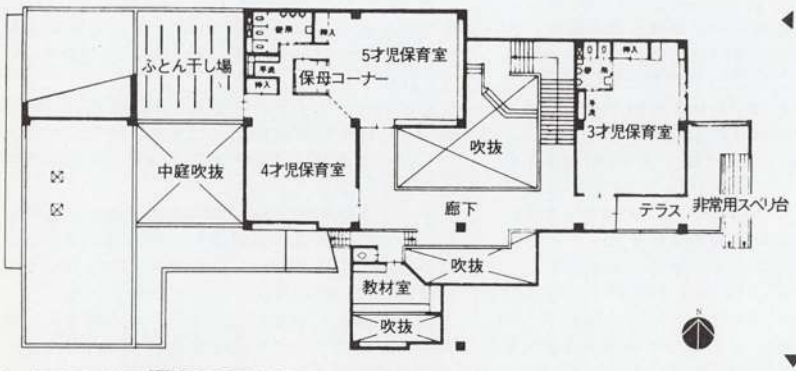
地域の人々に開かれた遊戯ホール

以上の私たちの努力は、使ってみて初めて評価できるものです。一年後には、建設に関わったもので、ぜひ検討会を開きたいと思います。最後に私たちがいづみ保育園の設計監理を行うにあたって多大な御指導とあたたかい励ましをいただきました、大保連事務局長、横田昌子さんをはじめ、施設部会会に参加する保母さんたちと新建メンバーの皆さんに心よりお礼を申し上げます。

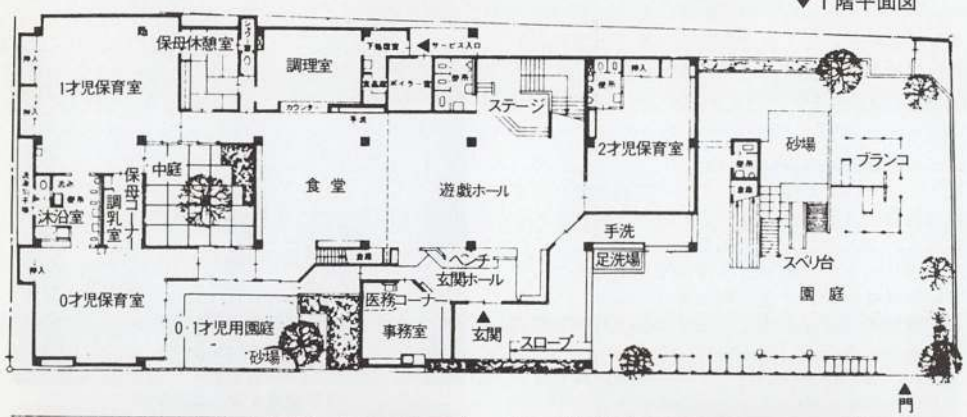
いづみ保育園

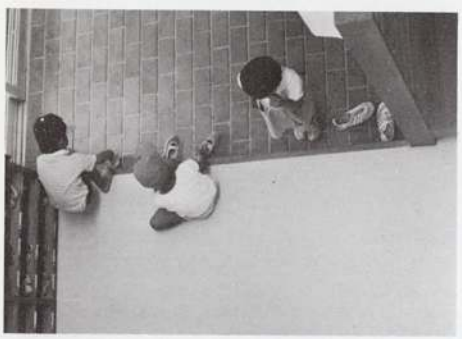
設計監理　合同設計
施　　工　清水建設
所 在 地　大阪府堺市新金岡町４丁６－１
敷地面積　991.73㎡
建築面積　541.70㎡
延 面 積　734.47㎡
構造規模　ＲＣ、２Ｆ
工　　期　昭和51年10月～昭和52年３月

◀２階平面図



▼１階平面図

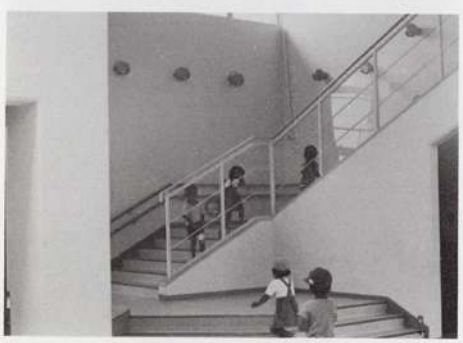


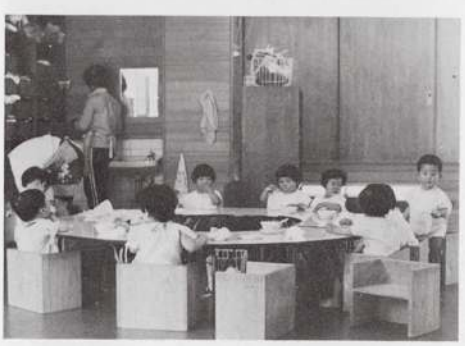












昭和51年度・第10回若い会員の集い

建築家に話を聞く(5)

漆原美代子の インテリア・アーキテクチュア レポート

若い会員のつどいの第10回企画としてインテリア・デザイナーである漆原美代子さんを大阪に迎え、「漆原美代子のインテリア・アーキテクチュア」と題して約３時間に亙る講演（うち２時間はスライド使用）を願った。参加者は70人で、女性講演者ということもあってか、女性の参加者もかなり見うけることができた。

講演では、漆原さんの豊富な欧米での生活体験にもとづいたエピソードとスライドを交じえて、インテリア・デザイナーあるいは、建築家としての立場から、日常の生活環境・都市環境等を総合した概念としての今日の文化に対する考え方――あるいは警鐘として受け取った方がより正確であろう――が中心テーマとなった。テーマを一言で要約すれば、戦後日本の〝近代主義〟によって生み出された文化は「かた」なしの文化といえ、デザイナー、建築家は、その失われた「かた」の文化の再興につとめる、あるいは寄与すべきだということである。

「かた」という言葉は、一般的には「かたにはまる」とか「かたにとらわれる」とかいう使われ方をすることが多く、その言葉はむしろ否定されるべき内容を伴う場合が多いが、その言葉の裏がえしとして、「自由」という旗印のもとに生活・思想等の中から基本的な「かた」が忘れられているのではないかと漆原さんは問いかける。

言葉をかえればこうなる。戦前の日本の都市環境は、たとえば建築の分野に限ってみても、材料の制約があり、それがあったからこそ、ある種の洗練が可能であった。つまり「かた」がつくりやすかった。ところが戦後の〝近代主義〟は欧米の文化を移入することにやっきとなったわけだが、そこで





は文化の「かた」を学ぶことなく、文化の要素だけを取り入れただけで、"思想"を例にしても、それをただ風俗現象としてとらえられがちであった。そこには明日の都市生活を営むうえでの「かた」が忘れられているのではないか。

では講演のキー・ワードとなった「かた」とは一体何か。漆原さんは最後まで「かた」とは何かをとくに取り上げて定義づけることはしなかった。それが何であるかは、参加者自身に考えてもらおうということであろうか。

漆原さんのあげた「かた」の具体例を一つ紹介してみよう。

都市環境の悪化が各方面で言われて久しいが、欧米では、幼児の頃から「都市生活のかた」として「環境をきたなくしてはいけない」という考え方がイン・プットされており、それが欧米の公共意識を高め、より良い環境を形成する基礎となっている。ところが日本ではそのような「都市生活のかた」が形成されていないため、基本的なところ――環境の美的なことに関して――で醜さに対する寛大さ（ルーズさということであろう）、美に対する鈍感さがある。これでは好ましい都市環境が形成されるはずはないという。

ここで「かた」という言葉を私なりに別の言葉で表現してみるならば、「文化に裏打ちされ確固とした精神構造から発し、しかもコンセンサスを得た、生活に対する基本的な価値判断基準」とでもいえようか。

日本の建築家、デザイナーは往々にして自己顕示的で、威圧的な精神構造を持つ場合が多いが、そこには都市的な、全体的な美しさに調和する論理・指向が、あまりにも欠落していると指摘し、美的環境づくりの最も身近に位置する建築家、デザイナーが「都市生活のかた」づくりにより積極的に寄与することを漆原さんは訴えているのである。

さまざまなエピソード、スライドを用いて、デザイナーの目からみた生活の「かた」について例が示され、参加者も充実した擬似体験の時間が持てたのではあるまいか。しかし、その例の豊富さ、バラエティーゆえに、逆に講演の主旨が若干伝わりにくいところもあったのではないかという危惧が私には残ったのだが、さてほかの人々はいかがなものであったか？

（三好庸隆　市浦都市開発建築コンサルタンツ　記）

漆原さんといろいろ企画打合せをしていたとき、一番に会場の照明（あかり）についての強い要望が出された。「蛍光灯の下で長時間話したり、聞いたりすることは苦痛であるのに建築家は無神経だ」……と。そこで担当委員の努力によりヤマギワ電気㈱殿の特別のご厚意で当日は白熱灯のスタンドを数個拝借することができました（写真参照）。またコラムデザインセンターの宮後浩氏にも多大のご協力をいただきました。誌上より厚くお礼申しあげます。

小さいが執拗な目

竹氏宏和

漆原さんの講演を初めて聴いた印象では、決して論理的に際立ったものを持っているわけではなく、むしろ直感的で、断片的な、日常の会話を楽しんでおられるようなところが感じられた。どちらかと言えば良家の教養ある美しい奥様のとりとめないおしゃべりを聴いているような快さがあった。これは漆原さんの市井での人気や知名度とは裏腹なところにある、実際の仕事振りの地味さを感じさせていて面白い。

というのは漆原さんの場合、作品や論評を華々しく発表してジャーナリズムを騒がせている人気作家とは対称的な位置にあると私は日頃から思っていたからである。もちろん学究的生活を送っておられる様子でもない。

漆原さん自らが語られていたように、家庭雑誌や婦人向雑誌の中で、自分のデザイン思想を説き続けてこられた根気の良い、地道なデザイン活動が本意なのだろう。日常性の中にこそ、漆原さんの思想の顕現を見い出すことができるということが講話を聴くに及んでいよいよ明白となった。

私にとっては、大変脱線の多い飛躍しすぎたり思い迷ったりしたこの講演は、漆原さんならではの講演形式であり、興味深く示唆に富んだものであった。

ただ残念に思えたことは漆原さんが余り大阪をご存知ないようす（一方的解釈になるかも知れぬが）、大阪的事象に馴じめぬような体質的な相違からくる縁遠さみたいな、何かしらじらしい印象があったことである。漆原さんの強調されていたヴァナキュラリティを重視するデザイン理念とは少しくすれ違いを見せていることである。とは言え



こちらがどのような忖度をしようが、強い印象を与えていったひとつの真実をくつがえすものではない。

日本人の生活の型やそこに生じる美的感覚がいつの間にか喪失され、とめどなく人間不在への道を走っていくことに対する警告を、抽象的概念として説くのではなく日常繰り返される生活の中のさまざまな現象面で把え、現実感をもたせている点はさすがである。身近なものに対する、したたかな目を養うことの重要さを説く漆原さんの熱のこもった口調は、まるで現在の辻説法のように執拗で、根強い説得力を持っている。

生活の節々にまつわる事象を女性的な、繊細な神経でひとつひとつ掘り起こしていく丹念さ、そして決して諦めずに執拗に反復する信念のようなものこそ漆原さんの思想であり、私達がもう一度掌中に取り戻したいデザインの原点であろう。

漆原さんの話はたびたび脱線したが、これは大変意味深い嘆息によるものであるかもしれない。海外生活の長い漆原さんは、日本の現代文化の混迷をより多くの次元で見抜いているのだろうが、時たまデザインの話の合間にそれが言葉とならず嘆息の形で表れてくるのは面白かった。

すきのない、論理を一気に展開させるプロの鮮やかさはなかったが、拙々として素人ぽい講演がかえって生活臭をあらわにし親近感と現実性を印象づけたとは皮肉ではあるが、講演が成功した要因であったと思う。

再度、来阪されることを望む。　（竹中工務店）

講演後の３人の会話

T・O・Y

「漆原美代子さんの講演を聞いてどうだった？」

「あの照明の話が印象に残っているの。あれは、一理あると思うし、おもしろい話だったわ。人の気がつかない照明に対しての心使いって必要だと思う。一般に明るい照明に慣れすぎているんじゃないかしら。」

「でも私は場所によって違うと思うの。たとえば螢光灯の話でも、電車の中だと本を読む人もいるし、時と場合によってでしょ。彼女の話だと、どこもかしこも同じようにしなさいって感じがしたの。」

「それとよく似たことだけど、ヨーロッパのいなか町の色の話とか、タヒチのヨットの色の話が出てたね。あれだけ聞いていると、表面的によかった、悪かったってことしか私にはわからないのね。ほんとうは、もっといろんな話があるはずだ思うんだけど……。」

「そう、私は、町の中にどこにでも教会があるって話なんて、人間の生き方の本質みたいなものを感じたの。彼女の考える歴史の流れとか、生活、思想のようなものを少し見たような気がするのよ。」

「でも、本質は雲にまかれてしまったみたい。」

「彼女の感じたこと、考えることが、講演の中では、はっきりつかめなかった。」

「たとえば、最初"かた"の話をしていたけど、あの話についても、昔の生活様式を考え直そうなどと言ってるだけで、評論家的立場でしか話していなくて、それを自分がどういうふうに仕事にとり込んでいくかという話がなかった、それが私には、不満に感じたの。モノをつくる人として一言何か聞きたかったって感じ。」

「感覚的な話が多かったわね。」

「彼女の感受性はすばらしいね。だから、講演形式でなくって、少人数でディスカッション風にした方が、彼女の良さがでたのじゃないかしら。」

「漆原美代子さんの別荘に行って、暖炉の前で、お酒でも飲んで、話をしたいわ！」

（生活環境文化研究所）

日　時	昭和52年３月26日（土）	
	開場13：00　開会13：30→閉会17：30	
会　場	関西電力㈱大阪南サービスセンター・1階・集会室	
ゲスト	漆原美代子氏（漆原美代子事務所　主宰）	
参加者	70名	
スケジュール		
13：30	開会のあいさつ	瀬戸本　主査
13：40→14：30	講　　演	漆原美代子氏
14：40→16：30	スライド	〃
16：30→17：20	質疑応答	
17：30	閉　　会	

■写真と概要をどしどしお送り下さい。
凡例：a. 所在地　b. 敷地面積　c. 建築面積　d. 延面積　e. 構造規模　f. 工期



1261　福知山市総合福祉会館

設計：㈱日新プラン
施工：㈱松村組
a. 福知山市字内記地内
b. 1,792.51㎡
c. 633.26㎡
d. 1,874.69㎡
e. RC、3F、P2
f. 昭和50年9月～昭和51年3月



1262　愛知県保養福祉センター(老人休養ホーム永和荘・老人ホーム佐屋寮)

設計：愛知県建築部、㈱東海設計
施工：六合建設㈱
a. 愛知県海部郡佐屋町大字大井字浦田面地内
b. 47,344㎡
c. 永和荘 2,559.839㎡、佐屋寮2,330.05㎡
d. 永和荘 3,845.009㎡、佐屋寮2,330.05㎡
e. 永和荘RC、屋根S、2F、佐屋寮RC壁式、1F
f. 昭和49年12月 ～ 昭和51年2月



1263　財団法人結核予防会大阪病院

設計：㈱大林組
施工：㈱大林組
a. 大阪府寝屋川市寝屋2367
b. 13,437.97㎡
c. 2,974.00㎡
d. 10,764.66㎡
e. SRC、B1、6F、P1
f. 昭和50年6月～昭和51年8月



1264　友生西養護学校校舎等

設計：神戸市住宅局学校建設課
㈱東畑建築事務所
施工：大日本土木㈱大阪支店
a. 神戸市垂水区旭ヶ丘2－66－7
b. 6,200㎡
c. 2,012㎡
d. 5,008㎡
e. RC、4F、P1
f. 昭和50年4月～昭和51年3月



1265　大阪府立身体障害者母子福祉会館

設計：㈱小河建築設計事務所
施工：㈱竹中工務店
a. 大阪市東区谷町5－21－1
b. 640.40㎡
c. 492.35㎡
d. 2,295.31㎡
e. RC、B1、7F
f. 昭和50年6月～昭和52年3月



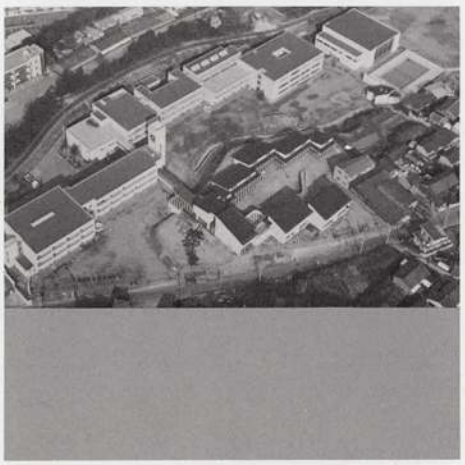
1266　社会福祉法人京都博愛会病院精神病棟

設計：日本セメント㈱イトン事業本部
施工：清水建設㈱大阪支店
a. 京都市北区上賀茂ケシ山1
b. ――――
c. 847.526㎡
d. 2,669.459㎡
e. サーモコン造、3F
f. 昭和50年12月～昭和51年9月



1267　阪神相互銀行淡路保養所

設計：竹中設計事務所、淡路土建
施工：淡路土建
a. 洲本市中川原町厚浜
b. 1,814.69㎡
c. 522.70㎡
d. 1,305.80㎡
e. RC、4F、P1
f. 昭和50年10月～昭和51年6月



1268　大阪府立堺聾学校

設計：㈱日建設計
施工：㈱榎並工務店、池田・村本建設JV
a. 堺市百舌鳥陵南西之町1丁
b. 32,966.31㎡
c. 6,117.96㎡
d. 11,925.19㎡
e. RC、3F、幼稚園部は1Fおよび2F
f. 昭和49年9月～昭和51年8月



1269　社団法人水口病院病棟

設計：㈱銭高組一級建築士事務所
施工：㈱銭高組
a. 滋賀県甲賀郡水口町本町2－2－43
b. 17,856.125㎡
c. 782.670㎡
d. 2,114.960㎡
e. RC、3F、P1
f. 昭和51年4月～昭和51年11月

建築の眼

前庭、生垣、ポーチ、門

住戸のプライバシィを確保することと、住戸から園地・廊下・街路をなにげなく監視できるようにすることは矛盾する場合がある。公的団地では住棟間に距離をとる手法で、廊下式住棟や狭い敷地に建つ「前衛的」住宅作品では住戸・住宅の正面をメクラにする手法で、前者を充足し後者を無視している。このような手法で建設される住環境とくに面的高層住宅団地は、犯罪を受けやすく、恐怖感でいっぱいのところになってしまう。

両者の要求を矛盾なく両立させるために再評価すべきは、町家の格子、スダレ、生垣などの「外は見えるが内は見られない」伝統的な視線制御の手法であろう。もし廊下式の住戸と廊下が「前庭、生垣、ポーチ、門」を介して結合されたならば、プライバシィは確保されるとともに、あの刑務所然としたイメージはなくなり、自然な監視のきいたものになろう。また廊下サイドの居室は開放的になり、住戸全体はクロス・ベンチレーションがきいて居住性は大いに高まろう。

最近、高層住宅に“独立住宅の質”を組みこむことがかなり追究されるようになっているが、いまだ上のような設計が実現されていないのは「経済性」や防火性能との矛盾からだろうか。おそらくそれはひとつの理由ではあろう。しかし、そのような設計の実現可能性がもっと組織的、科学的に検討されたならば、かなりの質の向上が少ない費用であがなえることが明らかになるだろう。関係者の今後の本格的なスタディに期待したい。（U）

医師、弁護士、建築家

建築家の職能について論じられるとき、よく医師や弁護士がひきあいに出され、その両者に比べて建築家の社会的地位の低さが話題となることが多い。人間の生命や健康を預かる医師、法律を通して人間の倫理や権利にかかわる弁護士、これに対して依頼者である一般人は、その職能を聖域視して、病気や事件の一切をまかしている。そこには、病気や事件という疫病神から逃れるため、専門家の庇護に預かるという依頼者側の弱味もある。

これに対して、建築という行為は、新たな創造活動であり、そこに依頼者側の意図が充分に反映される必要があり、医師、弁護士とのように単純な関係ではなく、その相互の理解と協力関係が目的達成にとって重要な要素となってくる。また、ここに建築家という職能が正当な社会的評価を与えられるかどうかの重要な鍵が隠されているように思える。

ここ数年、都市の景観保全の業務に関係して、建築家と依頼者の関係を側面からみる機会が多かった。多くの場合、両者は正常な関係にあり、良心に満ちた建築家や立派な施主にお会いしたことも何度かあった。しかし、なかには、当初から専門家としての良心を捨てて、施主の意のままに動いて図面をつくっている、建築家とは到底呼べない人達がいる。また、比較的良心的な建築家から「建築の依頼を断わりたいような時がある。しかし、別の質の悪い建築家の手にかかるよりは、いっそ自分の手で実現させた方がましだという一種の強迫観念にとりつかれることがある」というような気持をもれ聞いたことがあった。

建築家の社会的地位の向上には、迂遠なようではあっても、その職業上の倫理の向上をはかることが結局早道になるのではないかと思うときがある。（O）

″中小建設業者育成の指導とその反省″

建設生産は、全国産業構造のなかで第一位のシェアを占め、その許可業者数は今や42万５千社を超える大世帯となっている。この建設生産に関係する人は、国民人口10人に１人はタッチしているとさえいわれている。建設業の健全な発展は国の経済を支えるのに大きな役割を持っている。減速経済下、不況を払拭するためにも景気浮揚の旗頭となって全産業の牽引役となりたいものである。

しかし、いまだに少ない建設需要を分けあうように、公的発注機関は、工事を分割もしくは共同企業体方式という手段で、中小建設業者を優先し、また大手業者と組合わせる等の方策によって指導をしている。しかし現実は、ジョイントベンチャーの真の意味からはずれた活用となっており、中小建設業者はマージンを得て、施工は大手まかせのＪＶ形態の増加が目立ち、新聞紙上で批判をあびている。親の心子知らずで、公的発注機関は全国の数多い中小建設業者への仕事の与え方、そして育成のむずかしさが、あらためてうきぼりにされ質的改善へと動き出している実情である。

工事運営についても、公的発注機関はその発注から契約、実施そして完成まで、十分な管理を行ってこそ、その主旨が真に活かされてくるものではあるまいか。公共工事における管理は、合理的な運営であってほしいものである。工事発注に際しても、その指名権によって建設業者は死命が左右され、常に従属的な地位に立たされている。契約は、建設業法に当時者対等の原則が唱えられていても、工事請負契約約款がその通りに行われているとはいえず、片務的色彩はぬぐわれていない。発注者と施工者の間では、基本理念である平等対等者間の権利義務を明解にしてほしいと思うものである。公的発注機関は、建設省の指導による「公共工事標準請負契約約款」に一層準拠してもらいたいものである。契約書類として、契約書、契約約款、仕様書および図面の四つの柱からなっている。契約書類が一体となって効力を有する以上、四本の柱相互間に矛盾がある場合には優先順位を明確にする等、運営を明解にしてほしいものである。また、設計変更や数量変更が生じた際に、算定根拠を明解かつ合理的にはかってほしいと思う。建設業の健全な発展のために、この「公共工事標準請負契約約款」の精神を尊重理解し、その明解な運営と管理を願うものである（Ok）

大衆化ということ

建築はもはや建築家と目される特殊な人だけによって創られるものではなくなっている。例えば工場プラントはプラントエンジニアリングの人の手によって建設されるし、マンションは不動産業の人によって計画される。

建築の大衆化があって、見識ある建築家はこの大衆化をなげいている。資格もないのに建築家の真似をするのはいけないし、正しい、いい仕事はできないという。

それは、ゴルフを貴族的なスポーツとして楽しんでいた昔のゴルファーが、大衆ゴルファーをみてまちがっているというのと同じことだと思うことがある。大衆ゴルファーは、お前はまちがっているといわれてもやめはしない。彼らにとって、ゴルフは正しい、いいゴルフであるより、面白いゴルフであり、場合によっては儲かるゴルフであるかもしれない。正しいゴルファーはいろいろいいながらも、そのおかしな連中と一緒にゴルフをしなければならない。自分は孤高を保つつもりでも、実際は大衆のひとりなのである。また、大衆ゴルファーも昔からのゴルフの精神がわかってくると、自分も正しいゴルファーをめざすようになる。もっとも、本当の正しいゴルファーは、ゴルフ以外の仕事や生活の面でも紳士でなければならないから、簡単にできることではないのだが。

大衆化ということは、専門家にとっても大衆にとっても厄介なものだが、前者と後者がかかわりあわなければ実際にはうまくいかないのが現代の特徴であり、文化はほんらいすべての人びとのもの、ということなのであろう。（Y）

湯川利和
奈良女子大学教授
家政学部住居学科

大西国太郎
京都市都市計画局風致課主幹

大生仁雄（おおぶきみお）
鹿島建設大阪支店建築部次長

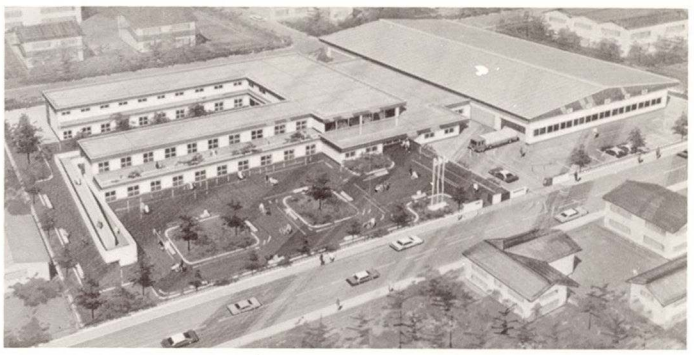
山口安男
日建設計業務部長

★1月号から6月号まで上記4氏が担当

地域社会のまん中に福祉工場を！



《事業計画概要》
■従業員：60名
身体障害者＝50名
健　全　者＝10名
■職　員：23名
工　場　長＝１名
事　務　長＝１名
事　務　員＝２名
嘱託医師＝１名
看　護　婦＝１名
栄　養　士＝１名
生活指導員＝２名
職業指導員＝２名
機能訓練士＝２名
介　助　員＝４名
雇　用　員＝６名



障害者自らの手で、自分たちの運営・管理するクリーニング工場を建設しようという運動が大阪で進められている。

この工場建設運動を進めているのは、日本脳性マヒ者協会関西青い芝の会、大阪障害者教育研究会、自立障害者集団友人組織関西グループ・ゴリラ連合会などのメンバーを中心につくられている大阪エーゼット福祉工場設立準備委員会（事務局・豊中市立花町１－４－２電話 06－843－9067）。

「エーゼット」とはアルファベットのＡからＺまでを示し、障害者も健全者もすべての人間が差別を許さず共に生きることを目ざして名付けられた。50年５月に結成して以来、①地域社会のまん中に、②障害者自身が管理運営し、③障害者と健全者が同一賃金で働く、工場をという三大原則をかかげ、障害者の積極的な参加のもとに準備作業を進め、このたび青写真がまとまった。

これによると、住民運動などが定着している豊中市に来春までに約6200㎡の土地のめどをつけ、クリーニング工場と、２階建て住宅延べ3370㎡を建設し、54年４月にはオープンさせる予定。総工費５億6000万円のうち、５億3000万円を国と府の補助と融資でまかない、3000万円はカンパなどによって集めていきたいとしている。

機械化によって重度身体障害者も作業に加われるということで選んだこのクリーニングの工場では、障害者50人、健全者10人が起居をともにし、同一賃金のもとに、自ら管理・運営していく。営業種目は、一般クリーニング、およびレストラン・ホテル・旅館を対象にしたテーブルクロス、ゆかた、シーツなどの貸付とクリーニング。

同委員会では、建設に向けてのシンポジウムの第２回めを、去る５月31日に豊中解放会館で開いた。当日は、車いすを使って肢体不自由な青年や、盲人が、豊中市域に働く青年労働者とともに参加し、約300人が会場を埋めつくした。

柴田善守・同準備委員会委員長（大阪市立大学生活科学部長）は、もっとも問題となるのは、地域住民が障害者をどのように捉えているかであり、工場の管理運営は障害者にはできないという見方があるが、管理運営する能力は十分にあると思っていると語り、また、働ける能力に応じて同一賃金で働き、しかも完全な製品を世に送り出すことは不可能ではないと力説する

これを受けて、神奈川県川崎市で車いすでバスに乗る運動を続けている「青い芝の会」副会長の鎌谷正代さんは、地域の中で障害者が生きていくことの難しさを生活体験の中から訴えた。

障害者が地域の学校へ行くことを望んだとき、バスに乗ることを望んだとき、弱者救済を掲げる労働組合からさえ安全性、労働強化を理由に排除されている現状の中で、障害者の中にも歩ける者は歩けない者を差別し、見える者は見えない者を差別するという、差別されている自分自身に差別する何かをもっていることが、もどかしげに語られた。このことは障害者自身が自分に問いつづけなければならない問題であり、ひるがえって、社会は人間にとって当たり前のことを、なぜ障害者に対して当たり前のようにできないのだろうかと問いかけた。

シンポジウムは熱心な参加者の質問を残し、この工場建設運動への参加のアピールと、回を重ねて地域住民とのシンポジウムの場をもつことを確認して終わった。

豊富なデータを駆使した、都市と建築の人間工学

建築と都市の人間工学
——空間と行動のしくみ——

岡田光正・吉田勝行・柏原士郎・辻　正矩　共著
A5・330頁・写真図表300余　￥3,800

●過密都市の人口集積のもとで、どうすれば人間尊重の計画・設計ができるか——

著者は、従来、単体の人間ではなく、複数の人間を対象とした人間工学、つまり群集の人間工学、集団の人間工学について研究してきたが、同時に「建築人間工学」のテーマで大阪大学で10年近く講義をしており、本書はそれらを核としてまとめたものである。
学生はもとより、広く建築関係の実務家にも参考書として、また設計上の資料として役立つように、魅力的なデータや解説を豊富に収載している。

〈主要目次〉
第１章　群集の密度と動き
第２章　行動のリズム－時間的法則性をとらえる－
第３章　行動の長さと広がり－空間的法則性をとらえる－
第４章　都市のなかの人口と密度－ミクロの人口学－

住宅の計画学
——すまいの設計を考える——
岡田光正・藤本尚久・曽根陽子　共著　A5・244頁￥1,400
やさしいようでむずかしいのが住宅の設計である。
人間と環境の問題をふくめ、計画的なアプローチによる住宅設計の新しい手法を体系的にまとめた書で、女子大、短大の住居学、デザイン関係、大学建築学科の教科書として最適の書である。

建築構造実務マニュアル
——確認申請のキーポイント——
足立構造グループ編著　B5・320頁　￥5,900
構造申請のチェックポイントのすべてがわかる、書類申請の虎の巻。審査する側からみて正しい計画・計算のあり方を、中規模以下の普遍性の大きい建物を基準に説明。材料・荷重・応力など基礎的なことから、Ｓ造、RC造、壁式ＲＣ造の構造別に必要な図表・数表なども網羅した。

鋼構造接合部デザインマニュアル
鹿島建設構造設計部編（６月下旬刊）　B5判　予￥3,400
鉄骨構造では接合部こそ耐力上、生産技術上のキーポイントであり、建物の経済性・安全性を左右する要点である。データ編では接合部設計に関する最新データを設計・製図・工場製作・工事場施工の４種類に分け、シート形式で集録。次にディテール編では多層ラーメンの構造形式のうち、標準的なディテールと応用例を集録している。

明日を築く知性と技術　**鹿島出版会**　●107 東京都港区赤坂6-5-13　●電話(03)582-2251　●振替東京6-180883

特集・身障者施設

●総論
人間尊重の街づくり・施設づくり—障害者を中心とした / 荒木兵一郎
●ルポルタージュ
建築的環境のバリヤーズ・フリー設計へむけて—近畿地区における心身障害者施設・公共施設・住宅などの具体例をもとに考える / 藤本　尚久・田中　直人
●計画例
公害病患者と生活空間保障—水俣病患者の場合を中心に / 西村一朗
●海外の事例
中国の身障者のための工場〝上海低電圧第二工場〟を訪ねて/石東直子
デンマーク、スエーデンの老人福祉事情について / 上村幸之



本号特集編集幹事：藤本尚久・田中直人・荒木兵一郎・稲垣雅彦・石東直子・塩崎賢明

人間尊重の街づくり、施設づくり——障害者を中心とした——

荒木　兵一郎

はじめに

従来、わが国では、身体障害者や老人などの障害者たちの生活にかかわる問題は、主としてその本人自身やその障害者を抱える家族の問題として処理されていた。すなわち、自給自足の農村的社会で、しかも長子相続の家父長制であったから、すべての個人的問題は家父長の責任で処理されていた。そこで、なかには身体障害者を座敷牢のようなところに閉じこめ、陰蔽してしまうことさえ行われていた。したがって、これらの障害者を街の中で見かけることも少なく、いろいろな建築の設計で、障害者の利用を考慮する必要もほとんどなかった。

しかしそうは言っても、障害者の場合には、その障害のために貧困に落ち入りやすいし、貧困家庭においては障害者の面倒がみきれないというところから、これらを慈善事業や救貧対策として、篤志家や宗教家、あるいは公的機関が援助して施設などを作り、ここに収容保護して面倒をみるということは行われていた。

ところで近年は、家父長制も廃止され、家族形態が核家族化するとともに小家族化し、どの家庭においても障害者を抱え込むと、人手不足と資産不足から障害者の面倒をみきれなかったり、あるいは障害者の面倒をみようとすると、他の家族員の生活が破壊されてしまったりする。そこで障害者自身も、障害があってもできるだけそれを乗り越えて、自分のことは自分でし、さらに積極的に働かねば生存できない状態となった。

しかし、近年の産業構造の変化と生活環境の都市化や高度化は、各人の能力の高度化を要求するが、障害者はもともとハンディキャップがあるところへ、さらに以前にも増したハンディキャップを受けることとなり、折角自立しようとしても、その意欲さえも打ちくだかれてしまうのである。

社会から疎外され、無視されることは「死んでしまえ」ということと同じであり、生存権の剝奪でさえある。そこで障害者自身も自覚を強め、障害者人口の拡大とも相まって、障害者の生存権と生活権の保障が要求されるようになったのである。すなわち、①生命の安全と健康の増進、②家庭生活の安定、③職業と経済の安定、④教育の機会均等、⑤社会参加の機会均等、⑥福祉の充実など、自立した生活ができるとともに、生活圏の拡大されることが要求されるのである。

これらの要求は、いわゆる基本的人権の保障であり、一般人においても同等に要求されるものであるが、障害者の場合には、とくにその公平性が要求されているのである。家庭や施設、あるいは一定の地域に閉じこめられるのではなくて、一般の人たちと一緒に住み、一緒に働き、一緒に勉強し、一緒に遊びたいのである。しかし現況では、一緒に生活しようとしても、住宅や各種の施設やその他もろもろの生活環境が、障害者にとっては使えないように作られてしまっているのである。この原因は、いまも述べたように、障害者たちが家庭内に閉じこめられて、街に出られなかったからであり、また社会全体の急速な経済発展のためには、障害者のことを考える余裕がなく、これを切り捨ててしまったからである。

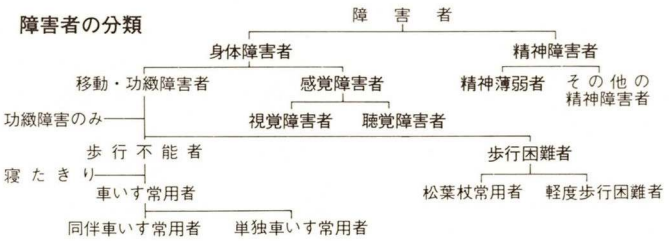
そこで、障害者たちと一緒に利用できる生活環境を創造することが必要となるのである。すなわち、障害者の利用を考慮に入れた街づくり、施設づくりが必要となるのである。

ここでは、この新しい街づくり、施設づくりに必要な基本的問題とその対策の要点を述べることにする。

Ⅰ.障害者とは

障害者とは一般に「身体あるいは精神になんらかの欠陥をもち、そのために日常生活に不便や不自由が生じ、不利益を蒙っている人」をいう。しかし、一口に障害者といっても、その障害の程度や種類、あるいはその障害によって蒙っている不利益の度合などがいろいろと異なっている。だが、障害者が街や建物等を利用するときに、もっとも困っているところをみると、段差や階段があったり、位置表示が不明確で、目的の場所に近づきにくいことであるから、この移動形態と知覚形態という観点から障害者を分類すると**下図**のとおりである。

障害者の分類



移動障害者とは、体幹や下肢などに機能障害があって移動が困難な人である。功緻障害者とは、こまかい作業がしにくい人で、主として上肢に機能障害のある人である。寝たきりは、病気などで寝たきりの人で、老人に多

く、この人達の移動にはストレッチャーや担架などが使用される。同伴車いす常用者は自分で車いすの操作ができないので、介助者を必要とする人である。単独車いす常用者は、自分で車いすの操作ができ、設備が完備していると日常生活のほとんどが自立してできる人である。松葉杖常用者は、松葉杖、エルボークラッチ、歩行器などの歩行補助具を常用して歩行する人である。スキーで足を折り、一時的に松葉杖を常用する若者が最近は多い。軽度歩行困難者は平面はかろうじて歩行できるが、斜面や階段などでは手すりなどの補助具を必要とする人であり、老人に多く、幼児や妊産婦も含められる。視覚障害者は全盲ないしは弱視者で、移動にあたっては、音、足ざわり、手ざわりなどの変化にたよる人である。聴覚障害者は、軽度難聴（聴力損失25dB以上）を含み、音声による伝達や確認がしにくい人である。精神薄弱者は、ＩＱが70以下、刺激に対する反応が遅滞し、社会生活への適応がいちじるしく困難な人である。老人は脳動脈硬化や老人性痴呆のために精神薄弱者と類似の行動をすることがある。その他の精神障害者は情緒障害者などのことである。

現在、世界中で４億５千万人の障害者人口があり、毎年300万人づつこの人口は増加しつづけている。これは総人口の約１割を越えており、交通事故やその他の不慮の事故、あるいはいわゆる公害や病気に侵されて増加しているのである。なお、わが国の障害者人口は約200万人で、総人口の約２％である。この数値は諸外国に比較して、非常に低率となっている。これは障害者の定義を、社会保障が必要となるほどの人に限定しているためで、杖をついた老人や寝たきり老人、あるいは乳母車に乗った乳幼児や妊産婦などを含めていないからである。

2.すべては障害者の立場から

いずれにしても、われわれは、今は障害のない健常者であったとしても、いつかは不運にして障害者となるかも判らないし、また歳をとれば必ず老人となって、心身の機能が衰弱するのは自然の摂理であって、これに逆らうことはできない。もちろん予防をあきらめるわけではなく、積極的に障害者とならない努力を怠ってはならないが、それにしても障害者となる確率は平等であることは銘記しておく必要がある。

ところで、障害者となったとき、あるいはすでに障害者となってしまった人たちの立場からみると、現在の街や建築は、大変使いにくいものになっている。たとえば歩行者の安全対策と称して、どんどん作られてきた歩道橋は、健常者でもこれの昇降を避ける傾向がみられるが、老人ともなると腰を折り曲げ、手すりにつかまりながらやっと渡っている。車いす使用者になると、歩道橋の階段がスロープに変えられていたとしても、自力だけでの昇降は大変困難である。その他、歩道の段差、室の出入口、エレベーター、エスカレーターなど、老人や車いす使用者の利用を考慮していない施設や設備が至るところにある。また地下街の複雑さや、行き先き案内板、標識などの不備は、通勤者以外は、街の中を動きまわれないようになっている。

普通の元気な健常者ならば何でもないところが、肢体や目や耳が不自由になると、障害だらけで、動き回ったり用事をしたりということができなくなってしまうのである。どんなに身体の一部が不自由になったとしても、そのことだけで、みんなと一緒の社会の中で暮らせなくなるということは、あまりにも不都合であり、社会的にも大きな損失である。

そしてこのことは、単に障害者だけのことではなく、自分自身もいつかはそうなるのだし、市民のみんなに共通することである。障害者のために街づくりや、施設づくりをするというのではなく、市民のみんなのために、障害者の立場から街づくり、施設づくりをする必要がある。

3.偏見と差別の打破

ところが社会は一般に、若くて美しい健康体に価値を置いている。障害者や老人はこれに欠けるところがあるので、劣等評価をされるとともに拡大解釈され、人格的にも能力的にも劣っているとみなされてしまうのである。

さらに、自分自身もいつかは障害者や老人となることが予測されても、できるだけ障害者や老人となることは避けたいので、現在の障害者や老人について考えたり、関係しあったりすることも避けようとすることがよくある。ひどい場合には、未だに障害者が伝染病に侵されていて、近寄れば移されると考えて、はっきり拒絶反応を示す人がある。

そこで同情はするが、軽蔑もし、かえって逆に偏見からくる不当な差別をするようになるのである。また障害者や老人の側でも、自分の欠陥や短所を過大に意識したり、あるいは障害を理由に依存心を発展させ、不必要に卑下して、差別にも甘んじてしまったりするのである。

現在これらの障害者や老人たちは、偏見と差別によって職業選択の自由や就職の機会均等、教育の機会均等、移転および居住の自由、社会参加の機会均等など、憲法で保障されている基本的人権が奪われている。

まず職業の問題をみても、視覚障害者の場合には、いわゆる三療（あんま、はり、きゅう）に集中している。その他の障害者の場合にも、農業ないしは零細製造業に集中している。昭和35年に身体障害者雇用促進法が制定され、それぞれの企業で身体障害者を雇用することが義務づけられたが、まだまだ実効があがっていない。老人の場合でも、定年制があって、まだ働く能力があるにもかかわらず、一定の年齢に達すれば引退しなければならなくなっている。いずれにしても、障害者や老人には不就業者が圧倒的に多いのである。

教育の問題でも、障害者は最初から、みんなと一緒に教育を受ける能力がないから、障害者だけを分離して、その能力に応じた特別な教育を施すというのが従来の方針であった。しかしこの特別な教育は障害者の残存能力を使っての職業訓練の占める割合が多く、全人的な教育に欠ける点があった。また隔離されているところから、一般健常者との交流が図れないという不利益もあった。

住居の問題も、前述したように伝染病と間違われたり、老人が近所に住まれると陰気になるとかの理由で、アパートや地域から追い出される例はよくある。精神薄弱者施設、養護学校、老人ホームなどの建設反対運動もたびたび起こっている。

いずれにしても現状では、障害者や老人が偏見をもたれ、差別されている。しかしこれは人びとが障害者や老人のことを誤って認識していたり、一部分しか認識していなかったからであり、また障害者や老人たちも自分たちの欠点などを隠していたからである。

本来は、障害者や老人も人間として同一であり仲間であり、人格的や、社会的、経済的関係において差別される理由は何もない。そこでこれらの偏見や差別を解消する方策について検討しなければならないが、それにはまず第一に、障害者や老人の実態を正しく認識する必要がある。そしてこれに伴って、障害者や老人が落ち入っている不利益な実態を克服するよう努力し、また本人自身も自覚をもって努力できるように教育やリハビリテーションが行われる必要がある。

しかし、いくら人びとの意識や心情を変革しようとしても、差別の実態がある限りは、どうしても意識や心情を変革することはできない。すなわち、意識は実態の反映として存在するのであり、実態が意識を作りだすのである。したがって、この差別の結果として存在する障害者や老人の住みにくさ、貧困性、文化的低位性などが取り除かれる必要がある。これらは長期間にわたる差別の結果として生まれてきたものであるから、これの変革は社会の責任であり、われわれは連帯してこれの保障に当たらねばならない責務がある。

障害者差別の実態はあらゆる生活の分野にわたっていろいろな原因や現象の複雑なからみあいによって出現しているのであるから、これの解消に当たっては、当然各種の分野にわたる施策が必要である。しかもこれらが別々に計画され実施されたのではその効果は期待しにくいし、また場当たり的なものになったり、一面的なものになったりしかねないのである。そこでこれらの施策は、広範囲にわたる分野について総合的に、かつ長期にわたる将来予測のもとに相互調整された、科学的成果の裏付けのあるものでなくてはならない。

4.障害者特性の理解と人間尊重の具現化

障害者を中心とした街づくり施設づくりをするには、基本的に障害者の特性を知る必要がある。しかし近年までは障害者を無視し、排除し、差別さえもしてきたので、在来の建築設計資料には障害者に関する資料が極端に不足している。最近やっと多方面から障害者に関する資料が呈示されるようになってきた。したがって現況で知り得た障害者特性だけを基にしていたのでは十分に整備することはできない。今後ともに格段に障害者特性の理解に資するとともに、これによって得られた資料を追加して、整備を充実させる必要がある。

ところで、一口に障害者特性といっても、障害の種類や程度によって、その特性は多種多様である。そしてそれらの特性群の中には、お互いに相容れない特性があったりして、現況では、ある一部の障害者にとっては、その特性に見合った便利の良いものができても、他の障害者にとっては、そのものがかえって障害に

なるなどということも起こっている。たとえば、視覚障害者にとっては必要な歩道上の黄色の誘導ブロックが、車いす使用者にとっては車いすがすべりやすくなって危険であるとか、同時に一般健常者もこれの上を歩くのは歩きにくいという批判などがある。たしかに能力に大きな格差のある人びとの誰でもに利用しやすくするのは、現在の技術では大変困難を伴う場合もあるが、現段階では試行錯誤的に、少しでも良いことは実行し、それによって問題があるようならば直していくのが妥当であろう。

しかしこういった事象も元にもどって考えてみると、どの障害者も一個の人間であり、その人間の一部の違った部位の構造や機能に損傷を受けてそれぞれの種類の違った障害者となっているのであるから、もっと詳しくもっと幅広く障害者特性を把握すると、おのずからこういった相反する事象はなくなると考えられる。

さらに逆をいえば、多種多様な障害者の特性を理解するということは、決して違った種類の人間を理解するということではなく、それだけ多くの人間を、あるいはそれだけ詳しく人間を理解しうるということである。

最近までは、こういった障害者たちは手間がかかって役にも立たない邪魔者だからということで、一般社会から除外し差別さえする方向にあったが、障害者の特性を理解することによって、それぞれの個々の事情を組み入れ、それらの人たちが社会にあって本当に生きがいが感じられるような全体的環境が形成される方向に変わってきたのである。これは単に障害者たちの環境がよくなるということだけではなく、われわれ自身の環境も良くなるということに通じるのである。すなわち、障害者たちが住みやすい社会は同時に一般の人たちも住みやすい社会となるはずであり、ここに真の人間尊重を具現化する道がひらけてきたのである。

5.障害者の主体性と自立性の確保

障害の程度が重くなればなるほど、社会的や経済的諸要因とも結びついて、障害者に依存性が出てくる。すべての生活を他人に依存してしまっているようでは、邪魔者としての取り扱いを受けざるを得ず、従来のように専用施設に閉じこめられても致し方がない。

しかし、どんなに障害の程度が重くても、主体性をもち、自立した生活をしたい場合には、これはどんなことがあっても援助されねばならない。したがって、どんなに障害が重くても、障害者の依存性の発生を防ぎ、あるいは依存的状態に落ち入った場合にもその進行を防ぎ、さらに自立性を回復させたり、可能なかぎり種々の援助によってこの依存状態のなかで自立性を維持させるかということが重要となるのである。それには障害の予防、治療、リハビリテーションなどを通じて自主性が助長される必要がある。

そして障害者が少しでも自立した生活を望むならば、多少の困難はあっても、施設などの保護から抜け出し、一般社会の中の居宅で生活がなされなければならない。しかし現在は、障害者が一般社会の中の居宅で生活をするには、あまりにも多数のハンディキャップがある。したがって、この多数のハンディキャップを取り除いたり、あるいはハンディキャップが克服されたりするように援助して、主体性のある障害者が自立した生活ができるようにしなければならない。

6.都市空間計画における機能分離方式の見直し

ところで、障害者が一般社会の中の居宅で生活しようとしても、現在の都市には住めない状況となっている。

今日の都市構成は、住む場所と働く場所、それに遊ぶ場所が空間的に分離されて、それらが種々の交通機関によって強く結びつけられているところに、その特徴をみることができる。現代の都会人は、それらの場所をその目的に応じて使いわけながら生活している。したがって行動力と労働生産性の高い若壮年労働者にとっては都合がよいが、障害者や老人、あるいは乳幼児のように行動力の劣る人たちにとっては都合が悪く、住みにくい。これを住みやすい街に転換する方法について検討する必要がある。

都市を工業地域や商業・業務地域、それに住居地域などに分けて、それぞれを用途別に、機能的につくる考え方は、今日一般的になっている。たしかに、それぞれの地域を形成する目的は、空間に対する特殊な要求からきており、それらの要求は相互に相容れない場合が多い。そこで似たものを集め、その固有の必要性に応じてそれぞれを特定化した地域につくっていくやり方は合理的である。しかし機能的に特定化された地域が、人間の全生活の一部分しかいれることができない容器であるのなら、それらは常に全体的な立場から、

それぞれの関係性を見直す必要がある。

大都市の大規模な空間分化は、通勤問題や必要以上の人と物の流動を起こさしめている。とくに大規模な工業地域は公害源となって、都市全体の環境水準を低下させている。工業的生産がある程度の環境悪化を伴うものというような誤った考え方を改めること。また商業・業務地域も昼間人口と夜間人口の較差が大きく、夜間は墓場化しているが、これも不自然である。できるかぎり職場と住宅を近接させ、その前提条件として都市の中のどこでもが人間が住める環境にする必要がある。

こうすれば、今まで社会から除け者にされていた障害者や老人たちも生き生きと、自分の住みたい地域に住むことができ、職場にも行きやすく、社会全体も活性化されるのである。

7.交通計画における発想の転換と近距離交通施設の整備

都市空間の構成にあたっては、道路や交通輸送網が重要な役割をもつが、今日までの交通計画は生産性や経済性にもとづいて計画されており、生活者の利便性にもとづいて整備されているとは必ずしもいえない。とくに生活道の整備や、障害者や老人などの特殊な要求にこたえる交通施設や交通手段の整備は、本来的に採算に合わないために無視されていた。

そこで交通計画をする際には、まず生活者を主体とする方針に発想を転換する必要がある。とくに生活者のための生活圏レベルの近距離移動に応じる歩行者路を含めた交通施設網の整備が急務の課題である。

最近、車いすでも使える市民会館や公衆便所もあちこちに作られるようになってきたが、これらがほとんど利用されていないということである。これは、いくら〈点〉としての障害者向けの施設が作られたとしても、その施設まで到達することのできる交通手段がないと使えないのである。すなわち、障害者の自宅から施設までに通じる〈線〉が必要となるのであり、また障害者の誰でもがすべての施設を利用できるようにするためには、この〈線〉が〈面〉となったネット・ワークが必要となるのである。

この考えのもとに、昭和48年度から厚生省による福祉モデル都市や、地方自治体による福祉モデルエリアが指定されるようになった。しかし現在はまだ、その名が示すように実験、研究段階であり、何をどの程度までやればよいのかという基本的なところさえ決定しかねている。また一部の篤志家たちが車いすでも行ける〈線〉を探しだし、「車いすガイドブック」や「車いす地図」が作られたりもしている。一刻も早く、このようなガイドブックや地図が必要でなくなるような交通手段の整備が望まれる。

8.コミュニティ形成と障害者、老人の役割

現在のわが国の人口構成での障害者、老人の割合をみると、障害者は約２％、老人は10％である。

しかし都市や農村のある特定の地域をとり出してみると、この割合になっていないところがかなりある。現にわれわれの毎日の生活でみると、若年労働人口の都市への集中、核家族化の急激な進展によって、とくに新しく開発された住宅団地では、老人を見かけることはほとんどないし、市街地で車いすに乗った身体障害者を見かけることはさらにない。

このように人口構成が片寄っていたり、あるいは日常生活上で見かけなかったり、関係することがなかったりすると、つい忘れ勝ちとなり、無視してしまったりすることになる。たしかに、一定の地域に健常者ばかりや障害者ばかり、あるいは老人ばかりが集まって生活すると、それぞれの社会での生活の維持や防衛には都合がよく、能率的にできることが多い。しかしこれでは全人的な人間の成長や社会の発展にとっては都合が悪い。とくに住居地域というものは、本来、いろんな人たちが住んで、お互いに交流し合いながら、助け合いながら、一つの社会を形成し、維持するところに意味がある。

すなわち、能率性ばかりを重視していくと、だんだん能力の同じ者ばかりが集団化するのがもっとも都合よくなるのであるが、人間の能力は常に一定しているのではなく、発展したり、衰退したり、ダイナミックに変動するものである。とくに年齢別集団制のような場合には、誰でもが年々としをとるのであるから、つぎつぎにある年齢に達すれば、それぞれの年齢別の集団を渡り歩かねばならないことになる。

このようでは、定住することができず、どうしても不安定な生活にならざるを得ない。真のコミュニティ

は永年の間にわたって定住することによって形成されるものであり、住生活環境は、誰でもが定住できる環境が準備されることが重要な要件となるのである。このことはすなわち、ゆりかごから墓場までを準備することであり、また誰でもが永年の間にわたって住めば、いつかは老人となり、障害者になるということでもある。そしてこれらの障害者や老人たちが要求する便利で快適な施設や環境は、同時に一般健常者も要求するものである。ここにコミュニティ形成上における障害者や老人の役割が重要視される根拠がある。

9.障害者、老人の生活圏域での施設の充実

障害者や老人の生活圏域を狭めている原因は、都市構成のされ方にもよるが、障害者や老人の身体的能力の欠陥や衰退によるのが主因である。したがって障害者や老人に関係のある施設は大規模な中央化したものよりは、小規模でも障害者や老人の手近なところに分散配置されるのが望ましい。従来、一般に障害者や老人向け施設というと、自然環境のよいところということで、交通上はどちらかというと不便なところに立地することが多かった。これでは姥捨て山と同じであり、家族とすら交流しえないし、一般の社会から隔離されてしまう。障害者や老人の要求する施設は、一般近隣施設の集まっている交通の便のよいところに一貫して配置するのがよい。この場合には関連施設を集中化したり、複能化したり、あるいは集約化してもよい。こうすれば、一旦、その地区に出かけると、いろいろな用事や活動が一度にでき、新たな社会参加の機会や交友の範囲を広げ得ることにもなって好ましい。

10.サービスの充実と施設整備の一体化

施設とサービスは、人が施設を利用するという立場からみた場合、それらは一体的なものであり、不可分のものである。施設があるだけでは、出かけてきても有意義な活動はできにくい。適切な指導や援助、あるいは人間同志としての触れ合いを主とした人的サービスを伴うことによって、活動は活発になるのである。とくに障害者や老人の場合には、まわりの人からのわずかな援助が大きな援助となって活動が倍加するのである。サービスは公共のサービスを中心とするが、ボランティアやコンパニオンによるサービス、および家族や地域の人たちによるコミュニティサービスも重要であり、これらの啓蒙や育成がなされなければならない。このような人的サービスを充実させないと、どんなに立派な物的環境をつくっても、それらは無用の長物となってしまうのである。

11.新しい街

福祉先進国といわれるスェーデンやデンマークのニュータウンをみると、その中央のもっとも便利なところに歩行者天国の大きな広場があり、その地下に地下鉄と自動車道と駐車場がある。ここからは身障者の車いすもエレベーターかエスカレーターで広場にあがれるようになっている。広場の中心には噴水があり、そのまわりにベンチや植え込みがある。広場をとりまいてスーパーや小売店が立ち並び、少し離れて、役所、集会所、図書館、保育所、小学校、教会、病院などの公共施設が、それぞれの適地に配置されている。そしてその外まわりに高層アパートが建ち並び、ここに移動能力の少ない障害者や老人たちが一般の人たちと混じり合うが、優先的に住んでいる。この中央からだんだん離れるに従って、低層の集合住宅や庭つき一戸建のマイホームが緑に囲まれて配置されている。そして工場もこれに近接して作られており、通勤ラッシュが解消されるとともに、工場からは公害を吐き出すこともできにくくしている。さらにニュータウン全体の外周は自然環境を保護する目的をも兼ねたスポーツを中心とするレクリェーション空間で取り巻かれている。

こんな配置であるため、まちの中央広場では、常に障害者や老人たちが見られ、若者たちと一緒になって働いたり、憩ったりしている。これでは老人たちも毎日自分たちの家族と顔を合わせることもできるし、一人とじこもって、死んでから一週間も発見されなかったということもあるまい。若者たちも、ニュータウンをとりまく広大なグリーンベルトの中で、思う存分スポーツをしたり、自動車をブッ飛ばしたりして、生活をエンジョイしている。

（あらき　ひょういちろう　関西大学教授・工博）

建築的環境のバリヤーズ・フリー設計へむけて
―近畿地区における心身障害者施設・公共施設・住宅などの具体例をもとに考える―

藤本　尚久＋田中　直人

●はじめに
●市街地複合化福祉施設へのモデルケース―神戸市立心身障害福祉センター
●地域に根ざした総合リハビリテーションセンター―兵庫県玉津福祉センター
●新しい施設機能の要請とそれに対応する空間設計―「松心園」大阪府立の自閉症児療育施設
●生活の拠点としての住宅をバリヤーズ・フリーにする―身障者のための住宅計画のポイント
●余暇生活のための屋外施設のテストケース―大阪府営大泉緑地・盲人コーナー
●人間・福祉都市の足づくり―神戸市高速鉄道駅舎
●身障者施設からバリヤーズ・フリー・スペースへ



はじめに

目の不自由な人に色光の点滅する信号で横断することを強いたとき、車イスの助けなしでは動けぬ人が、階段しかない建物の上階に用事ができたとき、これらの人々にハンディキャップを負う。

いま、この人々に音の信号機が横断の安全を告げてくれたり、緩やかなスロープや操作しやすいエレベータが迎えていてくれたら、もはやハンディキャップは解消する。

このようなハンディキャップを生ぜしめるものが「建築的障壁」(アーキテクチュラル・バリヤーズ; Architectural Barriers)であり、これらを除去しようとする設計をバリヤーズ・フリー設計とよぶことができる。

建築技術の立場からは、「障害」は「通常、医師によって記載される客観的な欠損状態」とみるにとどまらず、「身体の欠損から、建物を使おうと思っても、適当な設備がないために、ハンディキャップを負わされている状態」と考えておかなければならない。

このことは、また、一時的な病弱の人や妊婦・老人・幼児の生活安全や利便を確保する方向とも矛盾しない。

バリヤーズ・フリー設計は特定の人々のための特殊な設計ではなく、生活環境の全般的な質の向上を目指すものである。もちろん、お金はかかる。これまで出しおしみしてきたからであり、浪費ではない。

かつて、リハビリテーションは傷痍軍人対策として、つまり、戦力の維持方法であった歴史をもつという。

第二次大戦後の経済復興・高度成長への産業戦線での労働力対策や消耗した労働力へのアフターケアとしての傾向に偏することがなかったかどうかは、この景気低迷といわれる時期がおのずと明らかにすることになるだろう。

バリヤーズ・フリー設計は、リハビリテーション病院などの専門施設に始まったといえるが、特目住宅・ペアハウスなどの公共住宅の設計や供給の問題、交通機関・交通安全施設の計画をも包含し、さらには公園緑地や博物館などの広域的なレクリエーション施設や、公共的な施設一般（営利的なものを含む）の検討にもおよび、これらを総合的にカバーする都市計画・地域計画まで対象となるような趨勢である。

また、バリヤーズ・フリー設計は、日常生活に密接な自助具や建築ディテールから外部空間にまでおよぶ数多くの課題をかかえているが、その中から主要な側面を、筆者らが少なくともこの目で見た具体例をもとにして、ルポをまじえた考察を試みたものである。

本稿は問題提起の域を出ていない。

技術の進歩がおき忘れかけた人間重視を、「福祉」という形でとりもどそうと叫ばれて、いくらか年月を経た今、これでは不足だと筆者らは思いつつも、建築技術情報としてのデータや実例の蓄積の体系的な整理が緒についたばかりなので、あえて、くり返しになるのを覚悟で提出することにした。

事実認識と文章表現に過誤があれば、すべて筆者２人の責任に帰するものである。

市街地複合化福祉施設へのモデルケース
—神戸市立心身障害福祉センター—

神戸市が昭和50年12月から兵庫区水木通の旧兵庫消防署跡地（1396.17㎡）に建設していた心身障害福祉センターが完成した。

神戸高速鉄道新開地駅と大開駅の間にあり、神戸電鉄湊川駅、国鉄兵庫駅や神戸駅からも近く、まさに神戸の市街地に位置しているといえる。各駅には階段などの障害物があり、アプローチ上、問題はあるが、盲学校等の福祉施設が近くにあるので、歩道の段差解消、点字ブロックの敷設等、周辺環境は比較的配慮がすすんでいる。

春の日ざしに映える明るい壁面の色調は、東に隣接する建物との景観的調和を考慮したという。

ＳＲＣ造地下１階、地上７階（塔屋２階）建て、延べ7431.26㎡の館内には、あらゆる障害者の多様な問題にこたえる総合相談窓口をはじめ、総合診断・判定部門、機能訓練部門、授産部門、レクリエーション部門などのリハビリテーションセンターとしてのスペースがあった。

１階には相談部門として、受付および相談コーナー、そしてロビー、研修室、事務室があり、教育訓練部門として、２階に肢体不自由児通園施設「くすのき学園」（定員40名）、ろうあ児通園施設「ひばり学園」（定員40名）、３階に盲幼児訓練室、重障児いこいの家「中部いこいの家」、会議室がある。４階には診察判定部門として診察室、脳波測定室、Ｘ線室、無響室、テスト室、観察室、判定会議室、ＡＶルーム、機能訓練部門として、６階に体育室、理学療法室、作業療法室、ＡＤＬ室、屋上に屋上庭園、屋上訓練場、地階に温浴療法室があり、さらに授産部門として５階にミシン縫製室、動力ミシン室、機械編物室、７階に印刷室、刻印室、図書談話室、娯楽室、静養室等がある。

身障者の施設といえば、兵庫県玉津福祉センターの例でもみられるとおり、平面的な広がりをもつプランが多いが、このセンターでは７階建という、この種の施設としては、高層のものとなっている。

センターとしてこの建物に要求される立地条件および現実の敷地条件、所要空間の種類と規模の問題等、高層化した背景をさぐる要因は多く考えられるが、このように高層化するにあたり、基本設計を行った市住宅局営繕部営繕課では、多くの障害者、関係者を対象にヒヤリングを行い、利用上どのような点を考慮すればよいのか検討してゆき、そのプロセスの中での設計メモとして、つぎのようなことに留意したということである。

「第一に同センターは複合施設であり、施設名で挙げると、身体障害者福祉センター、身体障害者授産施設、肢体不自由児通園施設、ろうあ児通園施設などで管理運営上、施設別あるいは部門別に独立していることが必要。第二に、今後、障害者施設が整備されていく課程で、施設間の機能分担または整理統合に対応できるよう、各室をフレキシブルな空間とすること。第三は、全障害者が単独でセンター内の目的地にスムーズに行けるようにすること。第四に、緊急時に全障害者が安全に避難できるようにすることであった。」

このような条件に対する空間的な解として、計画にあたっては①簡単明瞭なプラン、②安全性、③全障害者に対応する諸設備の配慮、④トータルサインデザインの採用を重視し、実施案はバルコニーを有したコアプラン、コアの南北に諸室を配した簡潔なプランとしている。また梁間を10.5m、桁行を３ｍとして、各室に柱をなくし、広々とした部屋を確保すると同時に、障害者にとって安全な空間としている。

設計でも、障害者のための種々の配慮を払っている。とくに床材については、注意深く選択する必要があるので、適度のクッション性と滑らない材料、しかも松葉杖使用者にとっては滑らないだけではなく、ひっかからないようにといった点から、スウェーデン製のフォームバックビニールシート（フロア厚3.5㎜）を選んでいる。盲人用誘導ラインとして、ノンスリップシートを通路の中央に配し、体育室、理学療法室には同質のフロア厚5.5㎜材を使用している。車いす用プロテクター、



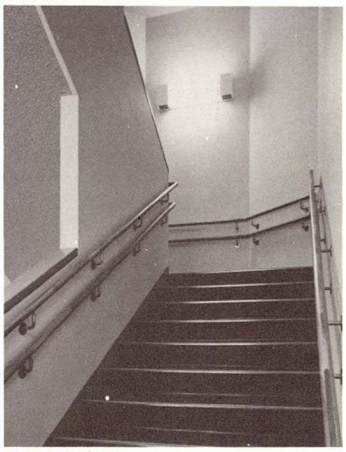
２階　障害児用便所
便器、手洗器、鏡の形状、寸法等配慮している。
コーナーには洗濯用のスペースも設けられている。



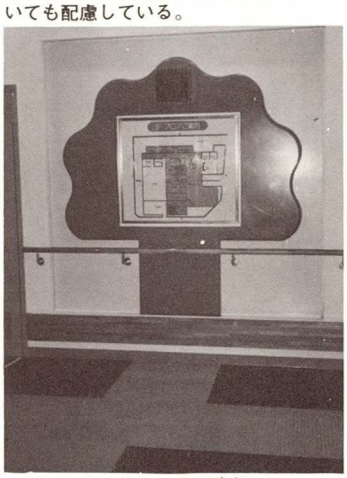
地階　温浴療法室



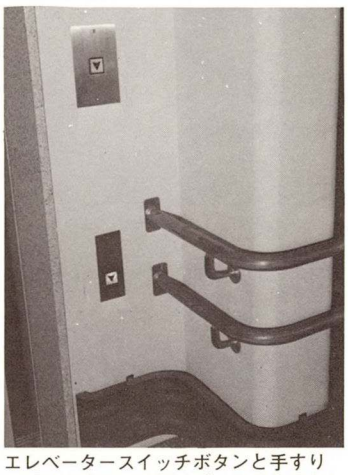
神戸市立心身障害福祉センター



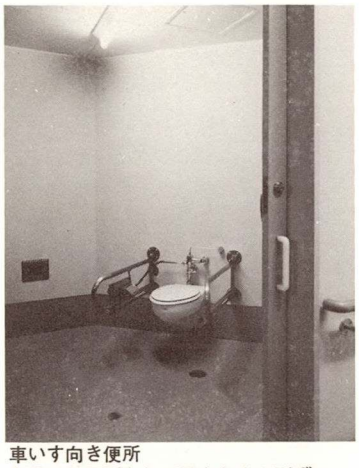
階段の手すり
連続する手すりを高低２段に配し、視覚障害者のため上り口、下り口等に点字標示している。段鼻の形状、色彩などについても配慮している。



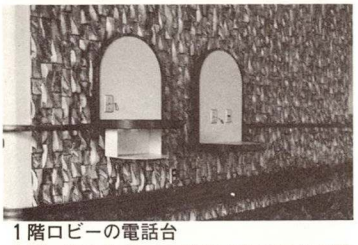
エレベーターホールの案内板
触地図によって各階の案内を行っている。案内板上部スピーカーからの“小鳥のさえずり”によって視覚障害者の誘導をはかっている。



エレベータースイッチボタンと手すり
手すりは途中で切断せず、必要と思われる部分まで配し、点字標示も行っている。エレベータースイッチボタンは車いす使用者、子供の利用を考えて、低位置にも設けている。



車いす向き便所
各階には原則として男女各１カ所ずつ、車いす使用者のための便所を設けている。



１階ロビーの電話台
左が一般のもの、右が車いす使用者の利用を考慮して高さを変えたもの。



１階玄関ホール
受付案内コーナーをみる。床はゴムタイル、誘導タイルによって主要室へ導く。



正面玄関、右手が入口、左手が出口となっている。

手すりなども種々の材料について検討し、あたたかみのあるテクスチャー、メインテナンスを考慮し、シオジ集成材クリヤラッカー仕上げとしている。便所も床材、手すりおよび可動手すり、ナースコール、手洗器、鏡、扉（手動式上吊片引戸）等、種々の配慮がされている。これらの材質、設備は同センターを利用する各種の障害者に実際に歩いてもらったり、実験して決めたということである。

その他、エレベーターには、透明ガラスの一部使用、ピット内の階数表示、自動放送設備、副操作盤が施されている。設備も点滅式警報表示灯、自家発電装置および非常放送と連動した緊急報知用ランプを使用し、全館を通じてトータルサインデザインを採用。文字、光、音、点字により、全障害者を安全に誘導するよう配慮されている。

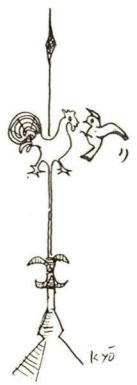
万一の災害発生時には、コア部にあるエレベーター３基のうち常用２基の扉の前にパイプシャッターが降り、非常用１基を利用して避難するほか、各階外周部のベランダへも避難できるなど万全の体制を心がけている。

そんなに余裕もない敷地に、多種多様な施設機能を巧みに複合させていく作業にあたり、かなりの紆余曲折があり、設計変更も何度か行われたと聞く。各施設のもつ特性を十分に発揮させるために、施設計画上の明確な原理がない以上、やむを得ないことかもしれないが、複合化するメリットを同一敷地に各スペースに積み上げ、併存させるということにとどまらず、さらに積極的に相互の特性を増幅していく手法が、今後はもっと検討されるべきであろう。

各障害者に対してどのような配慮をどこまで施すべきか、まだ確固たるものはない。このような段階でも、１個の建築として具現化していく段階では、寸法の決定、材料の選定等、一つひとつ明確にその時点で結論を出すことが要求される。実際の設計段階、工事段階でそれぞれに応じた実験やヒヤリングをくりかえしつつ検討していったということで、営繕部設計担当の遠藤氏、苅谷氏、工事担当の八尾氏、林氏をはじめ、関係スタッフの方々の奮闘の後が、センターの各所にうかがえるような気がした。

工事は３月31日に完工したが、オープンは７月ということである。その間、備品の搬入、内部整備、職員の訓練などの準備を行っていくそうである。

建築空間として所定の機能をうまく有機的に作動させるために、単に〝箱〟としての物理的空間の配慮を施すだけではなく、管理・運営面のサービス等、人間的空間の配慮をも、十分に検討して、トータルの空間として充実していくことが期待される。実際に使用され始めた場合に人間と空間がどのように対応していくのか、みつめてゆきたいものである。（田中）



地域に根ざした総合リハビリテーションセンター
―兵庫県玉津福祉センター―

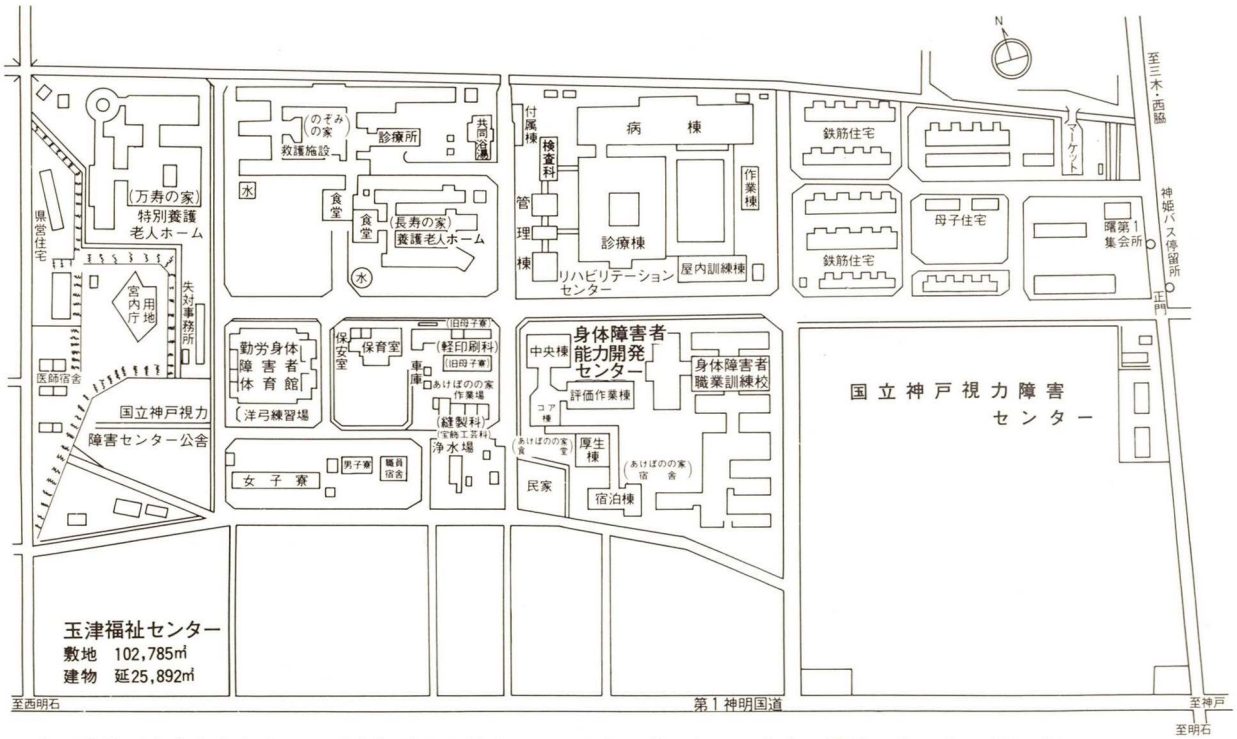
国鉄明石駅からバスで15分、玉津町曙の停留所で下車すると、センターの正門に至る。鉄筋コンクリート造の県営住宅を右に、国立神戸視力障害者センターを左に、前方の小高い丘へつながる舗装された道路を進む。正門が面する明舞国道175号線はあわただしいが、センター内では小鳥のさえずり、やわらかい日ざしにのどかな春の訪れを感じた。やがて、道路右側に開けた広場につく。ここにリハビリテーションセンターの玄関が面している。

さっそく、私達はセンターの百瀬氏を訪ねることにした。氏の説明によると、このセンターは、元川崎航空機工業株式会社明石工場の工員宿舎であった土地、建物を昭和21年６月に兵庫県が買収し、引揚者、戦災者の応急援護施設「兵庫県玉津寮」として、開設されたのがはじまりで、翌22年４月以降において、総合社会福祉施設として、逐次その拡充、改善を図り、生活保護施設「救護施設」、老人福祉施設「養護老人ホーム」「特別養護老人ホーム」、身体障害者福祉施設「授産施設」、「母子寮」、「保育所」、その他附属事業としての診療所、共同浴場、専用水道、浄水場をそれぞれ設置経営するほか、構内整備のため失業対策事業も行ってきたそうである。さらに、昭和44年10月には、兵庫県政百年記念事業の一つとして、身体障害者の社会復帰を促進するリハビリテーションセンターが開設され、これにともなって兵庫県玉津福祉センターとして組織の機構改革もはかられたとのことであった。

全体的な説明を受けた後、さっそくセンター内の施設を見せていただくことにした。

１）附属中央病院

附属中央病院は、身体障害者のうち、主として18才以上で、早期に治療すれば、全治する可能性



のある肢体不自由者を収容し、更生相談から治療、機能回復訓練、職業訓練、授産などを行うほか、補装具の修理、製作並びにその研究開発など、障害者が自立自営できる職業人として再び社会に復帰させることを目的としている。

内部には温水とアワの噴射で、痛みをやわらげながら、機能回復訓練をするハーバートタンク、浮力を応力して歩行等の訓練をする温水プール、患部を温水につけ、水流により痛みをときほぐす渦流浴装置などの設備にも、その目的達成のためのきびしい姿勢がうかがえる。

屋内訓練室では、マットのうえで訓練を行っている方々の真摯な姿が印象的であった。しばらくして、ほっと息をつき、付き添いの療法士の方に向けるものやわらかな表情もまた印象的であった。

作業療法としてＡＤＬ（日常の動作訓練を行う）室、作業室などがあり、個別療法室では、患者によって治療方法が違うためベッドにそれぞれ別の治療器が設けられていた。

廊下には両側に手すりを設け、車いすがすれちがえる幅を確保したり、便所には車いすで出入りできるよう手すりを設けるなどの特別な配慮がなされていた。

中庭のまわりには傾配を変えたスロープを備え、車いす使用者の訓練の場としてよく活用されているとのことであった。

付属棟では、訓練生のために改造された自動車があった。足の不自由な方でも手で操作できるよう配慮されていた。この車によって免許をとり、自由に町の中へ出ていく楽しさを味わった人も数多いとのことであった。

2）共同浴場

大人20円、小人12円也の共同浴場は、県下唯一の県営浴場として、１日200～300人の利用客があるということで、自宅に風呂のない人々がわざわざ車に乗ってやってくるそうだ。昭和20年代の歴史を物語る木造の建物に、センター内外の関係者の思い出が秘められていることであろう。

3）養護老人ホーム（長寿の家）

共同浴場と道路をはさんで面しているこの施設は、65才以上の者で身体上、精神上または環境上、および経済的理由により居宅において養護を受けることが困難な老人を収容して、日常生活の世話をする目的をもつものであるが、現在65名の方が入っておられるとのことであった。

近時、老人向けのマンションが建設されている例も見られ、また公的住宅でもペア住宅という形で、積極的に老人の居住環境について考えていこうとする動きが目立つ。老人の肉体的、精神的、経済的条件はまちまちであり、この種の施設に入る場合の決定要因も多様である。今回この長寿の家を訪問してみて、どのような方がどのような事情で入居されてきたのか、現在、どのように感じておられるのか、直接個々にお聞きする機会はなかった。

4）救護施設（のぞみの家）

鉄筋ブロック平家建のこの施設は、身体上著しい欠陥があるために独立して日常生活の用をなせない者を、保護収容して、生活扶助を行う目的をもつものである。つぼみでこぼれんばかりの桜の木々の中庭を通り抜けた。施設内は静かで、誰一人とも顔を会わさなかったが、「もうしばらくすると、この芝生の中庭で花見をやるんですよ。」という百瀬氏のやさしい顔がさわやかだった。

5）特別養護老人ホーム（万寿の家）

この施設は、身体上または精神上著しい欠陥があるために、常時介護を必要とし、かつ居宅においてこれを受けいれることが困難な65才以上の老



いずれはとりこわされる老朽木造であるが、きわめてめずらしい公営浴場



身体障害者はドライバーになることによって、世界が急にひろがる。訓練のための改造された乗用車



附属中央病院
中庭には車いす使用者等の歩行訓練用のスロープが設けられている。



附属中央病院
廊下の手すりは原則として連続させている。

人を収容し、日常生活の世話をする目的をもつもので、現在約90名の方が入っておられるとのことであった。性別としては圧倒的に女性が多く、毎月２～３名の退所者があるということであった。ところが退所者の原因のほとんどが、死亡という事実をあらためて聞いて、この施設の落ち着いた雰囲気とは別に、何かさみしいものを感じとった次第である。

老人になって、肉体的、精神的に劣っていくことは、最近流行のトリム運動の普及などで、いく分かその進行速度をおさえられるとしても、やはり確実にあるので、やむを得ないといえる。しかし、そのような状況になった時点では、その肉体的、精神的活動能力をカバーするための介護について、誰がどのような形で行うのかが大きな問題である。このような施設に収容し世話してあげるのが最適解なのかどうか…？といっても、実際上、身寄りのない人には、身内で世話してもらうのは無理であるし、身内がいても世話をすれば、自分達の生活が成立し難い人も多いだろう。“何かさみしいもの”は、私の一時的な感傷としてすまされるべきものではなく、老人福祉の問題として、真剣に取り組んでいくべきものであろう。

6）勤労身体障害者体育施設

身体に障害を持つ方々の健康と体力づくりを、スポーツを通じて実現するために、初心者に対しては各種スポーツ教室が開設されており、専門の指導員による保健体育指導が行われるほか、各種スポーツクラブによる利用受入並びに各種競技大会を企画運営されているとのことであった。

玄関まわりには、水を満たしたバケツと雑布がおいてあった。ここで車いすのタイヤをふきとるそうである。右脇には車いす洗い場のようなスペースがあったが、このように水を入れたバケツと雑布の方が、実際的にはよく使われているとのことであった。

段差のない自動扉の玄関を入ると、右手に事務室がある。ここではカウンターの高さを車いす使用者にあわせている。

一般的に廊下部分の壁とのとりあいには、斜めに幅木をとり、車いすによる壁面損傷防止を考慮していたが、配慮の対象者は車いす使用者中心という印象が強かった。

体育スペースは広々として、明るく立派なものであった。バスケットボールの練習に熱中する彼らの動きは、車いすに乗っているということを忘れさせるほどで、その表情はいきいきとしていた。ここではバスケットボールのほかにアーチェリー、卓球、バドミントン、バレーボールなどをやっているとのことであった。

このような形での身障者専用体育館は、他にも例が多くなりつつある。本来ならば、健常者といっしょに使用するような体育館を各地域に作っていかねばならないだろう。そのためには、これまでの体育館を改造していく必要もあるだろうし、新設のものについてはその配慮が当然のこととなってこよう。

しかしながらあえて“身障者用”という利用層を限定する施設であることの意味は何であろうか。そういったハンディキャップをもつ人々の生活の希望をシンボライズしていくセンターとしての機能を求めているからであろうか。

7）身体障害者授産施設（あけぼのの家）

この施設は、身体障害者で雇用されることの困難なもの、または生活に困窮する者などを入所させ必要な訓練を行い、職業を修得させ、自活の道を計る目的をもつものである。建物自体は組立式鉄骨造あるいは木造の平家で、センター内の他施設に比べて古めかしい感じがしたが、なかで作業訓練されている方の姿を拝見して、あまり気にならなかった。訓練科としては、洋服科、洋裁科、謄写、印刷科があり、現在それぞれ５名前後の方が訓練に励んでおられた。

8）肢体不自由者更生施設（機能回復訓練課）

この施設は医師の管理のもと、理学療法、作業療法、言語療法がそれぞれ専門の療法士によって実施され、機能回復を図ることの目的をもつものである。また、生活指導、身上相談や教養、生活規律の指導相談のほか、補装具の交付、更生医療などの相談、手続きなどの医療ケースワークも実施されているそうである。

建物の内外部には、車いす使用者のために段差をスロープで処理したり、車いす洗い場を設けるなどの配慮がうかがえた。

9）補装具製作施設（義肢装具開発課）

ここでは、義肢装具の研究、開発とともに製作、修理、調整を行っているということである。また、兵庫県身体障害者巡回移動相談に随行し、義肢装具の修理、調整サービスも行っているそうである。施設目的の達成のために、空間的にどんな配慮をするかということよりも、どのような活動内容を展開するかということに、よりポイントをおいているという感じであった。

10）身体障害者能力開発センター

管理棟、コア棟、評価作業棟、厚生棟、宿泊棟などからなるこの施設は、一部工事中で、その完成を急いでいた。

浴室、便所、洗面所など障害者の配慮がよく施されており、その漸新なデザインの中でうまく調和していた。本年７月１日のオープンがまたれる。

◇

この種の専門施設は、従来からともすれば、辺ぴな所に建設されるのが通例であったようだ。この玉津福祉センターの場合もそうで、昭和21年・22年当時は、全くの都会離れした環境にあり、隔離された施設内だけの生活であった。ところがその後の住宅開発の進展により、周囲はすっかり住宅地と化した。したがって現在はセンター内の生



勤労身体障害者体育館
車いすによる壁面損傷を防ぐため、隅角を45°にしている。

活だけでなく、まちの中に住む感覚で生活しているといえる。実際、車いす使用者が喫茶店に入っていくと、ウェイトレスがいすを移してくれたり、席を確保してくれたりするそうである。それは単に喫茶店のウェイトレスのサービスというレベルにとどまらず、他の馴じみ客との交流もあり、施設が孤立してあるのではなく、施設があることにより、そこに出入りする人間相互のコミュニティ意識が存在している事実の一側面を物語ってはいないだろうか。

市街地において、心身障害者関連施設を建設する計画に対しては、反対運動がよく起こる。すでに“まち”としての骨格が整っている地域へ、この種の施設を建設する場合は、わりと阻害されがちである。

それについて、地域住民の障害者に対する意識・理解度が低いとか、住民エゴが強いとか、いろんな表現でその要因が考えられるが、将来の計画について、施設がその地域に存在することが地域住民にとって、マイナス要因としてではなく、むしろ積極的にプラス要因として、転化作用していくものとするにはどうすればよいのか、何が今までの計画プロセスの中で欠如しているのか、施設を計画する主体は、十分に考えていく必要があろう。

玉津福祉センターの場合、自然な形で、施設関係者と周囲住民とのつながりが発展しつつあることは、今回の訪問の中で最も印象にのこった一つでもあった。(田中)



新しい施設機能の要請とそれに対応する空間設計
—「松心園」大阪府立の自閉症児療育施設—

心理学におけるゲシタルト学派は、容れものとしての客観的・物理的空間と、その中で生活する人にとっての主観的・生活空間は常に即一的に対応するわけではないといった。たとえ隣りあわせの室でも、連絡する通路が複雑であれば、離れた室だと思い違いされることを考えればよい。

同じように、当初の関係者、なかでも設計者や施設のスタッフの意図した空間が、実際の運営の中で齟齬しなかったり、思わぬ面に会心の働きをしたりすることがある。

近年の福祉施策の展開は新しい種類の建物を生み出すことがあるが、自閉症児療育施設「松心園」もその一つで、昭和45年わが国では初めてのものとして大阪府枚方市内に実現をみたものである。

半世紀の歴史をもつ中宮病院（精神科を中心とする）に併設されているが、残部の斜面とでもいうべき、高低差の大きい南北に長い敷地にあるため、スキップフロアや高さのちがった庭や運動場で構成されている。

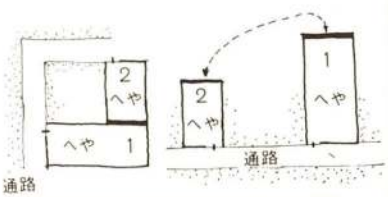
2階建の治療棟1,580㎡、平家の病棟部649㎡からなり、まわりの遊戯運動場等はあわせて3,000㎡である。

幼年から小学校高学年くらいまでの児童を医学的な管理のもとに①薬物療法、②個人遊戯療法、③生活習慣の指導(一般的な生活指導とバスツァーなどを含む野外指導）などを通じて療育しているもので、入所・通所ともに40名を対象とするべく準備されているが、現在、入所19名、通所15～16名で、これまで通所で27名～28名というピークもあったという。医師・看護婦・保母・ソーシャルワーカー・心理技師・生活指導員・検査技師・薬剤師など50余名のスタッフが治療その他にたずさわっている。

診療効率・使い勝手の上からは病院建築によくみるビジネスライクな感じもあるが、ファサードやブロックの形態などでいわゆる「病院くささ」をのがれる努力がみられる。

児童は自らのうちに環境のイメージを形成しつつある段階であり、ことに「自らの世界」のみに沈潜しがちな自閉症児に「外から呼びかける世界」としての建築空間はあまり切れ味のよいものではない方がよいようである。幸い、スタッフは白衣なしで平服かトレーニングスーツというなじみのある服装なので、いかにも病院くささがない。外からはじめて訪れるとき、待合室（家具らしいものをほとんどおかぬオープンなホール）で、まつわりつく児童と語らう背広の人がドクターで園長さんであることに気づかないし、訪問客のいる室に間違って入り込んだ児童を根気づよく話しかけて外へ導き出す人が医療スタッフでなく事務長さんであることも、ちょっとした驚きである。

ここでは、通所児童にとっての1時間が、通常の大人の1時間より、はるかになかみの濃いものにちがいない。まして、入所している児童にとって、中庭や設備や建築ディテールはさまざまな意味をもって彼らの世界にあらわれる。天井をはう露出配管はとびつく鉄棒となったり、浴槽内部のタイルはもののみごとに手ではぎとられたり、ナ





病院くささをさけた玄関廻り。
前面道路の傾斜と1階床面のとりあわせに苦労したようすだが、児童の施設の気安さがほしい気もする。



自閉症児の独自の心の世界とスタッフ・親たちの心をつなぐために工夫された遊具・家具



2階のグループ治療室前中廊下の壁。ほのぐらさとモノトーンをすくうため、あとからマンガが貼りつけてある。



観察室では各室のようすをモニターテレビで見ることができる。



個人遊戯室。タタミの敷いてある室の隅には遠隔操作のテレビカメラがある。



レベル差のある棟間をつなぐ通路に出たパイプラインは、時おり、園児がとびついてぶらさがる遊具と化すことがある。

イトスペースのテレビはアクリルの顔をもつよろいの中にガードされている。また、中庭を街路からさえぎる壁の重苦しさをさけてつけられた透かし穴の列の上部はモルタルで埋めざるをえず、頂部にしのび返しがつくこととなった。

これらのことが同時に厳しく建物安全性を要求し、設計段階でも多くの配慮がある。窓ガラスの多くはプラスチックスであること、児童がスタッフから目のとどかぬ位置にならぬようにすること、防火区画を設定するようなやり方で、用のないときにゾーンを分割する施錠のシステムなどである。

入所児童の家族との面会や外出・外泊は医師の指示を守る条件で積極的に勧められている。土曜日に家へ帰り、月曜日の朝戻ることで1週間のサイクルを意識し、つぎの土曜日を待つことで肉親への強い関心をとりもどす児童もいるという。1階治療棟と収容棟の間の面会室が外泊などのしたく部屋で、はきものなどの私物置場をかねている。

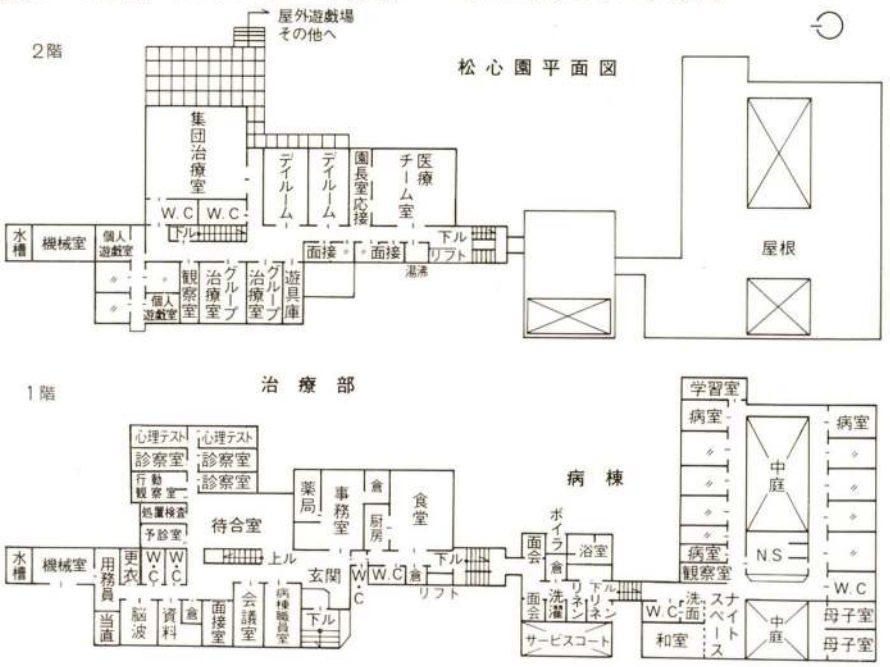
個人遊戯室の一つには、モルタルにペンキ仕上の壁だけに、掃除ずきな大人には喜ばれないような一面の落書きがある。落書きや貼紙をここに集中しているらしく、気をつけてみると、思いのほか他の室や廊下にそれがない。

全体としては設計者の手ぎわのよさとむづかしい機能処理の苦闘がうかがえるが、欲をいえば、治療棟の主階段廻りにほのぐらさと少し圧迫感がただよっているので、月並みなアイデアだが吹抜けやオープン階段の方法はなかったかと思われる。

細かくみると建築をつくるものに他山の石となるところの少なくない施設であるが、設計担当者、治療スタッフ、他の担当者の方々のそそいでおられる力に敬意を表したい思いである。

松心園は病院の一形態ということになろうが、建築的には新しい一つのジャンルである。

これからもさらに新しい種類の施設機能が求められるであろうとき、空間と生活の矛盾をのりこえるために大胆にかつ細心に試行錯誤が重ねられなければならない。(藤本)



生活の拠点としての住宅をバリヤーズ・フリーにする
—身障者のための住宅計画のポイント—

ひとは自ら住みなしてきた場所（家）にできるかぎり住むことを主張する権利がある。—と、北欧の福祉の理念の中にいう。障害のある人々や老人のための住宅保障は「治療」・「回復訓練」の施設保障と不可分の要請である。

住空間保障の計画上のポイントをあげてみると、

1）日常の生活行為の便益性を確保する

a）使いよいプラン

●在宅時間の比較的長い身障者・老人のためには、居室の快適さ、出入口・便所・洗面所・庭などへの動線がうまく処理されていること。車イスなどの補装具・自助具の使用に見合う室の大きさや通路のスペースなどを考えた間取りが必要とされる。

b）インテリア、ディテールのくふう

・出入口の段差をなくすこと、出入りに楽なドア形式を選ぶこと（軽量、開閉方向、把手の位置・形式、ドアむこうの様子が読めるなど）、車イス使用の場合、幅木や建具の下枠をキックプレートとすること、移行や用便や入浴・みづくろいのために手すりを要所に設けることなど、障害の部位や程度を個別に検討して設計しなければならない。

c）家具・設備の適切化

・作り付けのものでも、置き家具でも、人間工学的に寸法や使い勝手をしらべる。面積の制約や使い方のバリエーションを考えて、キャスター付にしたり、レバーによる上げ下げ装置をつけること

も有効である。

• 便器形式・シャワー・浴槽の選択にも気をつけねばならない。

• とくに、障害者が主婦の場合、家事動作にかかわる家具や設備には多くの配慮がいる。

• スイッチ・コンセント位置・電話の置き場など、さらには非常ブザー、常夜灯のくふうも必要となる。

d）自助具の選択と収納場所の配慮

• 身障の機能を補って、食事、身の廻りの世話、書字、電話などに用いられる「自助具」を、既存の住宅の性質にあわせて選択し、その使用や収納のスペースを考慮しなければならない。

2）外出の便利と安全のために

• 障害者・老人の在宅時間の長さは、外出の安全性や利便性の欠如によることも多く、階段や段差をへらしてゆるやかなスロープとし、道路とのレベル差処理にくふうを要する。玄関の庇はその下での雨具の処理や車イスの清掃などのため広い方がよい。都市部では宅地が狭いので出入りのスロープを巻き貝状にして途中に踊り場を設ける。門扉の前後には車イスの廻転や扉の開閉や郵便受け・ブザー等の利用のためゆとりが欲しい、したがって、門自体が道路の境界よりかなり引っ込めるとうまくいく。

• 自家用車の自力運転などはこれからさらに外出可能性を高めるものなので車庫・カーポートのスペースを考えておく方がよい。

• 身近な公共施設の利用・買物・通勤・公共交通機関利用の遠出を考慮して立地条件を選ぶ必要がある。民間の新規宅造地などには、敷地条件そのものはよくても、外出途中に急坂を持ったり、公共施設が不備なことがあるので注意を要する。

3）家族・介護者とのつながり

• 障害の重い人々にはホームヘルパーや家族の介護を必要とすることが多いが、介護の便を含めたスペースや設備のくふうが要る。専門的介護者を依頼するにも経済的な負担がかかるのと同様、かかりっきりの家族介護は家計の収入を減らすこともあることなどを含めて「つかずはなれず」のそれぞれの生活領域を確立することが重要である。

4）経済面の支えのための住空間

• 社会的に運賃割引・税制優遇などの支えの上に、障害者自らが働き収入を得るためにも、住宅は大きな役割を持つ。在宅就労が可能なように通常の居室に加えて「仕事部屋」の確保や兼用可能なプランが求められる。

• 通勤を必要とする就労には交通の利便などの面で、バリヤーズ・フリーにした市街地住宅の供給も考えられねばならない。

5）機能回復や発達訓練の保障・健康の増進

• 住宅は障害者にとっても最も安んずることのできる場所である、と同時に努力して諸能力の増進を計る自己訓練・発達保障の場ともなる。

• 家事に参画する、庭などへの出入りを容易にすることも考えねばならない。

• できるだけ独力でも生活行為が完結しやすいように関連づけた計画がなされる方がよい。

• スポーツを兼ねた回復訓練の装置や器具を居間やホールに配備するのもよいであろう。

• 医療施設・リハビリ施設とのつながりに有利な立地選択も重要である。

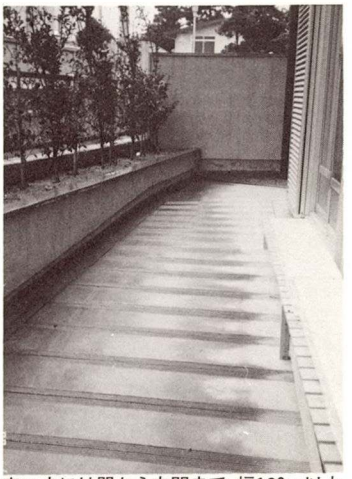
6）知人・友人・近隣との交流

• 在宅時間が長ければ長いほど、障害が重ければ重いほど、住宅内での対外的なコミュニケーションが重視されてくる。リビングルームにできるだけ面積をとることは、限られがちな知・友人の親交をさらに育てる空間保障ともなりえよう。経済的に許されれば、来客の宿泊を可能にすることもこのことに寄与するであろう。

• 電話もまた重要なコミュニケーションの手段であり、10数年寝た切りで電話が対外的な窓口となっている人の例もある。

7）非常時の安全の確保

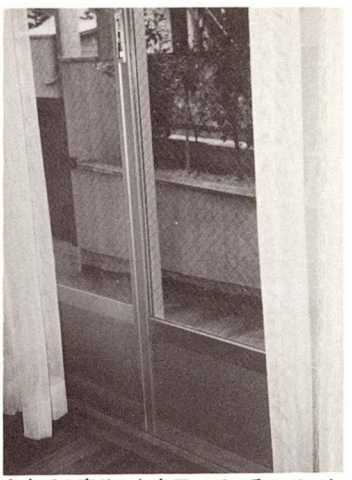
• 非常用のブザーやインターフォンを寝室や浴室や便所に設置して介護者の応援を求めるのももちろん有効なことであるが、火災などのとき、最後の手段として独力で一次的な安全域へ避難できることも考えねばならない。住宅の敷地外へ最終的には出られることが大切だが、寝室やそれに隣接



車いすには門から玄関まで、幅120cm以上、1/12〜1/20のスロープがほしい。



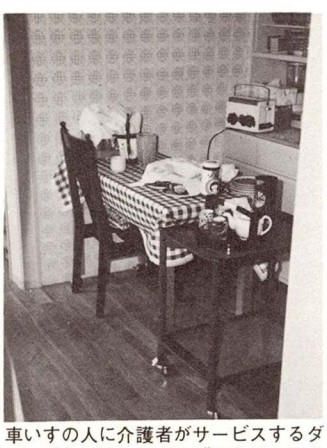
庇下のゆとりと段差の解消。水切のために鉄板を使用。ドアは内外どちらへも開けられる。



床までの窓サッシを用いているので、キックプレートとして、約30cm高の腰板を入れてある。



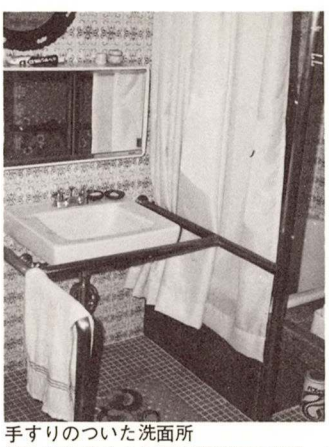
車いすで膝が入る応接テーブルにキャスターをつけて、使い勝手に合わせて移動させる。左手壁には回復訓練用の鉄パイプが設置されている。床はフローリング二重貼りで、荷重に耐えるよう設計されている。



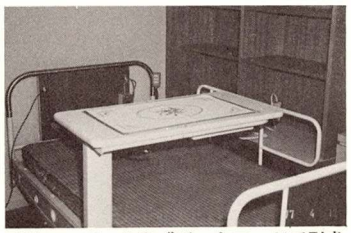
車いすの人に介護者がサービスするダイニングキッチン、テーブルもキャスター付きで方向をかえて使用する。壁もタイルなど、できるだけ防火的にする。



手すりをつけた便器廻り
左手下部の長い水栓は携帯便器の洗浄用。このとき便器が汚物タンクの役目をはたす。床面積の節約でもある。



手すりのついた洗面所
鏡もやや低く少し前に傾けてつける。右手にはシャワー室、浴槽がみえる。



電動ベッド。非常ブザーをコードで引き出している。

する公室には直接出入りできる床までの窓サッシが欲しい。ヌレエンなどはクッションスペースともなるであろう。

• また、自家から火災を発生させないために、火を使用する室や機械室などにとくに入念な防火構造が望まれる。

8）将来の変化への見通し

• 家族構成・年齢・家計構造はいずれ変動するものと考えねばならない。家族の介護人は高齢化する。障害者自身も年齢が増すと生活要求がかわる。結婚問題、対社会的役割の変化も加わってくる。それに応じた住空間の構成を考えなければならない。

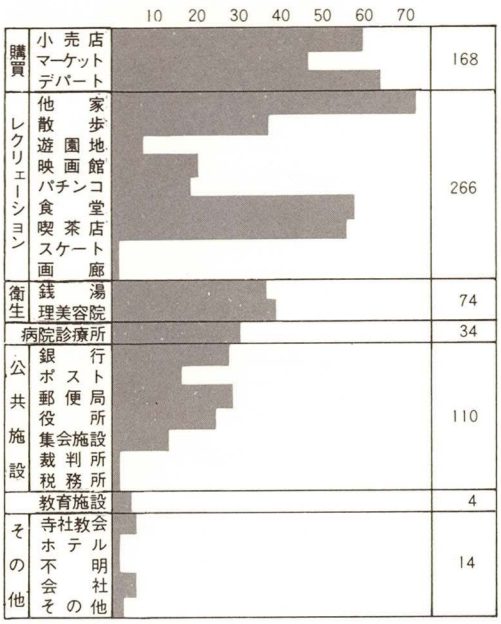
• 努力が実って身体機能が相当程度回復すると、外出が増えたり、既設の設備（手すりなど）がかえって支障となることもある。

• 公共住宅の場合（特目住宅など）はこれらに対応した「すみかえ要求」のフォローアップを要することになろう。

写真は車イス使用の住宅の例である。（藤本）



余暇生活のための屋外施設のテストケース
—大阪府営大泉緑地・盲人コーナー—



外出先の分布調査（件数）
（「身体障害者の居住施設に関する研究」S46.11　拙稿）より

障害のある人々の生活圏は一般に狭く、外出の際の行先も、商店・マーケット・親類・知人宅などが多く、行きつけや顔見知りを中心とする生活パターンのかたよりが指摘されている。日常の生活圏をもっと拡大したい、さらには余暇生活を含めた広域な生活圏をもちたいという願望も当然のことである。これらを保障するためには、

1）公共的な建築物や緑地・公園などをバリヤーズ・フリーに改造する。（点としての解決）

2）それらを多様に関連させて利用する、あるいは単体としてそこへ向かうための交通機関や道路網や交通安全施設を改善する。（線としての解決）

3）とくに重要な地区では地域的なひろがりの中で総合的に整備をしていく。（面としての解決）たとえば公共施設の集中した地区、都市機能や住宅地機能の中心となるところ、団地センターやいわゆる「盛り場」一帯の整備や既成市街地や新たに生じた過密地など問題集中地区の改良などが当面必要であろう。

このうち1）に含まれる戸外生活、なかでも、レクリエーションのための空間の整備は、障害者の生活圏拡大の誘因として大きな意味があろう。一般にハンディキャップによる「手近に日常のものごとを処理する必要」が拡大解釈されて、遠出や旅行のニードが忘れられがちであるが、むしろ、少ないチャンスに対する空間設計上の保障を重視したい。

ここに余暇生活のための大規模公園の例がある。12haの池を中央にもち、盛土による多少の起伏上に、森林地を構成する80haの大阪府営・大泉緑地（堺市金岡町）であるが、その西南の一隅に、昭和49年4月から7,500㎡が盲人コーナーとして開設されている。

別図のように大半が樹林でしめられ、その中を鉄パイプの手すりのついた園路がゆるやかに廻遊し、途中で二度渡る石橋は近くの池へそそぐ人工の小川にかかり、奥の方には将来なるであろう桜林と梅林にはさまれて芝生の広場がある。芝生広場と園路の結節点に、しっかりしたつくりの木造の「亭」があり、便所と水飲み場が入口から手近なところに設けられている。これらのありかや方向は手すりにつけた点字標示や足元の点字ブロックが知らせてくれる。園路は細かな砕石の砂利敷で、歩くほどにサクッとして足ざわりがよい。

聴覚・触覚が危険認知や誘導には最も有力な手がかりとされることは周知のことであるが、ここでは嗅覚をも積極的に導入しているのが特色といえよう。手すりに点字で示された樹木名を知るのみならず、四季の変化に応ずる花の香りも楽しめるようになっている。この4月初旬には入口近くと芝生広場の北側でジンチョウゲがよく香った。

他にも、キンモクセイ、クチナシ、ウメ、モクレン、ライラックなどが香る日を待つ。当初、これらは約1,600本準備されたという。

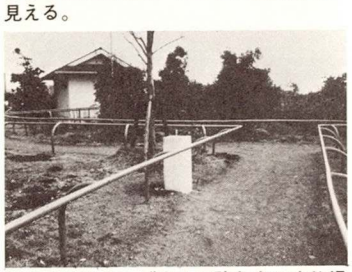
入口近くの円型の植えこみが「樹林見本園」でサルスベリ、ナンテン、イチョウ、シダレヤナギ、サクラ、ヤツデなど、互いに特色のある木が手すりに沿って並べられ、樹皮や葉など触れてみられる位置にある。

このコーナーは大規模公園ゆえに分化させることができたといえようが、皆の行く公園はどこでも盲人には楽しく安全に利用できるものでありたいという目標へむかう一つのステップとみることができる。

点字は盲人すべてに万能ではないし、視覚障害者の中で盲人は、弱視者（視力がゼロでないので、色、明るさなどを見ることができる）とは性格を異にすることも考慮に入ることとなろう。

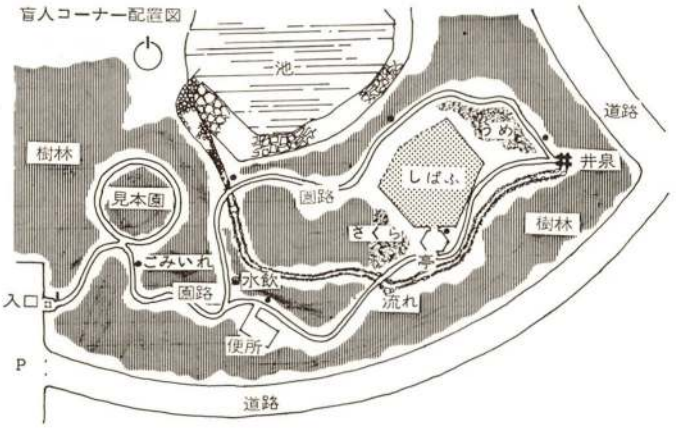


園路から点字ブロックと手すりの標で導かれる休憩所（亭）、むこうに芝生広場が見える。



ゆるやかにカーブする園路わきの水飲場。むこうに便所がみえる。

耳になつかしい流れの音や小さな滝のつぶやきを聞くべく作られた人工川も、残念ながら維持管理上の制約ゆえか、かわいた沈黙を保っている。ヨーロッパの広場にみる活気のある噴水や街角の水飲場にたえずしたたる水は、来たり去る多くの人々の暗黙の支持の力であろうか。この川も、公園の目玉的存在としてしかるべきところにつくられたら、いつも水をたたえることになるかもしれない。



交通の便を計っていることもあり、中央環状線という車のラッシュする道路からあまり離れられず、木立ちに訪れているかもしれない小鳥の声はたえざる車騒音にかき消されているようである。樹林が繁り、車の音よりよく透る野鳥の声に驚く日のあることを期待したい。

4月の日曜の昼さがりには、隣接する池の汀に群らがる子供達の活気あふれた呼び合いが、小鳥の声に劣らずなごめるものに聞こえるのは意図されたことであったろうか。

一定の成果を認められるバリヤーズ・フリーのこのコーナーに、新たなバリヤーズがあらわれている。

入口の触地図の完全な破損、園路をサーキット化する子供たちの自転車、樹林の薄いところを踏み分けて他のところへ向かう数カ所のカットアクロス。

このコーナーのもつ施設機能がいまだ一般の認識の外にあること、配置の条件のむづかしさ。

これらの課題の大きいことを思うとともに、視覚障害者の利用の繁くならんことを願いたい。

(藤本)


右手に円形の樹木見本園。これから葉の繁る季節となる。


人工の流れ。小さな滝となるよう石が組まれているのがみえるが、常時水が流れているのではない。

人間・福祉都市の足づくり
—神戸市高速鉄道駅舎—

市民の足として“緑の地下鉄”が新長田—板宿(いたやど)—妙法寺—名谷(みょうだに)の4つの駅をつなぐ延べ5.7 kmのルートとして、本年3月開業した。

神戸市のマスタープランでは、都心地区として三ノ宮、副都心地区として東に六甲道、西に新長田を設定している。今度、開通した地下鉄ルートは、名谷地区を中心に広がる新興住宅地のエネルギーを、西の副都心につなぐものといえる。

従来、地下鉄の駅といえば、何かうす暗く、陰鬱なゴミゴミしたイメージが強かったようであるが、今回、新長田をはじめ4つの駅を訪問して、そのイメージは払拭されてしまった。西神戸副都心として、新長田駅周辺地区は、未来に羽ばたく“鳩”がシンボルになっている。地下の冷たさを感じさせないレンガタイル仕上げの、ものやわらかな雰囲気の階段を下りていくと、トップライトに浮かびあがる駅コンコースの中に、“鳩”をあしらった水のモニュメント（鳩の泉）が迎えてくれた。

このように各駅には、市民に愛される駅として、それぞれのシンボルモチーフを決めているとのことであった。たとえば、つぎの板宿駅では、菅原道真公が筑紫に向かわれる途中、板の仮屋を一夜の宿にされたという故事に近代的感覚を加味して設計されたということで、コンコース南北端のステンレスミラーには、新緑の森と旭の森のエッチングを、ホーム壁面には、ひと目で板宿とわかる板の杢目のデザインを、ホームには擬木ベンチを配列していた。

そのつぎの妙法寺駅は、地下鉄としては珍しい青空の見える駅である。落合、横尾の両トンネルにはさまれた山あいの感じをそのまま残している。斜面に植えられた約2,800本の紅葉樹は、秋ともなればカキ、クリ、カエデの陶板をあしらったホームと周囲の山に映える赤いとんがり屋根の山小屋ふうの駅舎と相まって、一段と秋の色どりを増すことだろう。幻想的なおとぎの国に作られた“秋の駅”をイメージして設計されたということであった。

終点の名谷駅は、将来のニュータウンの玄関ともいうべき位置付けがなされているとのことで、構内両サイドの斜面の植込みには、春咲く花木類8種、約1,300本が植えられ、駅舎正面の大きな壁面レリーフ“春の風”とともに、春の希望あふれる陽があふれんことをイメージされているとのことであった。

このように各駅舎の設計には、ファッション都市神戸らしいアイデアが盛り込まれている。と同時にまた、これらの駅舎には、これまでの地下鉄駅舎であまりなされることが少なかった、身障者に対する配慮がいくつか設計当初から行われている。


井泉のところからゆるやかに園路は北へ下る。むこうにみえる池のまわりから子供のさざめきが聞こえる。


バリヤーズ・フリー設計にまたバリヤーズが現れる。


誘導ブロック



エスカレーターの上り、下り口の床には、視覚障害者のために、標示を行っている。階段の手すりは踊り場でも切断せず、連続させている。手すりの端部には点字標示を行っている。



車いす使用者向け便所



カラフルな便所案内サイン



新長田駅コンコース

従来、シャットアウトされがちであった車いす使用者の駅舎へのアプローチは、板宿駅を除く3駅では、スロープ・エスカレーター等の利用によって、可能であるように配慮されていた。

資料や実験では、車いす使用者のエスカレーターの利用は、少し慣れれば可能であるとしているが、本来あるべき姿としては、エスカレーターよりもエレベーターの方がよりよいということはいうまでもない。

担当の方から、現実の敷地条件（周囲建物、道路等の関係）の中でどうすればよいのか検討したという説明を受けている間に、ひとつの施設の系（物理的な系、社会組織上の系など）の中で配慮していくことの難しさ、より広域的ネットワークの中で配慮していく必要性をますます強く感じた次第である。そして現状では、その足りない部分をどうしても人間的なつながりに根ざした管理・運営サービス面に負わなければならないであろう。

自動改札機では、車いすで通過可能な有効幅が確保できないので、案内室（駅務員室）に最も近い位置に、車いすで通行可能な改札口を設けていた。

また、これらの駅舎には、それぞれ1カ所ずつ身障者用として、自動ドアの付いた車いす向き便所を設置している。そして、便所使用中は完全閉鎖状態となるために、防犯ボタンを便房内に設置している。

しかし、3月開業以来、これらの身障者用便所は「まだあまり使われていないようですね。」というお話であった。開業以来まだ日が浅いこと、地下鉄利用客の中では車いす使用者をはじめとする身障者の方の割合が絶対的に少ないこと、これら身障者用便所へのアプローチについて、スロープ・エスカレーター等の利用が考えられるにしても、何らかの抵抗感や阻害要因があること、この便所の存在のPRがまだ不十分であること…等々、その原因は多様に推測される。

私たちがこの身障者用便所のドアをあけて、中を見ていると、駅務員の方が飛んできて「使わないんだったら、勝手にドアを開けて入ったらダメだ」というおしかりを受けた。彼の話によると、子供達が珍しがって遊ぶので困っているとのことであった。

ふつう、うす暗くてせまい便房内でも、我がすみかを得た心地でしばしの哲学的想いにふけるものであるが、この明るい照明に満ちた広々とした洗面器、鏡付き、自動ドア付きの個室では、どんな想いをめぐらすのだろうか。現在のところ、子供達の楽しい遊び場になっているこの身障者用便所も、今後実際に使用される方にとっては、かけがえのないものとなることを期待したいが、本来、便所に求められるプライバシーの確保を、このような形で一般便所から隔離することによって達成しようとすることには、問題はないだろうか。体の不自由な方からすれば、他の健常者と同様に気楽に用の足せるものとして、アプローチしやすい所に、必要な数だけ作ってくれればよいと思うのではないだろうか。むしろ身障者用便所に対してなされる心くばりを、一般の便所部分に施すこと（たとえば大便器、小便器まわりに手すりをつける、足の位置がわかるようにするなど）を十分に検討していくことも今後は大切なことといえよう。

ともあれ、現状としては設計者のせっかくの努力も宝の持ちぐされに帰している感もあるが、将来のプロットタイプとして重要な意味をもち、一般健常者への理解を求める強い姿勢とも受けとられる。今後の管理・運営面での検討と併せて、真に身障者にとっても一般健常者にとっても、快適に用を足せる空間となりうるよう期待したいものである。

その他、目の不自由な方のために、誘導ブロックを歩道上のブロックと、出入口において連結させていた。混乱を防ぐために、とくに地下駅においては、1カ所の出入口より誘導し、囲まれた空間において障害物との接点がないように設置したということで、通路直線部分・通路の変更部分・交差部分の区別、階段の始まりと終わりの区別など、きめ細かい配慮の姿勢がうかがえたが、なお誘導ブロックの材質、形状（ノンスリップの模様の形状、方向など）について、統一的な敷設方法をめざして、検討を要するのではないかと思う。さらに“誘導を目的とするもの”に限らず“注意を知らせるもの”、“所在を知らせるもの”などについても総合的なシステムとしての検討が必要となってこよう。このことは国鉄・私鉄を問わず、各交通機関の駅舎において個々に身障者対策が順次、講じられる状況をみると、ますますその感を強くする次第である。

さらに、これらの駅舎には、階段の上り口、下り口等の手すりに、乗り場や出口の案内等を、また券売機には、硬貨投入口金額押ボタンの下部に、金額の案内等を、点字テープを貼付することによって行っていた。これらの配慮は健常者にとっては、別にどういうこともないようなことであるが、目の不自由な方にとって必要とされるものである。手すりの端部とか、券売機に限らず、都市施設における各部においても、このような配慮が心がけられるよう望みたい。

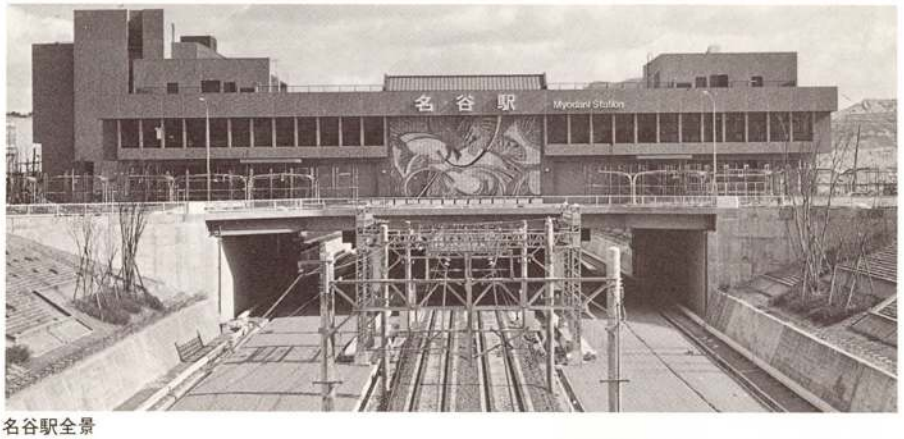


妙法寺駅全景



秋の駅（妙法寺駅）ホームのコンクリートかべに表情を添える。

以上紹介したような駅舎は、本テーマでいう、「身障者施設」といったニュアンスではなく、一般の交通の用途に供する「公共施設」といえる。従来、一般健常者しか受容しなかった「公共施設」を、身障者をはじめとするハンディキャップ層の利用についても安全かつ快適な空間としていくことを目ざしたものといえる。したがって、一般健常者にとっても同様に、安全かつ快適な空間として整備されていく必要がある。この一般解を求める作業として、神戸市高速鉄道駅舎の例は位置付けされる。今後さらに、多様なハンディキャップ層（身障者、老人、病弱者等）の要求性能に対応した、よりよい都市交通施設の実現を目指してゆかれんことを期待したい。（田中）



名谷駅全景


終点名谷駅のコンコース。駅をただの通路になり下がらぬよう、したしみへの配慮。

身障者施設からバリヤーズ・フリース・ペースへ

今回、特集として“身障者施設”をとりあげようということになったが、“身障者施設”といった場合、何を指しているのか議論の余地がありそうである。

ある特定の障害をもつ人々だけを対象とする専門施設として、リハビリテーションセンターのような総合的なものから、個々の障害者に対応したものまで、現行福祉・医療法体系にもとづいて多くの施設が整備されている。

今回のルポでもその範疇に属する施設として、神戸市の心身障害福祉センター、兵庫県の玉津福祉センターなども扱ってみたが、やや“身障者施設”という言葉を広義にとらえ直して、ルポの対象とすべき施設を選定してみた。

前述の法体系においては、福祉・医療施設として、その施設・設備の内容から組織・職員の構成に至るまで、相当に詳細な規則が定められている。そして身障者福祉の体系の中でさまざまな施策が展開されつつある。

最近、各自治体において取り上げられている「身体障害者福祉モデル都市」や「公共施設等の障害者向け整備」などの施策は、手当・医療の給付や福祉（専門）施設の建設のような身障者各人に対する直接的援助の施策とは色合いの異なるもので、身障者個人の生活や医療等を保障する段階から、さらに一歩進めて、身障者の社会参加を幅広く実現するための受け皿作りといえる。

これまでの都市生活環境の施設は、各種建物・交通機関・道路・公園等、すべてのものが身体上の障害をもたない人々を自明の前提としていた。本来市民の一人である身障者にも社会活動に参加する道を開き、その本来の市民権を回復するためにも、今までの社会生活環境を見直してゆかねばならない。さらに、いわゆるハンディキャップをもつ人々（身障者、老人、乳幼児、妊産婦、病弱者等）にとってよりよい生活環境が、一般の市民にとってもよりよい生活環境となることを期待したいものである。

ルポの対象として神戸市高速鉄道駅舎、大阪府大泉緑地公園を加えたのはこういった背景をもつからである。一般市民も使用する施設にこのような配慮を施した例は他にも多く見られ、公共施設のみならず民間の施設についても、公共性の強いものについては、何らかの形で配慮していくことが、施設の管理運営主体者、建築家等にとって常識化しつつあるといえる。

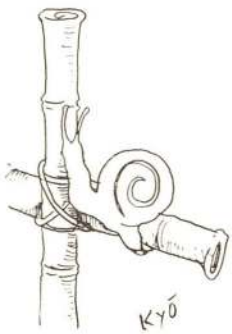
こういった配慮のあり方について、具体的手法や行政体の備えるべき基準の内容等、検討されるべき課題は多い。また、施設単体のみならず、施設間のつながり、道路、交通機関に対する配慮等、群としての施設のあり方についても十分に検討されるべきであろう。

以上のほかに、住宅を紹介させていただいたが、身障者について空間部位をどう設計するかという問題もさることながら、身障者と家族の問題、その就業問題等、背景となる状況をどうとらえるか、避け難い問題であるようだ。さらに個人の住宅のみならず公的住宅の供給のあり方をも含めた住宅問題として検討していくことが重要であろう。

住宅について身障者向けに改造・新築する場合には、経済的援助とともに、技術的情報を提供しうる社会的体制作りも重要であろう。

“実例をふまえて何かを語る”ということであったが、今回の特集企画のねらい通りいったかどうかは別にして、このテーマに関して読者の皆様が何かを感じたり、考えていく際に、ご参考になれば幸いである。

今回のルポに際して、絶大なご理解とご協力にあずかりました各施設の関係者の皆様に心から感謝申しあげます。



（ふじもとなおひさ　近畿大学理工学部講師
たなか　なおと　神戸市住宅局営繕課）

●計画例

公害病患者と生活空間保障—水俣病患者の場合を中心に—

西村　一朗

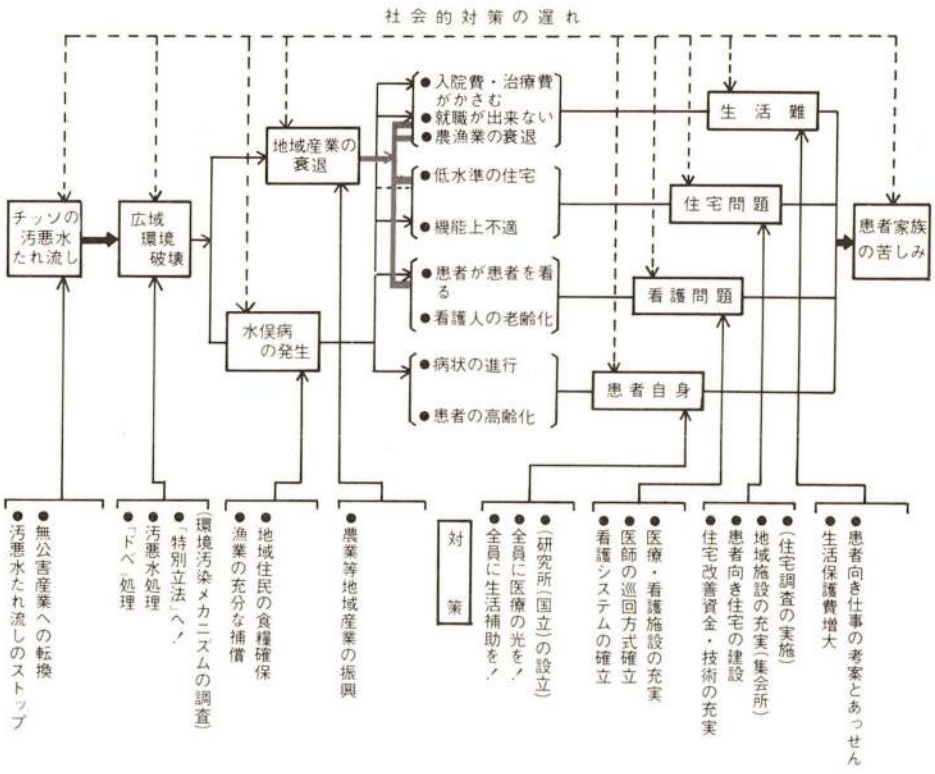
1．はじめに

公害病認定患者は、1976年2月現在で、33,466名となっている。(『環境白書』より)これは、認定というフィルターを通った数で全被害者の氷山の一角といってよい。実際、本稿で問題とする水俣病認定患者（水俣湾地域）は796名('76年2月末現在)であったのに対し、認定申請者は、熊本、鹿児島両県で、3,504名であった。申請にいたるまでに、さまざまな「社会的圧力」がかかることを考えると、全被害者はどれだけにのぼるか簡単にいえないくらいである。

このように膨大な数にのぼると考えられる公害被害者は、そのことによりさまざまな生活困難をかかえている。健康障害はその最たるものである。また、働こうにも働けない場合も多い。これらに対し、医療保障の面は、すすんできているといってよい。しかし、生活空間上の保障は体系的になされていない。ただ、補償金による住宅改善が個々にすすめられているにすぎない。

それでいいのだろうか。そこに、どのような問題が出てくるのか。それに対し、どうしたらよいのか。本稿では、それらの問題について、水俣病患者の場合を例にとって、論じてみたい。

図—1　水俣病患者の家族問題、住宅問題悪化のメカニズムと対策(案)についてのフロ→シート



2．水俣病患者の生活空間面からみた生活困難

私達が[1]、「水俣病裁判」の判決がでる半年前の1972年夏に現地調査をしたとき、**図-1**のような生活悪化の「メカニズム」が現地にあるのではないかとした[2]。そして、それらに対して、それぞれの悪化ルートを押し返してゆく「対策」(案)を提案している。ここでは、これを参照しつつ、住宅を中心とする生活空間面からみた生活困難を概括しておこう。

まず、住宅内で展開される家族住生活に注目しよう。家族ごとに千差万別の困難がみられるのであるが、そこに全体としてみられる特徴を指摘したい。

第一に、一家族に複数の患者をかかえているのが一般的である点である。普通の身障者家族の場合は、単数の身障者という場合が多いのではなかろうか。水俣地域の患者家族で複数の患者が一般的なのは、いわば当然なのである。なぜなら、海洋という広い人々の生命と生活の基盤全体が汚染されたとき、魚貝類の摂取を通じ、多かれ少なかれ、その海洋にかかわるすべての人々に影響がでてくるからである。多少の好き嫌いはあるにせよ、水俣沿岸住民は、水俣湾～不知火海の水銀汚染された魚貝類を食べざるをえなかったのである。一家族に複数の患者をかかえると、(1)まともな労働が少なくなり、収入は減少する、(2)他方、治療費が一層かさむ、(3)家族内看護に労力、時間がとられるなどによってその家庭の生活は窮乏化し、また漁業等地域経済の不振による出嫁ぎ等の条件も加わって、在宅患者の生活・看護条件は極度に悪化してゆくといえる。

第二に、患者による患者の看護をせざるをえない家族が多い点である。このような家族では、たとえば年老いた患者が胎児性水俣病の孫や子を看護したり、より軽症の患者がより重症の患者を看護せざるをえないのである。たとえば、入浴一つとってみても、看護する方も、身体が不安定で患者を浴槽に入れさせることができず、お湯をかけてすますというところも多く、入浴したい患者にとって生活要求が満たされない。

また、体のあちこちがマヒした看護する方の患者にとって、風呂

のほか、おしめ、食事、着替えなどに、想像以上の負担と苦しみが強いられている。なぜなら、その看護人自らも視野狭さく、疲労、精神障害等の機能欠陥をかかえているからである。

第三に、患者の成長、世代交代等進行性の影響である。一方での胎児性・小児性の患者の成長、高齢化に伴う体力増強、他方での祖父母、父母の老齢化、世代交代による看護人の能力低下、不在化は、単に個人的な生活困難の問題でなく、社会的な家族問題としても近い将来重大な問題となることが予想される。

以上の生活困難様相の下での、住生活困難にどのようなものがあるか。基本的生理的生活空間である便所、浴室、それに台所、出入口をとり上げて特徴を述べる。

便所についてみると、伝統的沿岸漁村住宅の特徴を残し、別棟になっている場合が多い。そのため、そこへの行き来に困難がでている。Sさん（芦北郡女島）の例では、まず大きな柱をつかんでやっとのことで土間におり、上り口の端を持ちながら台所まで行き、次いで壁に伝わりながら裏庭の出口まで行って、そこから約5m離れた戸外の便所に到着する。だから、夜など、とくに雨が降っているときの苦労は人並みではない。患者の多くは、いくつも戸を開けられない、しゃがむのが苦痛、時間がかかる、スリッパーがうまくはけない、便つぼに落ちる危険があるなどの困難を持っている。

つぎに、浴室について、みてみよう。大部分は低レベルなモルタル敷きの洗い場に五右衛門風呂をおいてある状態にとどまっている。患者の中には、体が硬直していて湯につかることが困難とか、またいで浴槽に入れないなどによって、流し場で湯をかけ、タオルでふくだけといった例が多い。

台所と出入口についてみてみよう。大部分の台所は土間にある。これは、いままでは漁業などに一家でたずさわっているという関係で、仕事のつづきとして土足のまま外から入れるという合理性を持っていたと言えるが、主婦が患者となって主に住宅内で生活することとなると配膳や後かたづけのため食事室との間を上り下りしなければならないことが苦痛となるのである。出入口では、土間より高い敷居につまづいて上りがまちに頭をぶつけるという例があった。

さて、住宅外の生活空間に関してはどうであろうか。私達が、調査で自動車を借り、集落から集落へとまわったのであるが、その際、海岸道路で自転車に乗った患者に出会った。案内していただいた現地の方が、スピードをゆるめてあいさつしていたが、患者は自動車をさけてよろよろとよろけて自転車をとめていた。安全な、そして疲れない交通空間が要求されよう。また、そのため、必要で出かける公共施設などはできる限りキメ細かく設置すべきであろう。

3．困難をやわらげるための技術的援助…(1)住宅

以上のような困難をやわらげる自主的努力が住宅改善などを通じて行われてきたが、裁判の判決（73年3月）以降、住宅改善の様相が少し変わってきた。

それは、補償金による新築ラッシュが始まったからである。水俣市南端の茂道地区がその典型といってよい。これは、行政側の体系的な援助のないまま補償金を手にした患者達が、長年の住宅困難を少しでもやわらげるため、また遠い将来のことを考えてやむにやまれずおこじている行動の結果であると言えよう。たとえば、ある胎児性患者をかかえた家では、その子のために最もいい位置に一室を設け、浴室や便所もすぐ近くに設けているが、他方、全体として部屋数を一見不必要なまでに多くとるとか、立派な床柱を設けるなど、豪華すぎるような現象もみられる。しかし、父親が「この子供のゆく末長い生活を考えると、社会的看護に期待が持てない限り、自分達両親のなきあとは親せきか誰かにこの子を託さざるをえず、そのため、せめて住宅でも良くしておこうと思った。」と語っている通り、行政の不十分さが、個人的改善や財産保全の側面を持ちつつも無理で不十分な住宅新築・改築を強いているともいえる。

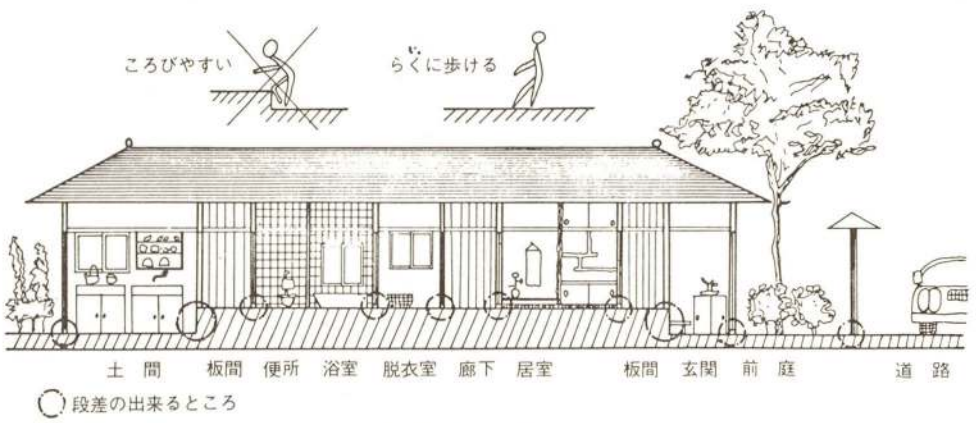
しかし、このような現象が地域全体で助長されると、どのようなことになるであろうか。

第一に、問題を、個人的に、補償金のみに頼り解決しようとする風潮が助長され、悪くすると個人間の住宅づくり競争に堕する恐れがあり、患者同士の分裂傾向にも一定の拍車となる。また、そうすることが大切な補償金の無駄使いの面も発生させる。

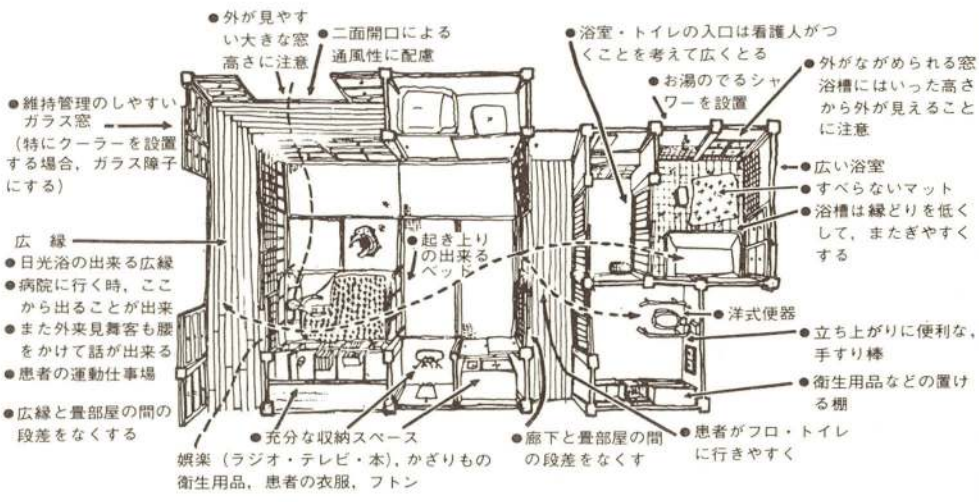
第二に、一般水俣市民の中には、これらの新築住宅を「奇病御殿」などと言う者があらわれており、患者と市民の間に妙な対立感情が成長する恐れがある。

第三に、患者同士、また患者と市民が一致して行うべき「チッソ」や行政に対する生活救済、環境復元等の継続的責任追及がにぶってくる恐れがある。

したがって、そうならないために、それぞれの家族の状況に対応し



図－2　段差をなくす



図－3　住みやすくする

ながらも全体として着実に住宅改善をすすめてゆく途すじが求められているといえるのである。

私達は、行政が①全患者の生活困難を調査し、問題点・課題を明らかにし、②それに対し、公営住宅への一部受け入れとその場合の平面等の改良、持家建設者に対する技術的アドバイスや「モデル住宅」の計画建設、技術者（大工、左官など）や生産者に対する指導と規制誘導、材料や資金に対する援助など多様な対策を状況に応じ、立体的に展開すべきであると考えた。しかし、行政が一向に動きださないため、患者の要望に応え、微力ながら私達はいくつかの試みを行ってきた。

第一は、「チェックリスト」(項目別改善表）の作成と普及である。これは2節で述べたような困難の分析の上に、それらを解決してゆく生活空間的工夫を、各項目別に示したもので、『住みよい住宅を創る工夫』というパンフレットにまとめ、患者に配布された。(昭48年12月発行）この全体を紹介する紙数がないので、目次と特徴点のみを紹介しておこう。

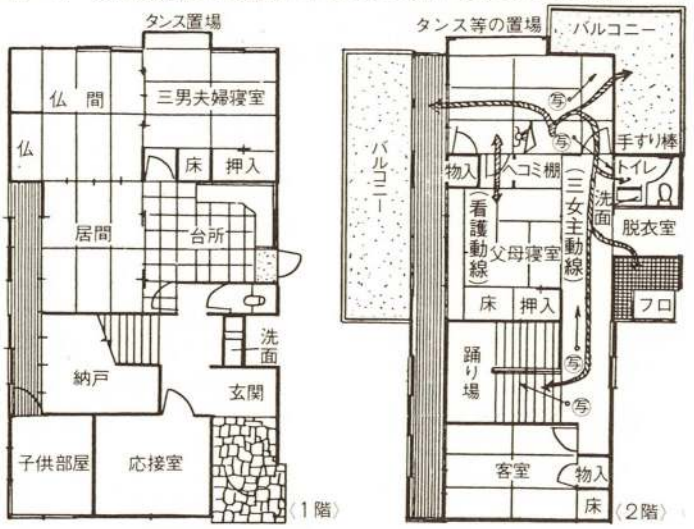
目次によると、項目は12に分かれている。すなわち、はじめに；チェックリスト（項目別改善表）の意味と使い方；段差をなくす；住みやすくする；考え方の基本；住宅全体；間取りと室内、室外での移動；寝室および居室；浴室；便所；台所等；出入口、である。それぞれに注意点、工夫点を示し、図示している。ここでは、特徴を示すため、〈段差をなくす〉と〈住みやすくする〉項の図版を再録し、その意義を述べておこう。

① 図-2のような段差の生ずるところで、なるべくそれらをなくしていくことが必要である。というのは、ほとんどの患者は、足の運びに不自由さを持っており、カーペットの縁につまづいてころぶといった例さえあるからである。

② 図-3のように患者の日ごろ起居する寝室・居間を中心に平面を構成することである。この図をみれば、改善のためのポイントが分かると考えるが、ここでとくに注意を喚起すべき点を指摘しておこう。まず、患者は苦しい起居を強いられているとはいえ、主体的・能動的に生きぬこうとしている人間であると把握されねばならない。すなわち、ほとんどの患者が過去において就労空間とした海への、「執着心」を持ち、またできれば軽い作業をしたいと考えている人もいる。したがって、住宅から海や浜や港が展望されることに配慮し、日光浴のできる縁側も軽い作業や体操などにも使えるように考えねばならない。つぎに、他の家族員（多かれ少なかれ症状がある）の要求も聞いて、住宅全体の構成が「歪む」ことのないよう配慮する必要があることは言うまでもない。

第二は、「モデル住宅」の必要性の提起と、その具体的計画の作成である。これは、すでに『朝日新聞』で「治療所を兼ねたモデル住宅を―水俣病患者の生活を救うために―」と題して提起した。（昭和48年10月３日夕刊）水俣沿岸集落ではほとんどが持家であり、建て替える場合、だれかの先例に見習いつつ行うというのが普通であり、その先例が不十分な場合、あとあとまで尾を引くことになるので、意識的に模範ともなるべき先例として「モデル住宅」を計画、建設すべきであると考えられるのである。また、それを行政が行うとすれば、当然他の公共施設とともに供給建設するのが合理的であり、一方患者側からみても、足の不自由さからいって、１カ所でいろいろの用が足せればそれにこしたことはないと考えられるため、「集落ごとの診療所、あるいは集会所をかねた〈モデル住宅〉」が必要といえるのである。これについては、行政が動き出さなかったので、頼まれたＳ氏宅（水俣市北の津奈木町赤崎）の基本計画を、了解をえて「モデル住宅」に模して作成した。その平面と、総括表の

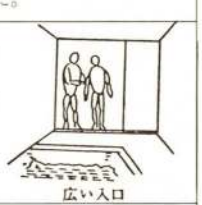
図－４　Ｓさん新住宅平面(図中，写とあるのは，写真のあることを示す――筆者)



表－１　Ｓ宅設計の工夫と問題点

項目	患者向け工夫(○)と問題点(●)
全体計画	○敷地条件が多少北側斜面と悪く、そうした中もっとも日あたり条件がよく、かつ海も見えるということで２階西側に患者寝室をもうけた。（水俣病患者は健康人よりも神経をみだされやすい場合があり、２階の方が落ちつくということにも一定考慮した。これらは、三女および母の強い希望でもあった） ○家人は地域の豪華な家のイメージの象徴である入母屋づくりを強く主張したが、われわれおよび大工の説得で、風および雨の害、さらには全体プランとの関係で寄せ棟とした。 ○大工さんの努力もあって、実質本位でかつ簡素なものをということで18万円/坪という破格の安いコストで完成、そのかわり壁板等でわれわれの指示に反し、デザイン的に多少ふぞろいな箇所が生じたりしている。 ●規模は当初最低規模で押さえる方向で計画を行ったが、家人の仏間、応接室、客間等の強い希望でかなり大きな規模になってしまった。
玄関	●玄関アプローチが敷石でゴツゴツしていて計画上の細かい神経が行きとどかなかった（水俣病患者は少しの段差でもころびやすい傾向にある)。
患者寝室	○敷地条件から、もっとも日当たりがよく、通風性が確保され、がつ眺めもよいところに配置。 ○海や道路がみえ、四季の草花の植木がおけ（患者の強い希望)、かつ近所の人たちとの会話をかわすことの可能なバルコニーの設置（ほとんど寝たっきりの患者にとって寝室まわりは生活のすべてとなる)。 ○視野狭窄でカドに顔をぶつけやすいので家具をすべてヘコミ式で入れられるようにした。 ○看護人となる父母の寝室と直接ドアで結ばれている。 ○寝室と廊下の間の段差をなくした。
サニタリー	○患者寝室に近い２階にフロ、トイレ、洗面の設置。 ○フロ、トイレ、洗面へのアプローチに段差をなくした。これは非常に有効で喜ばれている。 ○付添人がつくことを考え、入口は広くとった。 ○トイレはしゃがむより、すわる方が末しょう神経のマヒしている患者にはよいので洋式のトイレとし、手前には手すり棒をとりつけた。 ○フロは湯舟にはいらない場合を考慮しシャワーをとりつけた。 ●浴槽はあまりまたがなくてもよいように、かつ足をのばせるように等指示したが、多少意図に反したものになってしまった。
廊下・階段	○付添人がつくことを考慮し、廊下幅、階段幅を４分の３間と広くした。 ○ころんだ時の安全性等を考慮しカーペット敷きとした。 ○階段の傾斜をゆるくし、手すり棒をつけた。 ○まわり角は安全性を考え面取りの柱とした。
その他	○仏間は隣の寝室および居間と合同して３室が一緒に使用出来るので近所の人達の集会などに利用され、コミュニティ形成に活用されている。 ●内・外壁の色彩計画を充分てっていしなかったこともあり、現地まかせになり、落ちつきのないものになってしまった。 ●仏壇位置が現地の家相のために知らぬ間に変更され南側になってしまった。後で居室の窓の大きさ等部分改善を指示。 ●２階の半間の廊下は当初案ではつくらなかったが、大工さん、家人の強引な主張でつくられた。完成後は物置的になっている。





み、ここで紹介しておこう。(図-4, 表-1)

4. 困難をやわらげるための技術的援助 …(2)地域施設

住宅は、とくに重症患者にとって生活展開の一つの世界、いわば小宇宙となっており、そこに患者の生活空間改善要求が集中せざるをえない。しかし、気分の良いときや少し軽い症状の患者生活にとっては、住宅外の地域生活空間、地域施設も重要な生活空間である。そこで、ここでは2.をもとに、そのあり方について述べたい。

まず、3点ばかりの原則を掲げたい。

① 施設配置における「近接修正」

さまざまの地域施設の配置における到達平均距離のシビルミニマムがあるとすれば、水俣病多発集落においては、恐らくそれを患者住宅から考えてさらに「近接修正」されるべきであろう。なぜなら、水俣病患者の多くは施設に接近するのに普通の人びとより、より努力を要するからであり、その苦痛をフィジカルな面から軽減するためには、アプローチ方法（道路、交通手段）に対する配慮とともに目的施設が住宅からなるべく近くになければならないからである。

② 施設機能における狭域的複合化

同様に、さまざまな施設をバラバラに作るのではなく、そこへ行けば、多くの用が一度にたせるといった「施設機能の狭域的複合化」が必要である。前述した集落ごとの診療所・集会所をかねた「モデル住宅」もこれにあたる。ここにいう狭域的というのは、ほぼ集落ごとと考えられる。水俣地域を少し離れて、イタイイタイ病対策協議会が補償金を一定プールして計画・建設した「清流会館」が、これの一つの模範となるのではなかろうか。これは図-5のような平面である。「イタイ協」の事務局のほか、休息室（サンルーム付）、会議室、展示室・資料室などがあり、外には子供用の公園、広場などを配し、患者が来やすくする配慮がみられる。車イス用のスロープのほか、手すり、段差などに気を配っている点も当然である。この会館は、昨年度の中部建築賞を受けていて、デザイン的にも水準以上といえる。患者が協同して作りあげていった点も重要である。水俣でも、このような施設が、さらに必要ではなかろうか。

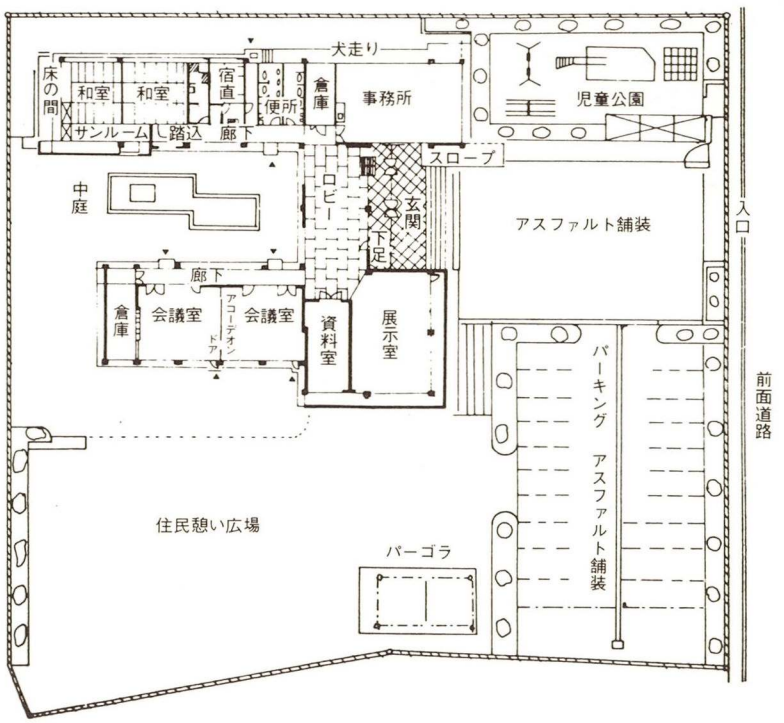
図－5　清流会館

構　造
鉄筋コンクリート平屋建

面　積
敷地　3,896㎡
床面積　750㎡

本　館（各室冷暖房）
展示室,資料室143.04㎡
事務室　82.80 ㎡
和　室（2室）67.34 ㎡
会議室（2室）121.34 ㎡

施設関係
児童公園（砂場，ブランコ，シーソ，ジャングルジム）
駐車場（普通乗用車20台収容）
住民広場（張芝，ベンチ，パーゴラ）

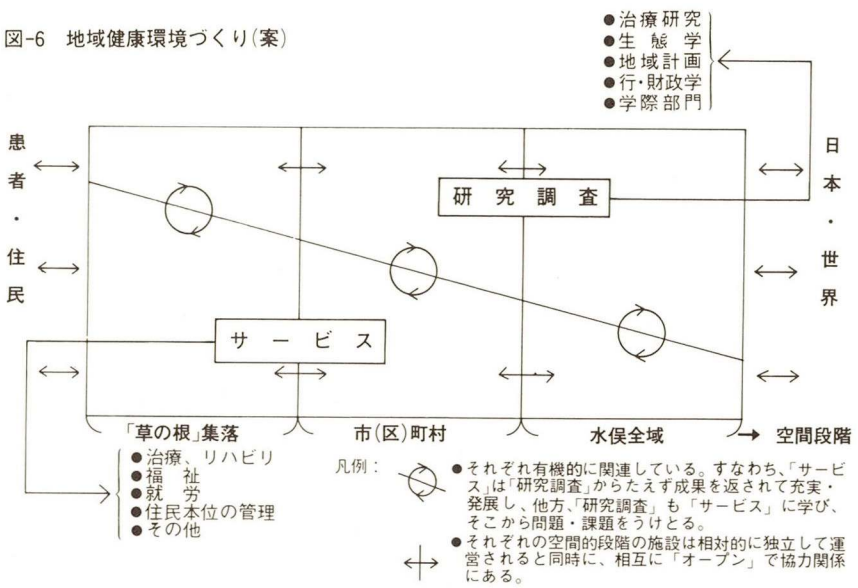


③ 集落構造にあった交通手段

もともと漁村集落では船を使った海上交通が主で、陸上交通は従であったといえる。現在でも、国道3号線から茂道地区に至る道路は舗装されているとはいえ、1.5車線ぐらいの幅で海岸線に沿ってまがりくねっており、スムーズな自動車交通には適していない。しかし、このことが自動車のスピードをおとし、注意深い運転を強制している。そのため、患者の徒歩・自転車交通要求には、現在のままでもそんなに不都合はない。だが一方、マイカー購入ラッシュもおこっている。水俣市街地へバスでゆくには、国道3号線まで30分以上歩かねばならない集落も多く、マイカー購入はやむをえないかにみえる。しかし、それは運転者にとっても歩行者にとっても集団的に危険な道に入りこむことになるのではなかろうか。したがって、現在の漁村集落の空間構造を、いわば「後発の有利性」ととらえなおし、マイクロバス、デマンドタクシーなどの導入を要求しつつ、歩道を海岸沿いも含めて確保することなどが必要となるだろう。

このような原則をもとに、水俣地域で地域施設体系を構想するとしたらどうなるだろうか。筆者は、それを「水俣地域健康環境システム」として素描したことがある(図-6)[4]。これは、一つの構想であるが、現実にすすんでいる患者、住民の努力（水俣診療所、協立病院―建設中―など）や行政の努力（明水園、水俣病センターなど）が全体として患者、住民のために有効に、総合的に働くことが重要である。現在のところ、かならずしもそうなっていない。今後の継続的検討が必要なゆえんである。

図-6　地域健康環境づくり(案)



注(1)1972年7月からはじまった共同研究（宮本憲一、三村浩史、舟場正富深井純一、筆者など）による討論が、筆者に大きな示唆を与えた。建築分野では、のちに別チームをつくって調査を行った。
(2)阿部成治、杉山義孝、山川元志、筆者；「水俣病患者住生活の実態と住宅改善についての調査報告」；住宅、1973.2による。
(3)山川元志、筆者；住宅、居住地改善の地域的特性に関する研究；日本建築学会近畿支部、1975.6による。
(4)拙稿；水俣地域における健康環境づくりへの途；障害者問題研究5、1975.12により詳しく説明してある。

本稿を書くために、過去に書いたものを、取捨選択したため、それぞれの部分に精粗がでてきている。ご希望の方には、それぞれのレポート・コピーをお送りしたいと考えている。

（にしむら いちろう　奈良女子大学住居学科・助教授）

●海外の事例1.

中国の身障者のための工場〝上海低電圧第二工場〟を訪ねて

石東　直子



上海市の市街区のひとつ徐江区にある身障者のための工場「上海低電圧第二工場」を1976年の夏に訪れた。この工場は民家や商店が並ぶ市街地の中にあり、近代的設備をもった工場とはほど遠く、大阪の西淀川区や城東区などの街中にあるような工場である。

熱烈歓迎の笑顔と拍手に迎えられて門を入ると、モルタルやトタンぶきの幾棟かの古い建物があり、建物の外には一列に並んだ洗面場があり、手や顔を洗っていた人たちまでが、その動きを休めて迎えてくれた。

この工場は、1958年に創設され、当初11名の労働者の手工業であったが、1960年からの技術革新により機械化がはじまり、現在、職員労働者513名が働いている。そのうち盲人138名、聾者95名、肢体不自由者40名の身障者が、健全人と一緒に働いており、15、20、25アンペアのプラグとソケットを製造している。

工場内を案内されていくと、盲人がモーターの前に座り、ネジの溝を刻んでいた。手を油でまっ黒に染め、小さな穴の中に手探りというよりは、素早くネジの元をつめ込み、モーターのスイッチを押してネジの溝を仕上げていく。その隣では、そのネジをさらに加工して部品を作っていく工程があり、流れ作業である。機械が故障して止まるとランプがつき、同室で働いている聾者がとんで来てくれることもある。しかし、これらの機械はすべて盲人たちが自ら設計し製ったものであり、修理も独自でやるという。盲人たちは、今まで(解放前まで)工場で働いていなかったので、初めて機械を利用することになり、目の見える人が懇に教え、機械を分解して、手で覚えていったそうだ。

日本人の(私の？)感覚では、かなり無理だと思われる複雑な工程、細かい仕事、危険だと思われるような高温の作業を淡々とやっている。建物も身障者のための特別な配慮はなく、モーターの音は大きく、ベークライトの臭いはきつく、天井から大きな扇風機が回っているが、上海の夏特有の高温多湿で雑然としている。働いている人たちの顔は汗と油でドロドロしているが、全く暗さのない生き生きとした表情であり、一瞬、ここが身障者のための工場であるということを忘れてしまうような賑やかさと乱暴さとがあった。そして、目が見えなくて、あるいは手足が不自由で気の毒だとか、いたわりの気持はついぞ、私には思い出せなかった。

しかし、中国の夏は暑いときいていたので、バッグにぶらさげていった温度計は、夕方の4時だというのに35℃を指しており、日本にいたら、私の口から、しんどいしんどいということばがしばしばでているだろうと思う気候条件なのに、そういうことばを発すること自体ためらうような場面である。



この工場には図書館があり、上海盲人中学校が点文した各分野の本があるという。勤務時間外には、毛主席の教えを学び、文化、天文、教育を勉強するという。スポーツも盛んで、聾者は卓球、バレーボールを、盲人は縄引きなどを楽しみ、各居住区にある文化宮(公民館のようなもの)では、その他の文化活動もやっているという。

上海市にはこのような身障者のための工場が市街区の各区に1カ所づつ10工場(上海市は市街区が10区と郊外区が10県あり人口1,000万人余りの都市である)あり、そこでは主として、プラグ、ソケット、プラスチック、オイルパルプなどの製造をしている。このほかに、労働局の指示で彫刻、広告、機械部品、食品などの一般工場にも勤めており、身障者でも労働力を持っている人はすべて働いているという。彼らは職住近接のため、ほとんどの人が歩いて通勤しており、その歩行をすべての人が手助けしているという。なるほど、街には、自動車が少なく、人があふれているので、ころびそうになったり、倒れたとしても危険を未然に防げるのだろう。

労働時間は8時間勤務で、身障者の賃銀は同じ工場で働いている健全人と差はないが、盲人のみは3元（平均賃銀は約70元/月)低い。しかし、彼らのためのサービスはいきとどいており、祝祭日には百貨店が食物を届けてくれたり、八百屋さんなどは定期的に家まで食料品を届けてくれたり、給料日には銀行が工場まで出張してきて家賃（この国では家賃とは言わず修繕費と呼び、一家の収入の3～5%である。)や電気代などを集金してくれる。また、郵便料金は盲人は1分(普通の人は8分)、本は40分(普通の人は1元60分)と安くなっている。(注 中国の通貨は1元＝100分で、日本円に換算すると1元は約150円である。)

◇

解放前の中国では、盲人たちは学校にすら行くことができず、生活することも難しく、生きる道は易者、演歌師、物乞いの三法しかなかったという。

しかし、今、中国では、女性といわず、盲人といわず、働く能力を持つすべての人が働いている。それは、建設途上にある中国では労働力の需要が大きく、身障者といえども、女性といえども、その労働力を必要としているという一面もあるかもしれない。だが、一時的な、肉体的な苦痛はあっても、働く場所が保障されてこそ、人間は生き生きとした顔ができるのだと思う。工場見学を終えての懇談会では、3年間のラジオ講座で日本語を学んだという盲人は、自分たちは社会主義建設のための国づくりに参加しているのだと、巧みな日本語で話してくれた。

(いしとう　なおこ　市浦都市開発建築コンサルタンツ)

●海外の事例2.

デンマーク、スェーデンの老人福祉事情について

上村　幸之



はじめに

去年の9月、日本老人福祉財団の主催による第1回北欧社会福祉施設研修視察団に参加して、スェーデン・デンマーク・フィンランド・西ドイツ・オランダの老人福祉政策、および老人施設について、実際に調査する機会を得た。

先進国の中でもとくに老人政策、および老人福祉施設に力を入れている北欧諸国の現状と、著しい遅れをとっているわが国の現状を比較して、いろいろな点で考えさせられたが、その中でもとくに印象に残ったコペンハーゲンにおけるEGV活動と、ストックホルム市における老人福祉政策を中心に述べてみたい。

EGV(老人福祉協会)

EGVは、ハーマンコッホ氏の提唱により設立されたもので、宗教団体や政党から何の制約も受けずに、老人福祉の向上を目指す活動を行っているが、今日では、この活動はコペンハーゲンを中心として、デンマーク全土に拡がっている。

財源

種々の会社・団体からの寄付によって賄われているが、今日では援助の大半は国とコペンハーゲン自治区（コンミューン）からの援助によるもので、法律によって義務づけられている。

職員

ボランタリーな訓練を受けた協力者、および専門職員によって構成されている。

デイセンター

デイセンターの目的は、老人達の精神的・肉体的健康の保持と向上を図ることである。老人にとって必要なのは、住居(老人ホーム)・看護（ナーシングホーム）およびデイセンターが総合的であってはじめて老人福祉施設が完備したと言えるが、このデイセンターは、老人が精神的にも肉体的にも孤独に陥らぬよう、快活で健康的な生活を図る目的で設立されたものである。

デイセンターは孤独な老人達に対して、多種多様な援助活動を行っているが、この文化活動を列挙すると、

- 文化活動：社交・ホビー活動・研究グループ・料理コース・運動競技・クラブ活動・旅行クラブ・演劇活動・宗教的行事・コーラスグループ等、老人達に対して必要な社会的・文化的および種々の行事に対応できるような場所が提供されている。デイセンターの建物には、規模の大小はあるが食堂・体育室・美容室・理容室・マッサージ室・ホビー室・図書室・談話室・集会室・プール等が設けられている。センターは原則として年中無休であり、日曜日も利用できる。EGVは、全国に17ヵ所のデイセンターを持っている。
- 休暇旅行：EGVでは毎年夏に4000人～5000人の身体の弱い老人か、あるいは身体障害のある老人達のために、定期的に2週間のレクリェーション旅行を計画、国内や外国の避暑地へ旅行するスケジュールをたてている。その場合、ヘルパーが同行することは言うまでもない。
- ハイスクール：EGVでは老人のためのハイスクールを開講しているが、期間は12日間コースと、1年間学べるコースがあり、年金受給の老人を対象に、一般の文化的・社会的問題や実際の問題について学習させている。
- 老人ホームとナーシングホーム：新しい老人ホームやナーシングホームは、コペンハーゲン市内の中央部に8ブロック・1100室を計画中で、一部完成している。
- 広報活動：老人達のための定期刊行物がデイセンター・医院等、老人にとって目に入りやすい場所に設置してある。これは年に10回発刊、部数は25000部に達する。
- その他の活動：老人のための遠足会・テレフォンサービス・カウンセリングサービス・クリーニングサービス等。

このようにEGVでは、老人達にとって必要な老人ホーム・ナーシングホーム・デイセンターの3つのシステムが完備されているが、このEGV活動は、老人達のニーズに応じられるよう、コペンハーゲンを中心として、規模の大小はあるが、デンマーク全土に拡がっている。

PEDER LYKEE CENTER

概要

PEDER LYKEE CENTER は、コペンハーゲン市当局とEGVの協力により設立されたものである。財源は、大半が公庫補助金と民間からの財源によるもので、コペンハーゲン市の老人福祉向上に大きな役割を果たしており、ボランティアを含めて約2400人もの人がこの施設で働いている。

規模

総面積	24000 ㎡	住居棟（（16階建）
デイセンター	2100 ㎡	単身者用個室240室
住居部分	12050 ㎡	夫婦用個室　30室
ナーシングホーム	9000 ㎡	
中央厨房	800 ㎡	
その他	50 ㎡	

ナーシングホーム

中庭を囲んだ3階建の建物で、老人病専用の病院であり、現在医師・セラピスト・ナースを含めて、37名のスタッフが看護にあたっている。体の不自由な老人のためには、このナーシングホームで、近代的な設備のある物理療法や作業療法の治療、機能回復の訓練が行われている。ナーシングホームの1階には厨房・作業治療室・物理治療室・機能回復訓練室が完備されている。

デイセンター

老人の社会・文化活動の場として、食堂・会議室・手芸室・ホビー室・図書館および読書室・集会室・調理室（実習・練習室）・マッサージ室等々、種々の部屋が設けられており、一般市民との交流の場にもなっている。



PEDER LYKEE CENTER のホビー室

中央厨房

この中央厨房では毎日約 600人の食事が作られるが、居住者はあらかじめ用意された栄養のあるメニューから、好みの料理を記入して厨房へ送れば、食事は厨房から住居棟の1階にあるレストランに運ばれる。

ストックホルム市における福祉行政について

ストックホルム市には、スェーデン総人口の8.5%にあたる、65万5000人が住んでいるが、そのうち65才以上の老人（年金受給者）は、約11万人（人口の16.8%）である。

市の行政組織は、大きく分けると9つの局から成り立っているが（**第1図**参照）、社会福祉局には、市全職員4400人中、実に半数にあたる約2200人の職員が、福祉関係の仕事に携わっており、その規模でいえば国営・民営の企業を含めて全国で14番目にあたる。

市の福祉行政について

1975年の法律改正以前は、アルコール中毒患者・児童・老人福祉は、部門がそれぞれ独立していたが、法律改正以後は統一されて、社会福祉局に統合された。

その下部組織である活動の中には、

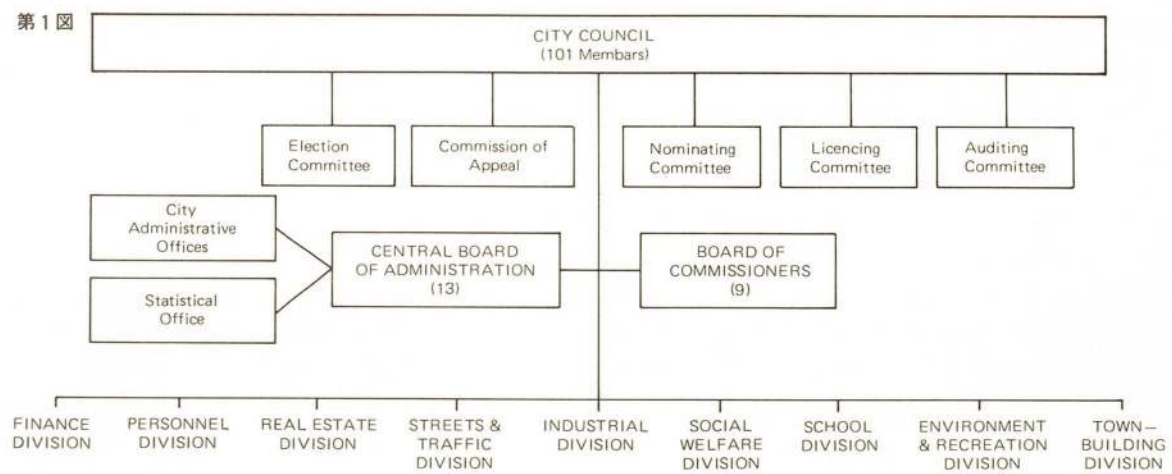
- 両親が休日出勤した場合、留守家族の援助にあたる
  ……DUTY OFFICE
- 住居、とくに老人住居を建設管理する
  ……DOMESTIC HOUSING OFFICE
- 老人や子供がいる家庭を援助する
  ……DOMESTIC AID OFFICE
- 身障者の援助を行う
  ……OFFICE FOR HANDICAPPED
- デイセンターなどの老人余暇活動を援助する
  ……LEISURE TIME OFFICE
- 青少年の余暇活動を援助する
  ……LEISURE TIME DEPARTMENT 等

細部にわたって組織化されているが、全国の自治体の約60%が、規模の大小はあってもこの組織に従って活動している。

一方、市の老人福祉行政の基本としては、

- FLAT IN ORDINARY HOUSES; 古い型の老人アパートや一般アパートを、老人用アパートとして改造したもので、現在市内に21棟点在している。
- PENSIONERS DWELLINGS; 新しく建設中の老人用賃貸アパートで、主として夫婦用の2DKと、単身者用の1DKからなり、図書室・手芸室・食堂・診療室（看護婦1人常駐・医師週1度来診）などが併設されている。現在、市内に完成されているのは14棟である。（建設費1500万kr～1700万kr/棟。管理運営費9000kr/人）注）1kr.（クローネ）は64円
- HOME FOR OLDPEOPLE; 独立した老人住居で、建設費9000kr/戸。管理運営費31000kr/戸であるが、この独立住戸は老人用アパートに比べて割高になるので、今後は老人用賃貸アパートとの併用型で計画される傾向にある。
- HOSPITAL FOR OLDPEOPLE；一般にナーシングホームと呼ばれているもので、たとえば、ストックホルム市内には、1975年に完成した780ベッドを持つナーシングホーム（ROSENLUNDS SJUKHUS）には正規医師12人・アシスタント医師 200人を含めて、職員1100人が老人の看護にあたっている。ナーシングホームの数は、現在でも不足がちで、市内でも、2000人の老人が入院を待っている状態である。
- DOMESTIC ASSISTANCE；市内17ヵ所に点在するサービスセンターに常駐しているホームヘルパーが、老人住居を訪問

第1図





コペンハーゲンの老人ホーム

デンマーク

フィンランド



オリンピックの選手村だったヘルシンキの老人ホーム



ヘルシンキにあるナーシングホームでの寝たきり老人



同　療養中の老婦人

西ドイツ



シュトットガルトの老人ホーム

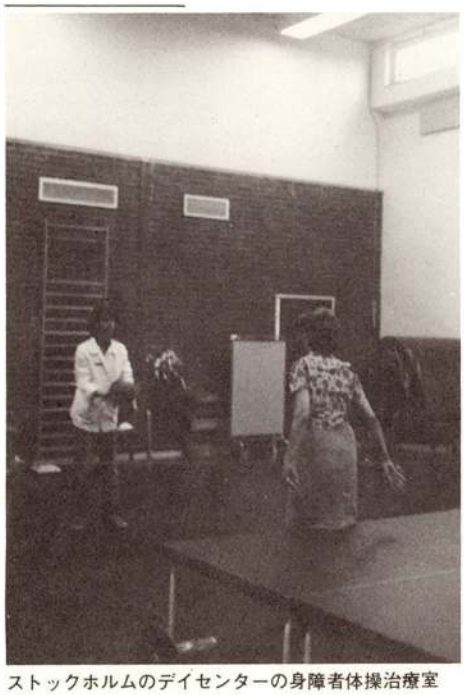


シュトットガルトの老人ホームの食堂



フランクフルトの老人ホームの中にある劇場

スェーデン



ストックホルムのデイセンターの身障者体操治療室

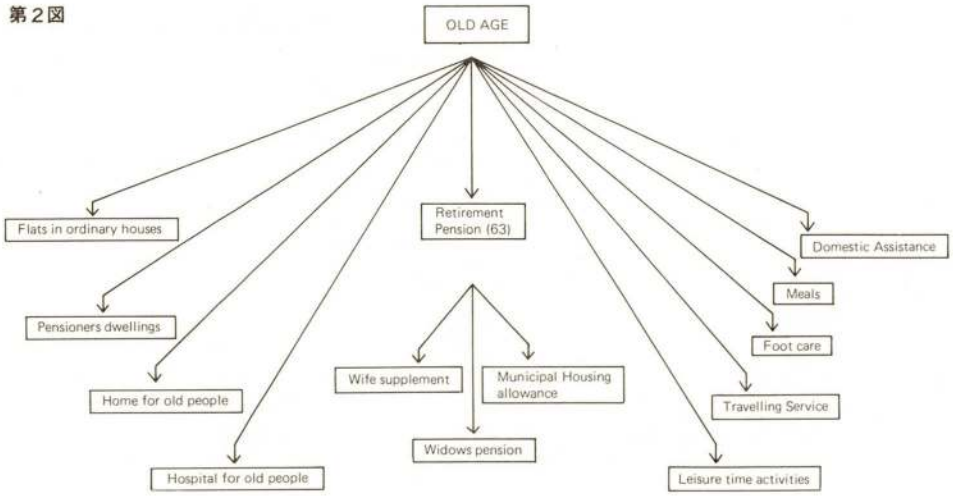


フランクフルトの老人ホームの演奏室



シュトットガルトの老人ホーム　老人の描いた絵画が展示されている。

第2図



第2表　単位：億kr.　（　）内単位は億円　1 kr=64円

スェーデンの年間予算		ストックホルム市の年間予算	
総　額	740 (47360)	総　額	73 (4672)
老人対策	286 (18304)	社会福祉予算	15.7 (1004.8)
病　院	178 (11392)	老人福祉予算	5 (320)
医療保険	146 (9344)	生活保障予算	3.7 (236.8)
その他	130 (8320)		

して、老人の日常生活を援助している。現在、ストックホルム市内にはホームヘルパーとして7200人が登録されている。

- MEALS ; 老人のために児童の学校給食が済んだあとで、食堂を開放して老人のために暖かい食事をサービスしている。
- FOOT CARE;老人の固くなった手足を、セラピストが足の爪切り・マニキュア・マッサージ等15krで治療する。
- TRAVELLING SERVICE;交通機関を利用することができない、体の不自由な老人達のために、市当局が年間72枚のクーポンを発行している。タクシーを利用する場合、クーポン1枚と2kr支払えば良い。このクーポンをもらうためには、医師の診断が必要であり、現在市内の登録者数は全部で46000人である。
- LEISURE TIME ACTIVITIES; 市内に2ヵ所の大きなデイセンターがある。老人達に心身ともに快活な生活をさせるために設けられたものである。市は余暇活動（文化サークル・旅行等）を積極的に援助しているが、市内に住む老人の50%は、この活動に積極的に参加している。代表的な施設であるTELLUS CENTER（延べ2500㎡）では、主として体育館・サウナ・ホビー室・音楽室・FOOT CARE室・食堂・図書室・談話室・身障者用体操治療室・講堂等が設けられており、1日に平均750人の老人が利用している。（**第2図**参照）

年金について

現在、国家が支給している年金額は、老人が65才に達した日から単身者1040kr/月・夫婦者1795kr/月であるが、この額は国民の生活基準最低額の95%にあたり、毎月政府の発表する物価に応じて、スライド調整が行われる。年金だけの人・国民年金以外の年収2000kr以下の人・収入が銀行利子のみの人で、銀行預金額が7500kr以下の人は政府が家賃を全額補助するので、年金のみの人でも食べる心配はいらない。ストックホルム市内では、全老人の半数が家賃を免除されている。市当局は社会福祉局の予算15億7400万krから2億2000万krを家賃補助にあてているが、スェーデン全体では10億krの予算が計上されている。一方、会社等で働いていた人は追加年金として、停年時から15年前までにさかのぼった平均月収の60%が支給される。また未亡人年金は、50才以上になれば支給されるが、50才未満の場合でもその一部が、また16才以下の子供をもった未亡人の場合は全額1040krと児童年金が支払われる。65才以前に病気にかかったり、失業した場合は普通年金よりも多い1257krが支払われるが、この制度は1975年に定められたものである。


ストックホルムのデイセンターの図書室


同　談話室

◇

われわれが見学した北欧の諸施設では、つつましいが何の不安もない生活を送り、老人達にとって生きている限り社会人としての自覚と誇りを持ち、生き生きとした生活を送っているように感じられた。そのためには、社会が老人達のニーズに応じられるように、また老人住居・ナーシングホーム・福祉サービスセンター・共同食堂等の施設充実と、老人達のハウスキーピング・機能回復・リクリェーション・レジャー・コミニケーション等に力を入れており、われわれが視察した国はいずれもが、規模の大小はあっても、次第に整備されてきている。

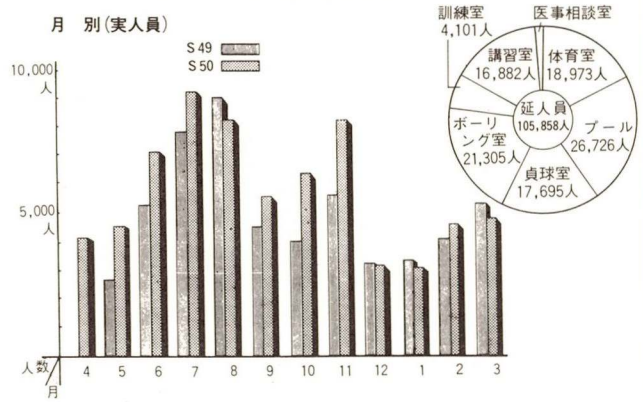
北欧諸国では、①すでに援助を必要とする状態にあるものを援助する政策、②援助を必要とする状態に陥らぬよう予防する政策、③社会の構造を改革する、言いかえれば国民の異なったグループ間の年収を平均化し、より以上の平等をもたらず手段を講ずる政策、の①②の段階から、つぎの③の政策に入りつつある。国民年金も一応完成し、老人のための住宅政策・ホームヘルプ事業も整った結果、最低線での老人の独立生活を可能にした。しかし、退職後、一部の人々が裕福な生活を営もうとしても不可能になり、さらにそのための税金も高負担（スェーデンでは年収の35%以上）となり、社会問題として取り上げられているのもまた事実である。わが国の人口構成が急速に高齢化しつつあり、ヨーロッパ諸国の老人福祉政策が、永い間かかって解決しながら、なお新しい問題をかかえている今日、わが国においても、早急に個人・社会・国とあらゆる角度から総合的に取り組む必要があると痛感させられた。

（かみむら　たかゆき　KK大林組設計第2部設計課長）

大阪市身体障害者スポーツセンターの利用状況

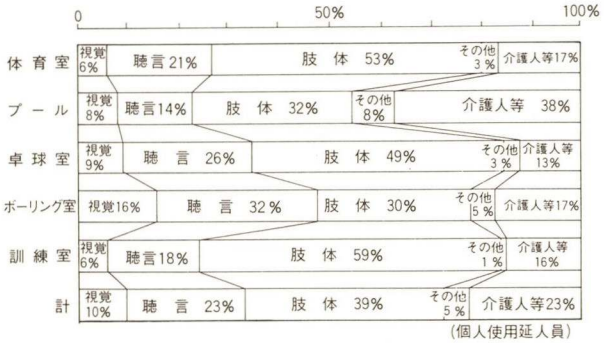
49年５月に東住吉区長居公園内に開館して以来まる３年を迎えた大阪市身体障害者スポーツセンターの利用状況が、(財)大阪身体障害者更生援護事業団の手により、年報としてまとめられているので、昭和50年度年報のなかから、その一部をご紹介しよう。集計期間は昭和50年４月１月から51年３月31日までの１年間である。

▶月別・施設別利用状況（介護人等も含む）



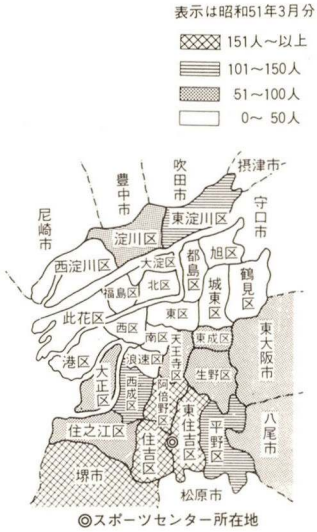
▼障害別施設利用状況（介護人等も含む）

障害別のその他に属するのは内部障害者、傷痍軍人、精薄児（者）、情緒障害児である。それぞれの障害者の施設の利用度は肢体においては平均的な利用度を保っている。しかし聴言障害者はボーリング使用が全体の施設利用の41%に達する。さらに視覚障害者においても同様にボーリング使用が46%というように利用施設が偏向している。その他障害者のプール使用の多いのは情緒障害児・精神薄弱児の利用によるものでセンターの各種のスポーツ教室の成果によるものである。



（個人使用延人員）

▼地域別利用状況



◎スポーツセンター所在地

身障者のための「エイドセンター」オープン

民間の手になる身障者のためのセンター「エイドセンター」が、去る３月３日オープンした。

これは、マンテンのヘルシー機器部福祉機器課のパートナーであり、かつ身障者用バギー、装身器具等を開発、製作している川村義肢㈱が創業30周年記念事業として建設した展示・相談のためのセンターで、大阪の天神橋筋沿い、北区南森町交差点東の地下鉄・市バスの駅前に位置している。

従来から、身障者が自助具等々を求めるには、福祉事務所をルートにする場合と病院の指示で器具をつくる場合があるが、老齢化の進む今、身障者だけでなく自助具などを必要とする人がふえている。市販はされているが、マスプロにのせられるものではないこれらの器具を気軽に利用できるよう、身障者と相談しながらその人に合ったものを設計していくことを目的として、この「エイドセンター」を開設したと話す川村一郎社長は、さらに「せんべい」のように奥行のない建物で車いす利用者のためのスロープもとれなかったがと前置きして、今後のエイドセンターの利用計画を語った。

現在は、エイドセンターでは身障者自立のための機器――コルセット、ステッキ、自助具、輸入食品（手の不自由な人に、加熱すると握りの部分が手に合ったよう変形するスプーン、すくう部分が回転するスプーンなど。輸入品に頼っているのが現状だという）、リラックスバギー（赤ちゃんのバギーを改良したもので、車いすより手軽に利用できる）などの展示・相談を行っている。

今後、人工受便器（ラパック）使用者の団体「明るいくらしの会」の大阪の事務センターを２階に置き、ラパックの郵送配布を考えていき、また尿集器のセンターともしていく。

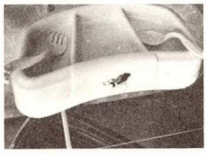
「２分脊椎の親の会」が結成され活動しているが、４階は会議室として、そういう団体や身障者、家族の人々に広く利用されるよう計画しているという。

エイドセンター
所在地：大阪市北区天神橋筋２－20



設　　計：創建設計
施　　工：一宇工業
建築面積：37.76㎡
延べ面積：165.69㎡
構造規模：鉄骨造、耐火被覆、５F

手の不自由な身障者用スプーン



大阪・キタに身障者専門の店誕生

５月８日、大阪駅前近くのホテル阪神地下１階に身障者のための服飾専門店“HELPER'S”がオープンした。

阪神百貨店のかたすみでリフォームを手がけて20年近くの“森南海子の店”へは、リューマチで手足の不自由な人が服をふろしきにつつんで来る。四十肩で腕のあがらなくなった婦人が、太った人が、老人が、一般客にまじって着やすさを求めてやって来る。そんななかで、デザイナー森南海子さんは、ごく自然に身障者専門の服飾店をつくる構想をあたためた。

身障者の声を集め、自ら車いすにのって研究し、ヨーロッパに出かけて身障者専門の服飾店を見て歩いた。ヨーロッパでは障害者がクリアな色を選ぶこと、また、まわりの人が手とり足とりのサービスをせず自分で脱ぎ着していたことは、驚きだったという。

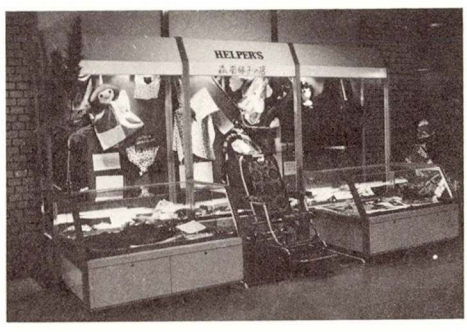
「大阪には、〝お互いさま〟とか〝もちつもたれつ〟とかいう言葉がありますねえ。小さな力を出し合って補い合うというか……大きなものにしていく……、そういうことなんですよ、この店は。」

店は小さな力を出し合って作られた。「中之島を守る会」で知りあった建築家の高田昇さんがこの一角を、向かい合うマタニティーの店との調和を考えながら、ショーウィンドーの位置や高さ、通路やフィッティングルームの大きさ・機能などを身障者向きに研究して設計した。施工も「ご厚意で、ある工務店でしていただいたんですよ」と店をきりまわす森さんのお母さんが話していた。

車いすから見えるようにした、角をとった低いショーウィンドーが２つ。車いすに乗ったマネキンは車いす用の赤地に白い小花をちらしたレインコートを着ている。両脇をファスナー明きにしたズボン、タオル地の軽いショルダーバッグ、カラフルな子供用スモックが、小さな言葉を添えて展示されている。

エレベーター近くに位置するこの店に、車いすの人が、そして外に今まで出るのをいやがった娘をつれて母親が、訪れている。

「着やすさの上に、何をのせるかというのが今後の課題です。リフォームの店ではお客さまに〝あなたはこういう体型だからこの方がお似合いです〟〝ここが欠点だから、こうカバーして〟というようなアドバイスをしてきたが、やはりそういうアドバイスをこの店でもしていきたいと思います」と森さんは話す。



構造の頁

36 プレストレストコンクリートST版の設計例

徳永　雄一郎

設計条件

スパン　　10 m
負担幅　　1.2 m
荷　重　　500 kg/m²　仕上＋積載

設計方針

小型部材なので、プレテンション工法を採用することとし、プレストレッシングの状況はフルプレストレッシングとする。ボンドレス工法は採用しない。

材料強度

表1，表2 参照

断面の形状・諸係数並びに鋼材の配置

図1 参照

応力の算定

M 自＝0.1450×2.5×10²÷8＝4.54 T·m
M 仕＋LL＝0.5×1.2×10²÷8＝7.5 T·m　} 合計 12.04 T·m
Q 自＝0.1450×2.5×10÷2＝1.82 Ton
Q 仕＋LL＝0.5×1.2×10÷2＝3.0 Ton　} 合計 4.82 Ton

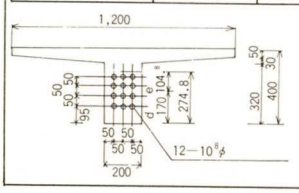
表1　コンクリートの許容応力度 kg/cm²

	プレストレス導入時	設計荷重時	
圧縮強度	Fc' 400 ※1	Fc 500	1条
許容圧縮応力度	$fc'=0.45Fc$ 210	$fc=\frac{1}{3}Fc$ 166.67	48条
許容引張応力度	$ft'=0.07fc$ 14.7	ft 0	49〃
許容斜張応力度	〃 14.7	$0.07fc$ 11.67	51〃

※　$Fc'\geqq fc'$　　※2　$fc'<210$

表2　PC鋼材の強度　Ton/ケーブル　53条

SWPR7A	9.3 φ	10.8φ	12.4φ
引張荷重	9.05	12.20	16.30
降伏荷重	7.70	10.40	13.90
許容引張荷重			
（定着時）	6.16	8.32	11.12
（導入時）	6.55	8.84	11.82
設計緊張力	6.16	8.32	11.12



A ＝ 1,450 cm²
I ＝ 209,125 cm⁴
$Z_{上}$ ＝ 16,707 cm³
$Z_{下}$ ＝ 7,609 cm³
$K_{下}$ ＝ 11,52 cm
$K_{上}$ ＝ 5,25 cm
$Y_{上}$ ＝ 12,52 cm
$Y_{下}$ ＝ 27,48 cm

図1　断面形状と諸係数

断面の決定は図2の順序による。

最初の断面仮定において、梁せいはスパンに対する比で見当をつける。現場打一体式造で1/18～1/20，プレキャストのラーメン構造では1/15～1/18，本設計例のようなシンプルビームで1/20～1/30程度となる。梁幅は適当で良いが、鋼材の並びを良く考えて決める必要がある。73条　断面諸係数の計算は図5による。

検討式 $M\max/Z_{下}\leqq fc$ は図3により求めた。この検討式は断面下縁の式であり、I 型断面等ではこれが十分条件とはならないが、本例のようなT型断面では、上縁の Z が大きいのでまず十分条件と考えて良い。

$M\max \div Z_{下}=12.04\div 0.07609$
$=158.33<166.67$　OK

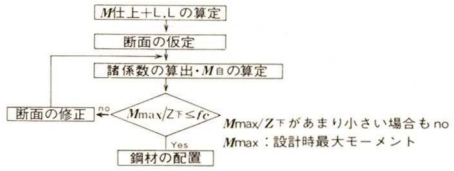


図2　断面の決め方

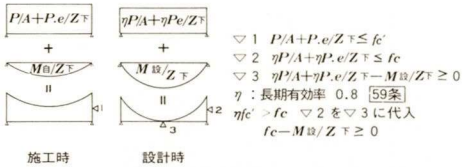


図3　断面下端縁応力の変化・検討式の導き方

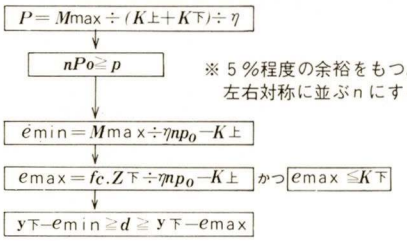


図4　　d：下端より鋼材芯までの距離

鋼材の量および位置は図4の順序で決める。

各式はつぎにより求める。

中央下縁 $\eta p/A+\eta p.e/Z_{下}\geqq 0$ ——①
断部上縁 $\eta p/A-\eta p.e/Z_{上}\geqq 0$ ——②
断部下縁 $\eta p/A+\eta p.e/Z_{下}\leqq fc$ ——③

ここで $Z_{下}/A=K_{上}$，$Z_{上}/A=K_{下}$ を代入

$\eta p\cdot k_{上}/Z_{下}+\eta p\cdot e/Z_{下}-M/Z_{下}\geqq 0$
$\eta p(K_{上}+e)\geqq M$ ——①'

$\eta p\cdot k_{下}/Z_{上}-\eta p\cdot e/Z_{上}\geqq 0$
$\eta p(K_{下}-e)\geqq 0$　$K_{下}\geqq e$ ——②'

$\eta p\cdot K_{上}/Z_{下}+\eta p\cdot e/Z_{下}\leqq fc$
$\eta p(K_{上}+e)\leqq fc\cdot Z_{下}$ —— ③'

①'②' より $\eta p(K_{上}+K_{下})\geqq M$
$p\geqq M/(K_{上}+K_{下})\times\eta$

p を決めると、①'より $e\geqq(M/\eta p)-K_{上}$
③'より $e\leqq(fc\cdot Z_{下}/\eta p)-K_{上}$

$p=M\max/(K_{上}+K_{下})\times\eta=12.04\div(0.1152+0.0525)\div 0.8=89.74$ Ton

10.8φ を使用

$n\times Po=12\times 8.32=99.84>89.74$

$n.Po$ を p として

$e\min=(M/\eta p)-K_{上}=(12.04/0.8\times 99.84)-0.0525=0.0982$

$e\max=(fc.Z_{下}/\eta p)-K_{上}=(166.67\times 0.07609/0.8\times 99.84)-0.0525=0.1062<0.1152$

$0.2748-0.0982=0.1766\geqq d\geqq 0.2748-0.1062=0.1686$

よって $d=17$cm とする。

縁応力の算定（表3参照）

$\sigma_{上}=P/A-P.e/Z_{上}+M/Z_{上}$
$\sigma_{下}=P/A+P.e/Z_{下}-M/Z_{下}$

縁応力は、同一断面、同一配線の部分で、$M\max$ と、$M\min$ の点について施工時、設計時、ひび割れ時について算出する。ひび割れ時の縁応力は、設計時モーメントの1.3倍について行い、引張応が $5/3\times 0.07fc$ 以下であれば良い。66条
本設計では $500\times 0.07\times 5/3=58.33$ kg/cm² となる。

表3　縁応力度

			端部	中央
A		$\times 10^3$cm²	1.45	←
Z		$\times 10^5$cm³	0.16707	←
Z		$\times 10^5$cm³	0.07609	←
P		ton	99.84	←
e		m	0.1048	←
M		T·m	0	4.54
M		T·m	0	12.04
施工時	P/A		66.86	66.86
	$Pe/Z_{上}$		−62.63	−62.63
	$M/Z_{上}$		0	27.17
	$\sigma_{上}$		6.23	33.40
	$Pe/Z_{下}$		137.51	137.51
	$M/Z_{下}$		0	−59.67
	$\sigma_{下}$		206.37	146.70
設計時	$\eta P/A$		55.08	55.08
	$\eta Pe/Z$		−50.10	−50.10
	M/Z		0	72.07
	$\sigma_{上}$		4.98	77.05
	$\eta pe/Z$		110.01	110.01
	M/Z		0	−158.23
	$\sigma_{下}$		165.95	6.86
ひび割時	$\sigma_{上}$		4.98	55.43
	$\sigma_{下}$		165.09	−40.61

曲げ破壊の計算　64条　65条

必要モーメント
$M_1=1.2G+2.4P=4.54\times 1.2+7.5\times 2.4=23.45$ T·m
$M_2=2(G+P)=12.04\times 2=24.08$ T·m
G：固定荷重　P：積載荷重

抵抗モーメント
M 破抵 $=Py.\ j=Py(d-0.5n)$
$n=Py/F_{28}\cdot\ B=10.4\times 12/500\times 120=2.08$cm
M 破抵 $=10.4\times 12\times(0.23-0.5\times 0.0208)$
$=27.41$ T·m >24.08 T·m　OK

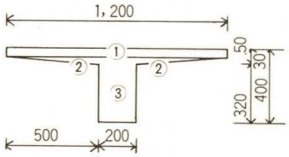
せん断の検討　71条

斜張応力度 $\sigma=\frac{1}{2}(\sqrt{\sigma g^2+4\tau^2}-\sigma g)$ ——
σg：P/A　$\tau=S.Q/B.1$
プレテンション部材なので端部の P/A は0と考える。
69条
$\sigma=\frac{1}{2}\sqrt{4\tau^2}=\tau$　　$S\ \frac{1}{2}b.\ y^2_{下}=7{,}551.5$
$\sigma=\tau=7{,}551.5\times 4{,}820/200\times 209{,}125$
$=8.7$kg/cm² <11.67kg/cm²　OK

せん断破壊耐力
$Qs=b1/S\cdot\frac{1}{2}\sqrt{(\sigma g+2\phi\sigma t)^2-\sigma g^2}$
ここで $\sigma g=0$ とすると、$Qs=b1/S\cdot\phi\sigma t$
$\phi=0.5$，$\sigma t=0.07Fc=35$kg/cm² であるから、
$Qs=20\times 209{,}125/7551.5\times 0.5\times 35=9.693$Ton
$Qs/Q=9.693/4.82=2.01>2$　OK

この計算例は、シンプルビーム全長にわたって同一断面・同一配線という最も単純な例であるが、通常の断面算定の計算はすべて含んでいる。□で囲んだ部分が計算書になる。断面諸係数の計算・縁応力の計算等は卓上コンピューターでプログラム化しておくと便利である。

図5　断面諸係数の計算



$B\times h=$	A	$\times y=$	$A\cdot y$	$\times y=$	$A\cdot y^2$	$\frac{12}{or}$ $A\times h^2\div 18=$	Io
①120×5 =	600	×37.5=	22,500	×37.5=	843,750	600×5²÷12=	1,250
② 50×3 =	150	×34 =	5,100	×34 =	173,400	150×3²÷18=	75
③ 20×35=	700	×17.5=	12,250	×17·5=	214,375	700×35²÷12=	71,458.33
	ΣA 1,450		$\Sigma A\cdot y$ 39,850		$\Sigma A\cdot y^2$ 1,231,525		ΣIo 72,783.33

$y_{下}=\Sigma A\cdot y\div\Sigma A=27.4827\rightarrow 27.48$cm
$y_{上}=D-y_{下}=12.5173\rightarrow 12.52$cm
$I=\Sigma A\cdot y^2+\Sigma Io-\Sigma A\cdot y^2_{下}=209{,}125$ cm⁴
$Z_{上}=I/y_{上}=16{,}707$cm³　$k_{下}=Z_{上}/A=11.52$cm
$Z_{下}=I/y_{下}=7{,}609$cm³　$k_{上}=Z_{下}/A=5.25$cm

注）日本建築学会「プレストレストコンクリート設計施工規準」の関連条文を 69条 のように示した。

（とくながゆういちろう
オリエンタルコンクリートKK 大阪支店建築課）

施工材料の頁

36 最近の地盤改良について

中堀　和英

1.地盤改良工法の分類

分類法はその観点によって多種あるが、簡便につぎの４群に分けて示す。

①排水系工法

サンドドレーン、ペーパーやプラスチック、ロープのドレーン、水位低下、真空工法、プレローディング、電気浸透、乾燥、焼結、半透膜、などの工法

②締め固め系工法

輾圧、バイブロフロテーション、締め固めサンドまたはグラベル杭、バイブロコンポーザー、重量落下、電撃工法など

③固結系工法

かく拌、注入、噴射、凝集、凍結、などの工法、石灰・セメントパイル

④補強材系工法

ロープネット、鋼板、鋼格子、シート、パックなどの工法

2.工法採用で重要なこと

どんな土、どんな地盤にも効くという工法はないから、相性の良い工法を選ぶ必要がある。この場合、地盤を形成する土層の土質、配列や変化状況、地下水など総合的な地盤の相を観察しておかなければならない。

たとえば、砂層・軟らかい粘土層・砂層という３層型地盤などは図―１のように、(ドレーン工法)＋(水位低下工法) の組み合わせに非常によく合う。また、締め固め系工法は、レキまじり砂地盤とくに、浅い所ほどレキの多い変化状況に非常によく合う。

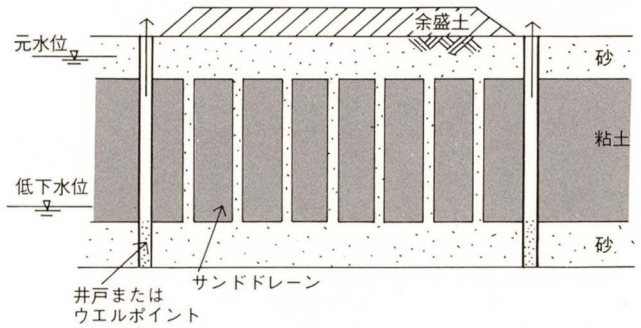
3.工法の例

最近効果を挙げ、また、今後も使われるような数種の例について図―１、図―２、図―３、図―４、図―５、図―６、図―７に述べる。

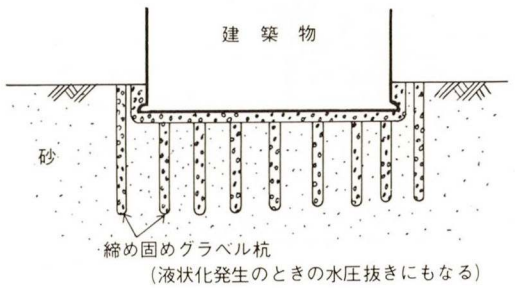
参考文献

中堀　和英　日本建築学会近畿支部「設計者と施工者のための地下工法」のうち地盤改良p89～116 1976.2

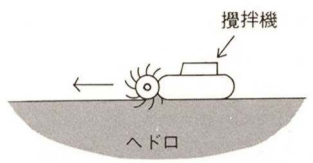
（なかぼり　かずひで　中堀ソイルコーナー代表）



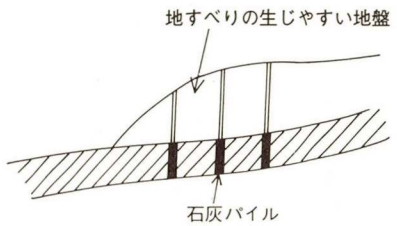
図―１　典型的な排水系工法



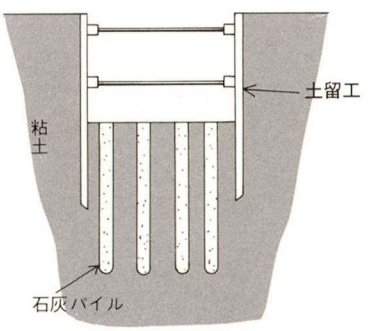
図―２　締め固めグラベル杭



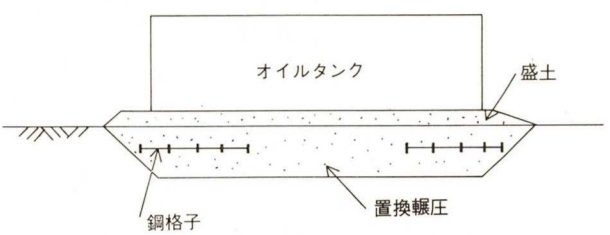
図―３　ヘドロに固結剤をかく拌



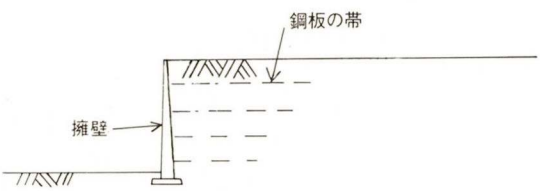
図―４　石灰パイルによる地辷り防止



図―５　根切のヒービング防止



図―６　鋼格子補強によるタンク基礎



図―７　鋼板などによる裏込安定

35
冷蔵倉庫について(その2)

山畑　政徳

5月号では、以下の内容を掲載した。
1－0－0　冷蔵倉庫の役割
2－0－0　食品の保持温度
3－0－0　冷蔵倉庫の諸算定規準
4－0－0　冷却方式
5－0－0　防熱工事の留意点

6－0－0　結露対策

6－1－0　結露現象の検討について

●防熱材の熱伝導率

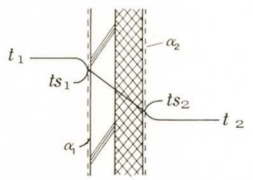
$\lambda\theta=\lambda+\beta\theta$（Kcal/mH°C）――――(1)式

λ＝内外温度差±0の場合の伝導率（Kcal/mH°C）

β＝伝導率の補正係数　（　〃　）

θ＝内外の温度差　（　℃　）

●伝熱壁を通じての熱通過



$$K=\frac{1}{\frac{1}{\alpha_1}+\Sigma\frac{ln}{\lambda n}+\frac{1}{\alpha_2}}$$（Kcal/m²H°C）―(2)式

K＝熱通過率（　〃　）

$\alpha_1\ \alpha_2$＝内外表面における熱伝達率（〃）

λn＝才n層の熱伝導率（Kcal/mH°C）

ln＝才n層の厚み（m）

熱伝達率表

流体の種類・状態		αKcal/m²°Ch
気体	静止	4～20
	流動	10～500
液体	静止	70～300
	流動	200～10,000
凝縮面	アンモニア	5,000
	R12	1,600
蒸発面	アンモニア	6,000
	R12	1,700

$Q=KF(t_1\sim t_2)$ ―――― (3)式

Q＝熱通過量　（Kcal/H）

K＝熱通過率　（Kcal/m²H°C）

t_1＝外気温度　（℃）

t_2＝室内温度　（〃）

F＝伝熱面積　（m）

$Q_{s_1}=\alpha_1 F(t_1-ts_1)$ ――――(4)式

Q_{s_1}＝外表面へ熱伝達量（Kcal/H）

α_1＝外表面熱伝達率　（Kcal/m²H°C）

t_1＝外気温度　（℃）

ts_1＝外表面温度　（〃）

F＝伝達面積　（m²）

$Q=Q_{s_1}$という関係より、

$$ts_1=t_1-\frac{K}{\alpha_1}(t_1-t_2)$$ ――――(5)式

t_D＝温度、相対湿度を知ることによる露点温度（℃）

$t_D<ts_1$のとき、表面結露はしない。

略算的には$K=\frac{\lambda\theta}{l}$を用い検討する。

6－2－0　結露防止対策

上記の検討結果、OKであっても、建物の形状等により結露することがあるので、設計施工時に次項の点、留意を要す。

1.構造体と防熱層とか、防熱材と内装材との空隙は避けること。

2.やむを得ず空隙を設ける場合は空気が対流する方法をとること。

3.防熱面積が大きい（とくに外防熱方式等）場合、防熱材の収縮、吸湿等により沈降し、防熱材に亀裂が生じるため沈降防止を施す必要がある。

4.パイプの貫通部を集約してできるだけ1カ所にまとめる。

5.防熱層近くの水配管はできるだけ避ける。

6.防熱層壁面に設備機器類を設ける場合は、壁面と機器の間をできるだけあけ、必要に応じ防熱処理をすること。

7－0－0　凍上防止策

7－1－0　凍上現象

冷蔵室などの床下の土壌が凍結すると、その表面が持ち上げられて凍上現象が起こる。冷却後、直ちに凍上が見られるものではなく、早くて数カ月、遅いものでは数カ年を経過して発生する。床が持ち上げられて凍上の発生を知るが、はなはだしいときには300粍くらい持ち上げられ、床面に割目が入る。

その他、構造体が不同に持ち上げられるので壁面にクラックが入ったり、扉のしまりが悪くなるばかりでなく、壁や天井の防水、防熱層が切れて冷気が漏洩し、冷えが悪くなる。

7－2－0　凍上の原因

室温の低下により防熱層下部の土壌が凍結すると、その下層から水分が上昇してすでに凍結している層の真下に集まって結晶するのが原因である。この現象を支配するものは冷蔵室の温度と床面の広さ、土壌の組成と毛細管現象による水の移動性、地中の水量などである。

1.冷蔵室の温度と床面の広さ：冷蔵室の床には防熱層が施工されているが、これは熱を完全に止めるものではなく、防熱の厚みによって熱の通過率を遅くするだけである。したがって床下の土壌は室温により冷却されると同時に周囲の土壌から暖められて平衡状態になっているが、室温が低温度の場合には、その温度は結氷点以下となり、そこに水分があると凍上が始まる。床面が狭いときには問題ないが、冷却される床面が広い場合には中心部に近いほど暖められる率が少なくなり、凍上の発生が早い。

2.土壌の組成：凍上の発生は建設された土地の土質によって左右される。今まで発生した実例や文献によると砂地質では少なく、粘土質のところでの発生が多い。粘土質の土壌の場合、粘土を多く含んだものほど、また密度の小さいものほど発生しやすい。

3.土地の水位：土地の自然水位が高いと床下に常時水分があるので、冷却されると凍上が発生する。湿地帯あるいは河川や港湾近くに建設された冷蔵室での凍上はこのためである。

7－3－0　凍上の予防対策

凍上は床下の土壌中に水分があり、かつその部分が結氷点以下の温度まで冷却されて初めて発生する。したがって、この二者のいずれかを防止すれば凍上は起こらない。一般的に採用されている方法を述べると、つぎのとおりである。

1.冷蔵室の周囲に側溝を掘る方法：自然水位の高いところで採用される方法で、建物の両側に側溝と集水用の井戸を掘り、床下の水位を強制的に下げて防止する方法である。粘土質のところでは滞水が容易に移動しにくいので困難である。

2.床面を高く設置し、床下に空洞を設ける方法：床面を地面より高くし、その下に空洞を設ける方法である。空洞を設けず埋め戻す場合には砂を使用するとよい。

3.床下に土管などを埋設する方法：床下に直径150～200㎜くらいの耐圧コンクリート管やブロックなどを2m間隔程度に埋設してこれに外気が交流できるようにして床下の温度を結氷点以上に保つ方法である。この場合、もし、凍上が発生したとしても、この管中に熱風を送り込めば簡単に矯正できるので便利である。

4.床下に温床線を埋設する方法：床防熱下部の床コンクリート中に温床線を埋め込み、床下の温度を結氷点以上に保つ方法である。サーモスタットを一緒に埋め込み温床線と連動させると、床下の温度を自動的に調節できるので経済的である。

（おわり）

（やまはた　まさのり　東海興業KK大阪支店取締役支店次長）

200浬漁業専管水域時代を先取りする
東海興業の冷凍・低温倉庫



施　主　日本ポート産業株式会社 神戸事業所
神戸市東灘区魚崎浜町15

（写真向側一号倉庫、手前二号倉庫）

■建物仕様

	一号冷蔵倉庫	二号冷蔵倉庫
構造・規模	鉄筋コンクリート造３階建	
建築面積	4,731㎡	5,008㎡
延床面積	12,926㎡	14,385㎡
収容屯数	16,771 t	19,231 t

若さと技術で未来に挑戦する総合建設会社

㊥東海興業株式會社

取締役社長　中西小一

本　社／東京都千代田区丸の内3-4-2（日石ビル）〒100　TEL（03)212—3261大代表
大阪支店／大阪市北区豊宮町３番２（住生豊崎ビル）〒530　TEL（06)373—1181代　表
支　店／東京・札幌・仙台・名古屋・福岡

都市設計資料 —20—

《都市構造物の設計手法 I 》

神戸都市設計資料研究会

今回と次回にわたり、都市を構成している構造物の設計手法について検討してみる。都市内には種々の構造物があり、ある時期に都市内の一部として建設されている。このような構造物について、設計手法を考えてみるのであるが、この論文では、主として建設主体の立場から、その設計手法を探ってみることとする。

都市構造物は、都市のある一地点に建設されるという意味により、機械とは違った設計手法が必要である。それは、地域特性により、地域ごとに異った解が生まれるものと思われる。1960年代頃より、住民による建設反対運動が高まり、建築物や土木構造物にしても、そのものの持つ建設目的だけでは、都市内に建設し得なくなってきた。そういった住民運動の結果、建設主体は、住民の反対が何か邪魔をするものに見えてくるし、逆に住民の方では、都市構造物が地域を悪くするものとして感じられている。こういった対立的状況の中で、私達は、より豊かな都市を建設していくことを目標とし、地域に根ざした新しい構造物の設計手法を探っていく必要に迫られている。最近の種々の研究により、様々な解決法が生まれつつあるが、そういった試みの一つとして、以下試論を展開してみることとする。

（稲毛　政信）

1．都市構造物とは

1）都市構造物の種類

まず、都市構造物はどんな種類のものがあるかを検討してみると、建設主体別には、**表-1**のように分類される。これらの構造物は、それぞれ個々に公的に、あるいは私的に建設されている。都市はこれらの個々の建設の積み重ねの中で成立しており、現状では、ニュータウンのように一体的に建設されることは少なく、縦割型の建設となっている。

このうち、建築物や公園は、都市内において点的施設であり、土木構造物は、この点的施設をぬう線であり、結びつけたり分離するといった機能を持っている。また、土木構造物は、自然と人間の接点で建設される場合が多い。

表－1　都市構造物の種類

建設主体による分類 ＼	公共的 ⇐			⇒ 私的	
	自然	公園	土木構造物	建築物	
				公共建築物	私的建築物
代表的構造物	山・海・川 木・池 鳥・魚 第1次産業地 （田畑・海・池）	自然公園 都市公園 地区公園 児童公園 プレイロット	海岸・河川・港湾 道路・橋・トンネル 鉄道・空港・広場 宅地造成・埋立 ダム・発電・上下水道・鉄塔・電柱	行政施設（役所・消防署） 文教施設（学校・研究所） 厚生施設（病院・体育館） 運営施設（駅・郵便局） 福祉施設（保育所・老人いこいの家）	商　店 住　宅 工　場 事務所 レジャー施設
都市内の位置づけ	都市の骨格を規制する。	若干大きな点的施設である。	線的施設である。点的施設の結合または分離機能を持つ。自然と人間の接点である。	点的施設である。	

2）だれが設計するのか

このような構造物は、だれが設計するのであろうか。**表-1**によれば、主として左にあるものは公共が、右にあるものは個人が建設主体となっている。更に設計ということになると公園・土木構造物・建築物と別れているように、主に造園・土木・建築という技術者によって、それぞれ設計され建設されている。

しかし、都市内の構造物も、見方を変えて、構造物の要素で分類してみると、**表-2**のように別けられる。つまり、**表-1**の都市構造物は、これらの要素の多数で構成されたものと言えるのではないだろうか。道路一つを取り上げてみても、**表-3**のように種々の要素から成り立っていることがわかる。よって、都市構造物を充分に設計し、より良いものを生みだしていくには、設計者自らが各種技術をマスターしていくことが必要であり、また一方では各種の技術力を結集していくことも必要である。更に統一的に調整していくコーディネイターも必要になってくる。現状では、まだまだ細部まで各種技術が生かし切れていないのではないだろうか。

表－2　都市を構成する構造要素

自然的要素	公園的要素	土木的要素	建築的要素
木・草	広　場	石　積	屋　根
魚・鳥・虫	砂　場	擁　壁	外　壁
動　物	遊　具	法　面	前　庭
土・岩石	ベンチ	護　岸	門・塀
水	芝生広場	橋・塔	隣棟間隔
地　形	花　壇	トンネル	・
・	ペーブ	切土・埋土	・
・	園　路	・	・
・		・	・

表－3　道路を構成する要素

■自然的要素（木、草、花、水、地形）
■公園的要素（ペーブ、歩道、ポケットプラザ、噴水、植込、花壇）
■土木的要素（車道、交差点、歩道橋、ガードレール、車止め、電柱、外燈、バス停、電話ボックス、ごみコンテナ置場、交通標識、案内板、時計、地下埋）
■建築的要素（外壁、広告、塀、建築物の高さ、色、アーケード）

3）だれの為に建設するか

それでは、本論に入ることとするが、これらの構造物を建設する場合、まず構造物の建設目的を明らかにすることから始めるのが、普通である。例えば道路であれば、ある2点間を結ぶということがまず考えられる。しかし、それだけではなく、更に種々の目的があげられる。この検討は、道路を「だれの為に建設するか」ということを探る中から生まれるものと思われる。

道路を通る人、それは自動車や自転車や徒歩といった人々に分けられるし、更に沿道の人々の為に、アクセスや日照や通風といった配慮、また細街路であれば、道路で遊ぶ子供達、日なたぼっこをする老人達、立ち話しをする主婦への配慮も必要である。その他、道路空間を利用する供給処理施設の建設に、更には道路を管理する人に対する配慮等も必要である。このように建設にかかわる人々の使われ方、また利害得失の中で、道路の満足すべき条件を検討し、道路の機能として整理していく。道路を例にとれば、**表-4**のように整理されるだろう。

何の為に建設するか
だれの為に建設するか
↓
機能の整理

表-4　道路の機能

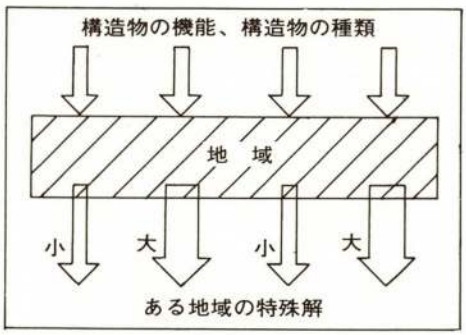
■通行機能
■サービス機能
■環境保全機能
■ひろば機能
■沿道結合機能

4）都市内の構造物として

このようにして求められた機能から、構造物の形を求めていくのであるが、すぐに形が生まれるのではなく、主として二つの関門をくぐる必要がある。その一つは、「地域」というフィルターであり、もう一つは、「人間空間化の手法」といった設計者の芸術的技術である。後者は次号に譲るとして、「地域」フィルターについて検討してみる。

構造物を、都市内のある地域に建設する場合、地域にあった構造物を生み出していくことが必要である。**表-5**のごとく、構造物の機能を地域に投げかけてみると、あるものは強調され、あるものは余り検討しなくても良いものとなる。また、種々の構造物も、地域によって重要度が異ってくる。このように構造物が地域のフィルターを通る時、その地域における構造物の特殊解が生まれてくる。

表-5　地域フィルター



2．地域とは

構造物の特殊解が生まれてくる「地域」について検討してみる。

1）地域特性の把握

地域をどのように把握していくかということであるが、まず地域特性要素について検討してみる。地域特性要素は、種々の方法で分けられるが、ここでは一つの分類手法として、

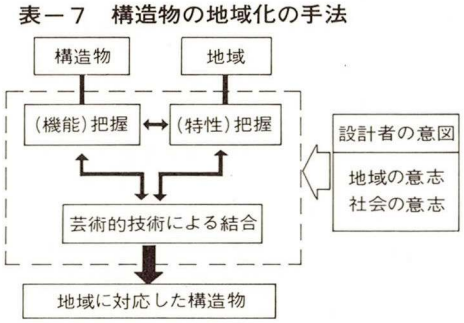
表－6　地域特性要素

地域特性	在来条件（ストック）			将来条件（フロー）		
	自然条件	歴史条件	生活条件	公共投資	民間投資	地域や住民の意志
特性要素	地形・気候 山・川・平野 谷・丘 その他	人工の建築物 土木構造物 社会施設 交通・遺跡 その他	生活の姿 慣習・法律 その他	道路建設 公共施設の建設 都市計画（狭義） その他	民間住宅建設 企業の建設 その他	反対・賛成 参加・援助 創意工夫 インパクトが与えられた場合の対応 その他
調査法	主として、現地踏査、その他地図、文献、ヒアリング他			現地踏査、都市計画、文献、ヒアリング他		
設計者の対応	何を残し、何を新しく生み出すか。			ミニマムの確保とマクシマムへの努力。		

表-6のようにまとめてみた。これらは、大きく二つに分れ、一つは既にその地域が持っている自然や人間が生み出してきたものであり、在来条件、あるいはその地域のストックと呼べるだろう。この中には、現にその地域に目に見えて存在するものと、慣習や法律といった地域の約束ごとも含まれるだろう。一方地域特性要素のもう一つは、地域エネルギーとも言える将来条件（フロー）がある。これには、公共や民間の投資予定と、地域や住民の意志といった人間のエネルギーも含まれるだろう。この中に、私達が設計しようとしている都市構造物も含まれている。

このように地域は種々の特性要素を含んでいるが、そういった特性要素の何を把握していくかは、設計者にとって重要である。表-7に構造物の地域化の手法としてまとめてみたが、どういう意図をもって調べるか、何を詳しく調べるか、また、どのような方法で調べるかは、一つには設計者の意図や、地域また社会の意志によって違ってくる。あるいは、構造物の地域へのインパクトによっても違ってくるし、更には、構造物と地域との結合手法、つまり設計者における結合への芸術的技術の高低によっても違ってくる。このように何を把握していくかは、絶えずフィードバックをくり返しながら深めていく必要がある。

表－7　構造物の地域化の手法



一方、どのような方法で調査していくかについては、表-6に書いているように、まず現地踏査、つまり足と目と耳と、その他、体全体で地域を感じることが一番である。その上で地図や文献で調べ、感じたことを確認し、更に新しい要素を加えていくのが良いと思われる。その他、必要なデータは、配票意識調査、地質調査、その他種々の方法で調査していく必要がある。

2）設計者の地域対応基準

このようにして把握されてくる地域と、構造物を結んでいくのであるが、その前提として設計者は地域の価値基準や目標を明確にしなければならない。

都市は安全であるべきだ。都市は便利であるべきだ。都市は楽しくあるべきだ。都市は美しくあるべきだ。など、都市に対して何らかの価値基準や目標が必要である。更に都市といった総体ではなく、地域としての価値基準や目標も必要である。

このような価値基準や目標は、どのようにして設定されるのだろうか。それは、地域にかかわる総ての人々の総意で決められるものと言って良い。しかし、地域における利害得失や思惑といった個々の意志をただ尊重するだけではなく、それを乗り越えて、地域で共に生活していくものとして、お互いを認めた共通の目標が必要である。総ての人々が助け合い、持てるものを出し合って、共に楽しんでいく共同社会のルールとも言えるし、それはまた、共同社会の目標でもある。設計者は自らがその一員であることを自覚し、そういった目標を達成していく一つの構造物として検討する必要がある。また、一方では、何が地域の価値基準であり、目標であるかを絶えず追い求めていく努力も必要である。このようにして，地域対応の価値基準を豊かにしていくのであるが、以下、表-6の地域特性要素の分類にそって、地域対応手法を更に検討していくこととする。

3）在来条件との対応

在来条件である自然条件や歴史条件については、何を残し何を新しく生み出すかという判断が重要である。このことは「保存と開発の問題」としてよくあつかわれており、難しい問題である。

ギリシャの都市計画家、故ドクシアディス氏は地球的規模で天然資源の危機を感じ、「最も自然的な地帯から、人間が最大限に介入する地帯に至る12の地帯を確立する必要がある」と述べている。私達も都市全体において、ある程度地域を区分して、保存と開発の政策を設定していく必要がある。ただ、この場合に何を基準として残し、保存していくかが問題となってくる。それには、個々の要素の現代的価値を、再発掘していく努力が必要だろう。一般的に日本は，開発に力が入りすぎ、保存には無頓着な面が強い。私達の祖先が築いてきた遺産を大切にし、更により良いものへと再生していく努力が必要である。

この在来条件の中で、自然条件は特に土木構造物において自然と人間の仲介をするという意味により重要である。私達は余りにも自然あるいは、自然の摂理といったものを知らないのではないだろうか。川は川らしく海は海らしくあるようにしなければならない。自然を見きわめ、自然の恐ろしさだけでなく、自然の美しさや、やさしさ、また、楽しさを引き出さなければならない。都市においては人工そのまま、自然そのままではなく、人工と自然の調和といった新しい芸術創造へと向かって行く必要がある。

4）ミニマムの確保

——シビルミニマムとパブリックミニマム——

一方、将来条件との対応であるが、これには「ミニマムの確保」と「マクシマムへの努力」が必要である。

松下圭一氏が、ナショナルミニマムという言葉の示唆により造語されたシビルミニマムは現代における市民の「生活権」、さらに、自治体の「政策公準」として設定されると説明されている。簡単には市民生活基準と認識されているが、このシビルミニマム概念がはたしている、「市民の必要を生活権ついで生活基準という客観規範へと定位し、その達成を自治体ついで国の政策ないし計画の政策公準としておきなおしていく役割」は重要である。ただ現時点では、どうしても「政策公準」という意味により、公共投資基準重視となっており、地域全体の投資に対する基準となっていない。そういう意味で、本来はシビルミニマムが網羅すべき意図のあった民間投資に対する基準を「パブリック・ミニマム（Public minimum）」と設定するのも意味があるだろう。「政策公準」に対して、「地域公準」と言えるだろうか。例えば、近年自治体で多く作成された開発指導要項や、あるいは、ドイツ等で見られる窓辺に花をかざることを義務づけたりする基準は、何も公共が投資をするということではなく、地域住民自ら、みんなの為に守っていく最低基準と言えるだろう。そういう意味で、民間が公共の為に守る最低基準ということで、「パブリックミニマム」と言えるだろう。

このように、地域のシビルミニマムやパブリックミニマムを制定しつつ、その確保につとめていくことが必要である。そういった意味で都市構造物自身も、「ミニマムは何か」を問いつつ、その確保につとめていかなければならない。

5）マクシマム計画

——地域文化計画——

このようにして、個々の構造物がミニマムを確保していくと同時に、地域における、マクシマムの計画も必要である。これは、近年、大阪府等で検討されている地域文化計画とも言えるだろう。

地域全体をもう一度総体としてとらえ、その地域の他とは違った特色をふまえて、新しい文化を生み出していく。そのエネルギーは、公共の投資であったり、民間による建設であったり、更には地域に住む人々のエネルギーによる場合もある。特に最近の都市構造物は地域住民の創意工夫を取り入れる努力が少ない。子供達の壁画や、さらに在住の画家に腕をふるってもらったり、老人達による花壇づくり等、すべての人々の持てるものを生かしていく手法の開発が必要である。

これからは、地域は地域の人々自身のものとして尊重し、あらゆる人々が、地域社会にプラスしていく努力が必要である。そういった一員として、都市構造物の設計者も自らを自覚する必要がある。

日本建築協会

月間の動き

昭和52年4月分

理　事　会

19日　正午～2時　於会館集会室
出席者　塚本会長ほか17名
正午より新旧役員会食後理事会を開催、旧役員の出席者1名
議事　(1)理事会務分掌並びに主幹選出の件
(2)定例理事会開催日時決定の件
(3)昭和52年度委員会委員委嘱の件
(4)参与委嘱の件
(5)事務局長任命の件
(6)昭和52年度事務局職員給与引上の件
(7)事務局職員採用の件
(8)前年度よりの引継事項承認の件
(9)大阪府建築部長歓送迎会開催の件
(10)寄附金受領の件
(11)入退会者承認の件
(12)報告事項

建　材　委　員　会

委員会
1日　5時半～8時半　於会館集会室
出席者　山田・牧田正副委員長ほか11名
議事　(1)自己紹介
(2)新年度建材委員会の方針説明
(3)防錆混和剤について
(4)「新建材紹介コーナー」6月以降掲載分
(5)そのほか
27日　5時半～8時半　於会館集会室
出席者　山田・元木正副委員長ほか12名
議事　(1)正副委員長選出について
(2)新年度の委員会運営について
(3)「新建材紹介コーナー」6月以降掲載分
(4)防錆混和剤について
(5)そのほか

事　業　委　員　会

広報小委員会PR分科会
1日　6時～8時半　於会館3階会議室
出席者　原見幹事ほか2名
議事　(1)第35回展示写真「奈良市新庁舎」の写真展示について
若い会員の集いディスカバー大阪(2)現地調査
2日　1時～5時　於大川端散策…泉布観から―大阪城公園
出席者　赤木主査ほか4名
若い会員の集い小委員会
5日　6時～9時　於会館集会室
出席者　森下副委員長ほか21名
議事　(1)昭和52年度副委員長、幹事選出
(2)3月の事業実施報告
(3)本年度の年間事業企画について
(4)そのほか
広報小委員会
6日　6時～8時半　於会館集会室
出席者　市川副委員長ほか10名
議事　(1)昭和52年度副委員長、幹事の選出
(2)PR・研修・親睦各分科会担当委員の編成について
(3)本年度の事業企画について
(4)そのほか
見学会小委員会
7日　6時～8時　於会館集会室
出席者　堀田副委員長ほか9名
議事　(1)昭和52年度副委員長、幹事の選出
(2)3月の見学会実施報告
(3)4月～5月の企画について
(4)本年度の年間事業企画について
(5)そのほか
大阪ガス泉北第2工場見学打合
8日・27日　1時半～4時　於泉北第2工場
出席者　大林組窪田工事々務所長代理ほか2名
若い会員の集い小委員会
第2回第3回合同企画分科会
12日　7時～10時　於会館3階会議室
出席者　三好、大久保主査ほか6名
議事　第2回（神戸北野町を行く）、第3回（音環境）の企画全般について
委員会
21日　6時～8時　於会館集会室
出席者　窪田委員長、乾・堀田・市川各副委員長ほか4名
議事　(1)昭和52年度正副委員長、幹事の選出
(2)各小委員会の事業報告及び本年度の事業企画について
(3)そのほか
若い会員の集い第2回企画現地調査及分科会
24日　1時～8時　於神戸市北野町ほか
出席者　三好主査ほか5名

編　集　委　員　会

設備特集編集幹事会・新旧合同設備分科会
4日　正午～2時　於会館集会室
出席者　佐々木友喜旧委員、西村委員ほか4名
議事　(1)7月号以降の「設備の頁」の企画
(2)「建築と社会」7月号設備特集の企画
(3)幹事の互選
投稿欄小委員会
5日　4時～6時　於会館3階会議室
出席者　芝山委員ほか4名
議事　(1)〝私たちのグループ〟今後の企画
(2)テーマ投稿と自由投稿について
(3)本会誌に対するアンケートについて
(4)投稿欄小委員会副委員長互選
委員会総会（新旧合同）
13日　4時～6時半　於会館集会室
出席者　前野編集理事、中村甲一氏、松原孝史旧委員ほか28名
議事　(1)自己紹介
(2)編集委員長の互選とあいさつ
(3)各小委員会副委員長・各分科会幹事の互選とあいさつ
(4)編集委員会の構成と編集についての説明
(5)引き継ぎ事項（4月号～8月号）
(6)本年度編集のあり方および収支目標について
(7)そのほか（9月号以降の特集、建築の眼新執筆者、7月号以降の表紙デザイン、委員会定例日）
作品作風小委員会
13日　6時～8時　於会館3階会議室
出席者　大辻委員、黒田旧委員ほか6名
議事　(1)今年度の作品作風欄の方向
(2)4月号以降の作品について
(3)小委員会定例日
7月号編集幹事会
14日　3時半～5時半　於会館集会室
出席者　伊藤克三特別幹事ほか6名
議事　7月号「照明設備」特集の企画の具体化
8月号構造特集編集幹事会
18日　6時～8時半　於会館3階会議室
出席者　貝戸俊一特別幹事、須賀旧委員ほか5名
議事　8月号構造特集の企画
広告企画小委員会
25日　4時～6時　於会館集会室
出席者　中村委員長・渡辺委員ほか7名
議事　(1)副委員長互選
(2)本年度収支目標
(3)普通広告の増収計画と「普通広告主査」の設置
(4)7月号「照明設備」特集広告企画
(5)特集関連特別広告担当者の設置
7月号「照明設備」特集編集幹事会
27日　3時～5時　於会館集会室
出席者　西村幹事ほか5名
議事　(1)「照明設備」特集の具体例について
(2)特集関連広告企画

住　宅　委　員　会

住宅コンクール審査打合
5日　5時半～9時　於ビジネス会館
出席者　小西委員長ほか5名
議事　図面審査並びに現地調査打合せの件
委員会
12日　5時50分～8時　於会館集会室
出席者　小西委員長ほか14名
議事　(1)委員長等選任の件
(2)住宅コンクール審査協力の件
(3)住宅展の件
(4)定例開催日時の件
住宅コンクール現地審査
16日　17日　於びわ湖ローズタウン
出席者　小西委員長ほか5名

建築データシート委員会

Bグループ打合会
6日　正午～2時　於会館集会室
出席者　羽入幹事ほか4名
議事　(1)Bグループのシートの分担について
(2)今後の作業予定について
(3)その他
企画分科会
7日　正午～3時半　於会館集会室
出席者　酒井幹事ほか4名
議事　(1)企画分科会各分掌による具体案の検討
(2)その他
Cグループ打合会
8日　4時～6時　於会館集会室
出席者　樋口幹事ほか3名
議事　(1)Cグループのシートの分担について
(2)今後の作業予定について
(3)その他
Dグループ打合会
14日　正午～2時　於会館集会室
出席者　藤井幹事ほか6名
議事　(1)幹事の選出について
(2)Dグループのシートの分担について
(3)今後の作業予定について
(4)その他
企画分科会
15日　正午～2時半　於会館集会室

出席者　酒井幹事ほか４名
議事　(1)建築データシート「ハンドブック」出版について、委員会への提案事項の決定
(2)その他

委員会
27日　５時半～８時半　於会館集会室
出席者　井上委員長ほか20名
議事　(1)自己紹介
(2)委員長、副委員長の選出について
(3)昭和51年度収支報告について
(4)各グループ打合会の報告について
(5)「建築データシートハンドブック」(仮称)出版について
(6)そのほか

出　版　委　員　会

委員会
11日　５時半～８時　於会館集会室
出席者　小林委員長ほか５名
議事　(1)委員長互選
(2)前年度引き継ぎ事項
(3)技術選書の経過報告と今後の進め方

法　規　委　員　会

委員会
18日　３時～５時　於会館集会室
出席者　市川委員ほか７名
議事　(1)委員長・副委員長互選
(2)定例日・休会月
(3)委員移動
(4)本年度のとりあげるべきテーマ
(5)次回委員会について

教　育　委　員　会

委員会
18日　５時半～７時半　於会館集会室
出席者　岡田、佐々木正副委員長ほか５名
議事　(1)昭和52年度正副委員長、幹事の選出
(2)各小委員会の委員構成について
(3)本年度の事業企画について
(4)そのほか

見　学　会

外壁保存の現場を見る・京都中京郵便局と同志社大学ハリス理科学館の見学
９日　１時半～６時
参加者　34名
●中京郵便局
設計監理　郵政大臣官房建築部
施　　工　株式会社　大林組
●同志社大学ハリス理科学館
設計施工　株式会社　大林組

日本経済新聞社大阪本社新館新築工事の見学会
19日　２時～４時半
参加者　55名
設計施工　株式会社　竹中工務店

研　修　会

ＡＳＴＭ研修会
―芦屋浜シーサイドタウンの建設現場をたずねて―
14日　１時半～５時
参加者　48名
講　師
ＡＳＴＭ共同企業体総合工事々務所副所長
清山卓郎氏ほか

建　築　ク　ラ　ブ

観劇会
７日　於梅田コマ劇場
観劇者　50名

役員会
11日　正午～１時半　於会館集会室
出席者　塚本代表ほか６名
議事　(1)昭和51年度収支決算報告承認の件
(2)昭和52年度収支予算の件
(3)５月以降の講師決定の件
(4)運営委員長並びに司会者互選の件
(5)そのほか

朝食会
12日　８時～９時半　於大阪グランドホテル
出席者　84名
当日は読売テレビ参与　末次摂子氏より「おんなの眼」と題してお話を伺った。

４月の入会者　(敬称略)

〔団体会員１社〕
(株)総合設備コンサルタント大阪事務所
〔個人会員18名〕

五十嵐健二	磯田　延一	岩本　達男
片岡　敏明	北川　良二	佐藤　豊
田中　孝成	高木　政彦	徳橋　憲二
中浜　秀夫	林　浩二	平野　公章
藤井　勉	藤江　康男	増田　裕一
三木　貞雄	山形　政昭	李　大川

〔准会員１名〕
楠田　文彦

春の“鴻池新田会所の一般公開”大モテ

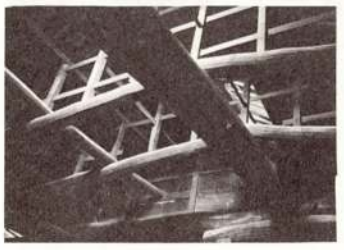
東大阪市の国鉄片町線・鴻池新田駅線路沿いに、周濠をめぐらせた鴻池新田会所が見られる。元禄16年(1703年)、河内郡今米村の庄屋・中甚兵衛が、洪水の多かった大和川の流れを堺の方へつけかえることを幕府に願い出たところから新田開発が始まった。この開発を豪商鴻池善右衛門宗利が行ったが、その折の監督・管理のために設けられたのが、この鴻池新田会所で、完全に現存する会所としては唯一のものである。

国の史跡に指定されているこの会所を、東大阪市教育委員会では市制10周年を記念して去る５月３日より９日までの１週間初の一般公開をしたが、予想を大きく上回り、８日の12,750人を筆頭に計53,000人の人々がつめかけた。

本屋は660㎡で単層入母屋造二重本瓦葺で、土間の広い空間をつくる上部の架構が見物(みもの)である。ほかに道具蔵・米蔵・文書蔵があり、庭園も廻遊式になっている。

その昔、大阪市東区今橋にある鴻池本邸に火事があれば、この会所から見はるかせて、村人を集めて今橋までかけつけたという鴻池家の支配は、戦後の農地改革で終わった。しかし、かつて小作人であったのだろうか、長ぐつをはいて背をまるめた老人が南北40m、東西12mにわたって下から１mほどえぐれて茫のとびだしている米蔵の壁を指さして、洪水に見舞われた日のことをつめかけた人々に話していた。思い出話の交歓の場でもあったこの一般公開は、５月９日午前中で終わったが、東大阪市では秋、11月初旬にも再度公開することを予定している。





◀本屋の架構

建築積算技術者募集

■資格　工業高校卒業以上・経験３年以上・30才迄
■面接　随時（履歴持参・お越しの前にご連絡下さい）

日積工務株式会社

代表取締役　生島道春

〒542　大阪市南区大宝寺町東之丁20宇野ビル
ＴＥＬ　大阪　06―251―3195（代）
※　地下鉄堺筋線長堀橋下車、東へ３分

信用ある技術と伝統の

アスファルト工事 専業大店

シート防水・ウレタン防水・シングル葺工事

株式会社 久保商店

大阪市北区真砂町5番地　TEL 06-364-0206 代表

室谷

内装不燃材

室谷商事株式会社

本社　神戸市生田区北長狭通4－1　(英和ビル)
電話　神戸(331) 0881～3
支店　大阪市北区絹笠町50(堂ビル5階 502号室)
電話　大阪(364) 2031～4
倉庫　神戸市葺合区八幡通1－5(電話221 2923)



鉄壁の守り
奥山式・熱工法・冷工法総合防水層

創業50有余年、当社では製品製造から責任施工までの一貫した作業システムにより、漏水原因を克服した理想的な総合防水層を完成させました。

●奥山式総合防水層の特長
継目がない／温度変化による伸びがない／腐らない／柔軟性に富んでいる／耐候性に優れている／製品及び施工技術が優れている／完全絶縁工法で施工出来る

奥山化工業株式會社
本　社　東京都中央区銀座8-4-11　電話03(571)2703

カッパー防水帯
コーパータイト
オクロン防水帯
新工法プレノテクト吹付工法

●お申込次第カタログ進呈

厚木出張所　厚木市金田字宮畑 259 電話0462(21)6092
大阪出張所　大阪市都島区都島中通り2-3-1 電話06(921) 2497
名古屋出張所　名古屋市南区若草町3－3 電話052(811)3660
九州出張所　佐賀県諸富町 電話0952(47)2945

防火・防煙から避難装置まで
建築防災の総合メーカー

豊かな経験
最新の技術

東洋シヤッター

東洋シヤッター株式会社
本社：大阪市東区両替町1－12 日生ビル　☎(943)6571代表
東京・横浜・盛岡・郡山・水戸・浜松・岡崎・名古屋・富山・大津・京都・堺・神戸・広島・福岡他全国主要都市

電気・計装工事 設計施工

栗原工業株式会社

取締役社長 栗 原 信 英

大阪市北区高垣町16 東阪急ビル TEL06-313-1101
支 店 東京・名古屋・舞鶴・京都・天理
大阪南・神戸・広島・四国・九州

電気設備 設計施工

朝陽電気株式会社

代表取締役 山 本 博 三

本 社 大阪市北区中之島3－3 朝日ビル
TEL 大阪06（385）1361（代）
本社営業所 吹田市垂水町3－34－6
TEL 大阪06（385）1361（代）
京都営業所 京都市右京区西京極葛野町21
TEL 京都 075（311）1185（代）
福岡出張所 福岡市中央区薬院1－14－8
TEL 福岡 092（771）6168

電気工事設計施工

株式会社 三 興 社

代表取締役 林 敏夫

本 社 大阪市北区絹笠町50（堂ビル7階）
電 話（361）3671（代）
支 店 東京都中央区日本橋箱崎町3丁目2番地
電 話（671）1478（代）
出張所 川崎・相模原・堺・福山

電気設備工事設計施工

東光電気工事株式会社

大阪支社

常務取締役支社長 姉 川 正 男

大阪市東区高麗橋五丁目二八番地 電話大阪（202）0325～9番
本 社 東京都千代田区西神田1丁目4番5号
支 社 札幌・仙台・丸ノ内・名古屋・福岡
営業所・出張所 全国主要都市20ヶ所

電気・暖冷房・空調工事設計施工

三宝電機株式会社

取締役社長 嘉 納 伝 三

本 社 大阪市北区絹笠町50（堂ビル3階）
電 話（364）1471（代）
支 店 東京都港区新橋2－16（ニュー新橋ビル7階）
電 話（504）0231
支 店 名古屋市北区城見通2丁目20番地
電 話（991）5131（代）
営業所 神戸・堺・千葉・宇都宮・熊本

電気工事 設計・施工

中本電気株式会社

取締役社長 中 本 正 明

本 社 大阪市城東区成育三丁目五番十七号
電 話 大阪（931）代表 7341～5
資材倉庫 大阪市城東区成育三丁目十七番一号 電話大阪（932）2869
奈良営業所 奈良県御所市御国通360 電話御所（2）0122
枚方営業所 枚方市山之上西町1の1 電話枚方（43）8659・（44）9232
神戸営業所 神戸市葺合区若菜通六丁目六番五号 電話神戸（241）5969

電気工事設計施工

太陽工藤工事株式会社

取締役社長 小 林 四 郎

本 社 大阪市福島区福島7－22－8
TEL（06）452－1151（代）
電力工事本部 大阪市此花区島屋1－1－27
TEL（06）462－1301（代）

各種電気工事設計施工・制御盤製作

野里電気工業株式会社

取締役社長 池 内 文 夫

本 社 大阪市西淀川区柏里町1丁目110番地
電 話 大阪（472）代表 1101－7
支 店 東京都品川区西五反田6丁目25番11号（福島ビル）
電 話 東京（491）1746（492）0182・0350
営業所 北九州市小倉区鋳物師町23番地
電 話 小倉（56）5665・5818
出張所 群馬・千葉・和歌山・名古屋

電気設備設計施工

高千穂電機株式会社

取締役社長 岩 崎 久 雄

本 社 大阪市都島区中野町4丁目8－10
電 話 大阪（06）358－1171大代表
営業所 東京・神戸・九州

電気工事設計施工

富士電業株式会社

取締役社長 田 中 実

本 社 大阪市西区北堀江上通1丁目65
電話 大阪（538）1171代表
営業所 東京・名古屋・広島・福岡

電気工事・計装工事・設計施工

中央電気工業株式会社

取締役会長 今 村 騰
取締役社長 平 木 寛
本 社 大阪市北区梅ヶ枝町56番地
電 話 大阪 大代表（312）8881
支 店 東京・名古屋・四日市・神戸
営業所 松山

電気・計装・空調工事 設計施工

ヤマト電気エンジニアリング株式会社

取締役社長 山 本 永 造

本 社 大阪市北区西堀川町15 TEL06－364－3056（代）
支 店 東京・神戸・広島・岡山
事業所 名古屋・岡山・札幌・苫小牧・浜松・滋賀
京都・高砂・三原・徳山・松山・新居浜・福岡・沖縄

空気調和・冷暖房設備
給排水・衛生設備 設計・施工

株式会社 朝日工業社

本　社　東京都港区芝松町1-25-7　電話（434）6171（大代）
大阪支社　大阪市淀川区加島1-58-59　電話（302）2271（代）
支　店　北海道・仙台・名古屋・広島・福岡
営業所　釧路・函館・盛岡・横浜・静岡・京都・神戸

空気調和設備
衛生設備 設計施工

三建設備工業株式會社

大阪支店　大阪市北区紅梅町65番地　電話（352）1131（代）
本　社　東京都中央区日本橋蠣殻町2－22　電話（667）3431（大代）
支　社　名古屋・仙台・札幌・広島・福岡・金沢・新潟・横浜

給排水・衛生
暖冷房・換気 設計施工

株式会社 大阪城口研究所

取締役社長　城口庸平

大阪市北区高垣町一　電話 大阪372局7151（代）
京都市東山区大和大路正面上ル　電話 京都561局4944（代）
神戸市生田区下山手通六ノ一　電話 神戸341局5892

空気調和・衛生設備 設計施工

株式会社 三晃空調

東京本店　東京都新宿区西新宿　新宿住友ビル　電話 03－344－1911
大阪本店　大阪市北区富田町16番地　電話 06－363－1371
支　店　名古屋市中村区下笹島町11－2　電話052－581－8571
広島市紙屋町1丁目2番22号　電話0822－47－4535
福岡市中央区大名2丁目4番22号　電話092－761－3795
出張所　横浜・福井・京都・神戸・松江・沖縄

電気・空調・衛生・防災・産業廃水設備
設計施工

大阪電気暖房株式会社

本　店　大阪市西区江戸堀1丁目10番17号　〒550　電話（441）8231
本　社　東京都中央区銀座2丁目2番17号　〒104　電話（535）5251
支　社　大阪・東京・名古屋
支　店　札幌・仙台・金沢・広島・福岡
営業所　新潟・天理・岡山・高松・熊本
出張所　秋田・盛岡・千葉・横浜・静岡・富山・福井・豊田・京都・神戸・鹿児島・那覇

管工事業

協和建設工業株式会社大阪支店

取締役支店長　西坂幸男

大阪市北区堂島北町13番地（桜橋千代田ビル）
郵便番号530　電話 大阪（06）346－0721代

空気調和設備
給排水衛生設備 設計施工
各種プラント設備

各種送風機・風力輸送装置
空調機器類・公害防止装置 設計製作

株式会社 カンダン

本　社　大阪市住吉区万代東6丁目3　TEL（672）1281（大代）
営業所　東京・名古屋・京都・広島・福岡　工場　和泉・名古屋
テレックス：本社 No. 562－7688　和泉工場 No 538－5898

新日本空調株式会社

大阪支店　大阪市北区堂島浜通1－25（新大ビル）
電話（06）344－6031（代）
本社・東京支店　東京都中央区日本橋本石町4-2（三井第二別館）
電話（03）279－5671（大代）
名古屋・九州・広島・札幌・東海村・北陸・大分

■給排水衛生　■冷暖房
■空気調和設備
■その他管工事一切の設計・施工

（旧斎藤久孝事務所）

斎久工業株式会社大阪支店

大阪支店　大阪市北区常安町11　電話 06－443－5041代
東京本社　東京都千代田区大手町2-6-2（日本ビルディング）
電話　03－270－7411代
営業所　札幌・仙台・千葉・名古屋・金沢・高松・岡山・福岡
出張所　福井・倉敷・広島・苫小牧

空　調・衛　生・防　災

須賀工業

大阪市西区土佐堀1－2－30　TEL 06－441－5171
支　店　東京・大阪・横浜・名古屋・京都・神戸・広島・福岡
営業所　札幌・千葉・静岡・金沢・高松
出張所　仙台

空気調和設備
給排水・衛生水道
電気設備
厨房

環境衛生施設
荷役運搬機械
化学鉱山機械

三機工業 株式会社 大阪支店

取締役社長　各務節
取締役支店長　藤田初藏

大阪市東区北浜2丁目22番地　電話 大阪（202）代表3071
本　店　東京・日比谷・三信ビル
支　店　名古屋、福岡、札幌、広島、仙台、北陸
出張所　横浜、高松、静岡、豊田、岡山、金沢

空気調和　地盤凍結　冷凍冷蔵

精研冷機株式会社

本　社　大阪市南区瓦屋町3番丁68番地（オートセンタービル2階）
郵便番号542　電話 大阪（06）768－5031番
東京営業所　東京都千代田区九段南2丁目2番5号（九段ビル8階）
郵便番号102　電話 東京（03）262－3241－4番

商品は空気です。



熱と空気のエンジニア
株式会社
大気社

●営業種目
空気調和設備／給排水衛生設備／塗装設備／公害防止関連設備の設計・製作・施工

本社・東京支店　東京都新宿区西新宿2-6-1 ☎03-344-1851(大代)　大阪支店 ☎06-203-3721(大代)　名古屋支店 ☎052-211-1535(代)　九州支店 ☎092-431-2147　営業所：札幌・仙台・横浜・広島・神戸　出張所：新潟・金沢・大宮・静岡・豊田・京都・岡山・松山・熊本・鹿児島・沖縄・バンコク

給・排水・衛生・消火・暖冷房設備

株式会社 西原衛生工業所大阪店

大阪市大淀区中津南通４丁目11　**電話大阪(458)3531番**
営業所　京都・広島・天理・福岡

温・湿度調整装置、暖房
冷房、水道、搬送機設備
設計並ニ施工

第一工業株式会社大阪支店

大阪市北区富田町３０　電話（364）６６６１（代）
本　社　東京都千代田区丸ノ内3-3-1(新東京ビル)
電話（211）８５１１・８５６１(代)
仙台支店　仙台市新伝馬町６０
電話（21）４４９１
名古屋支店　名古屋市東区東門前町３－６
電話（971）３６２１

温湿度調整・暖冷房・換気給排水・衛生設備
設計並施工

日本管工業株式会社

本社及京都支店　京都市南区西九条豊田町２０番地の１
電話(681) ５１０１～５・夜間専用(691) 1045
大阪支店　大阪市北区天満橋筋１－37(天満橋北詰)
電話（352）３５０１～３
四日市支店　四日市市浜田西末広町　電話㊲7431～3
滋賀営業所　大津市打出浜13－15　電話 0775 ㉒９７３８
津営業所　津市栄町２－１１１　電話 0592 ㉖３６１０

一般空調設備・恒温恒湿設備・冷凍冷蔵設備
冷却乾燥設備・環境改善設備その他上記に附
帯する衛生、電気等一切の工事の設計・施工

ダイキンプラント株式会社

取締役社長 北川一郎
本　社　大阪市大淀区中津本通１丁目２番地 ホーコクビル
〒531　電話　大阪(06)372－5171(代表)
支　店　東京都中央区日本橋本町３の１ 共同ビル
〒103　電話　東京(03)242－5521(代表)
営業所　福岡・名古屋・広島・札幌・仙台

Carrier
冷暖房はCARRIER キャリア

東洋キヤリア工業(株)デストビューター関西地区
日本冷熱工産株式会社
本社及大阪営業所　吹田市豊津町40番38号
電話大阪（384）1201～7

空気調和・衛生設備　設計・施工　大阪ガス指定工事会社
ガス設備・ガス住宅設備　大阪ガス設備機器特約店

大晃設備株式会社
（旧三晃空調瓦斯工事部）

本　社　大阪市北区木幡町３４－２　電話 06－313－1846
ガス工事部　大阪市北区木幡町３４－２　電話 06－313－1846
大阪営業所　枚方市甲斐田東町９番３号　電話0720－49－2128
ガス工事部　枚方営業所
設備部　大阪市北区木幡町３４－２　電話 06－313－1846
設備部　京都営業所　枚方市甲斐田東町９番３号　電話0720－49－2128

平山工業株式会社

衛生・空気調和設備・設計・施工

大阪市西区江戸堀１-22-７　ＴＥＬ(441)㈹1994・(443)㈹0331

暖・冷房・空気温湿度調整装置
設計施工

髙砂熱学

大阪支店　大阪市北区芝田町55番地(北阪急ビル９階)
電話 大阪（372）２５１１　（代表）
本　社　東京都千代田区神田駿河台４丁目２番地

空気調和・恒温恒湿・冷凍・冷蔵
給排水衛生 設備　設計施工

不二熱學工業株式會社

本　店　大阪市南区順慶町２－５０　電話 261－2436㈹
東京支店　東京都大田区西馬込１－２－１　電話 773－1231㈹
営業所　銀座・浜松・京都・神戸・福岡

MODAIR
空気調和設備
換気・除塵設備 設計施工

東洋熱工業株式会社大阪支店

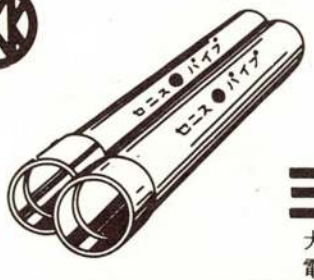
大阪市西区靭本町３－１－２７　ＴＥＬ(433) ８０７１
本　社　東京都中央区京橋２丁目９　ＴＥＬ(562) １３５１
支　店　名古屋・福岡

空気調和設備・給排水衛生設備・上下水道施設
環境衛生施設・公害防止施設／設計・施工

山田工業株式会社

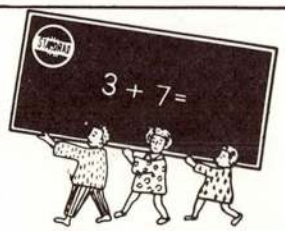
本社及管工事事業部　大阪市西区京町堀１－６－８　電話06(443)8161(大代表)
環境装置事業部　大阪市淀川区三津屋南１－１－35　電話 06(308)1491(代表)
東京支店　東京都江東区亀戸１－８－４（由田ビル）電話 03(683)8421(代表)
名古屋支店　名古屋市中区栄２－16－13(京極ビル)電話 052(202)0077(代表)
出張所　神戸・福岡・松山

奉仕感謝の店
タイル工事施工
株式会社 川岸窯業商店
本　社　大阪市西区西本町1－13－3(靭本町バス停前)
電話　大阪 06(532)代0461　550
姫路営業所　姫路市北条口126番地(住友生命保険ビル7F)
電話　姫路 0792(82) 0999　670



トラフ・ヒューム管
ベンチレーター・マンホール
株式会社
三幸商會
大阪市北区与力町一ノ一〇
電話　大阪(358)　4031

営業品目　建設省認定の防火材料
セメント系吹付材　ソリジットスタイン　基材同等　0003号
特殊リシン吹付材　エバウォール　基材同等　0003号
アクリル系吹付材　エバーサンド　基材同等　0004号
ヒル石吹付材　エバテックス　基材同等　0004号
合同特許建材工業株式会社
本　社　大阪市東住吉区駒川町3－54　電話 (06)702－7814～7
東京事業所・名古屋出張所・高松出張所・福岡出張所

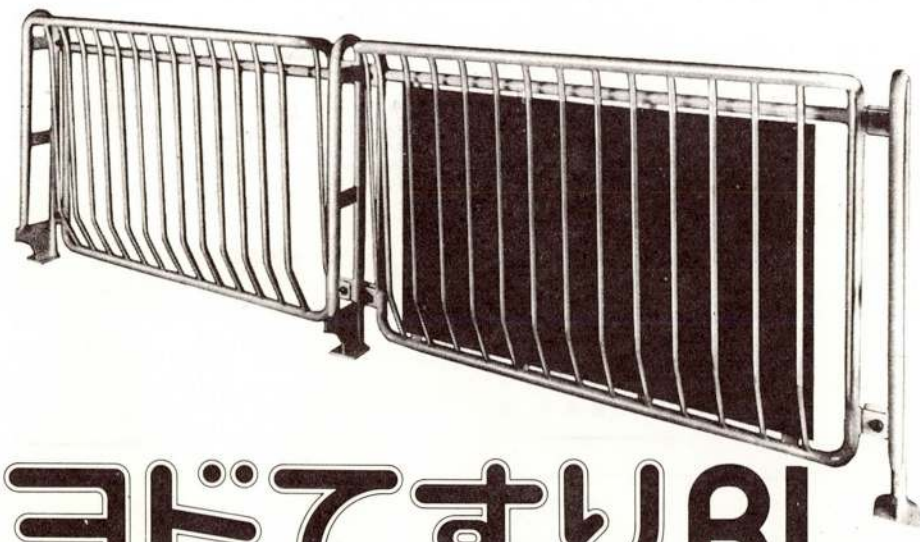
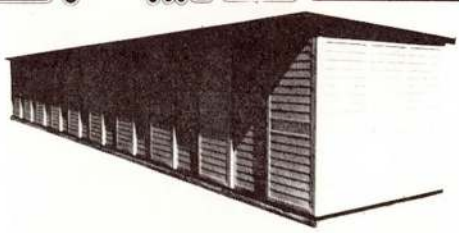


Standard　Board&Slate
フタバ黒板
〒547　大阪市平野区加美北3－4－5　TEL 大阪06(792)5858㈹

●複層模様吹付材（吹付タイル）
プレハタイル＃2000
〈セメント系凸状・カット状仕上げ〉
エマルエボ＃3000
〈エポキシエマルション系凸状・カット状仕上げ〉
明研化学工業株式会社
製造発売元　本　社　明石市藤江中谷町888番地　(078)928－3456㈹
営業所　大阪・兵庫・東京・名古屋・広島・高松・福岡・仙台

株式会社 矢橋大理石商店
大阪支店
大阪市東区高麗橋2丁目9　野村ビル5階　電話 大阪(202)4905

性能はBL認定が保証！
その上に画期的に簡単な新工法とおしゃれなデザインをヨドコウが加えました。


ヨド物置 連続型

ヨドてすりBL
ヨドユニットバスルーム

ヨドコウ 淀川製鋼
本　社　大阪市東区南本町4丁目36番地　〒541 ☎(06)245－1111
東京支社　東京都中央区八丁堀4丁目3番地1号(京橋高市ビル)〒104 ☎(03)551－1171
営業所　札　幌(251)4777・盛岡(38)8111・仙台(25)7891・新潟(28)3784・千葉(43)0925
東　京(551)1171・横浜(641)9123・高崎(61)1281・静岡(53)0019・富山(32)2804
名古屋(571)2421・大阪(246)1201・広島(48)2431・高松(34)3611・福岡(781)6035
宮　崎(53)3161
資料請求券 建築と社会

コーキングパテ

ウヅラ印



柏原瀝青株式会社

本社工場　大阪市西淀川区御幣島東２ノ５　電話大阪(471)1493～4・8267
第二工場　大阪市西淀川区御幣島西３ノ99　電話大阪(471)　０４２６

パテタイル

全国で好評の……新興の内外装壁材を！

インテリヤ…カラーストーン…研出し仕上！
（旭化成ミュールコート・セット品）

シンコーストーン

いつも美しい　ワンタッチ…洗出し仕上…

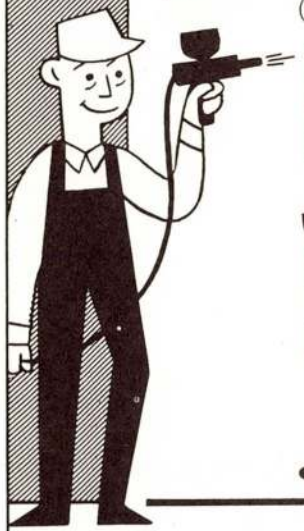
ミュールストーン

（旭化成ミュールコート・セット品）

純日本壁の最高峰

ヤマト緊楽

吹付…に
塗付…に
完全耐火
} 主材 石綿





●全国有名建材店へ御問合せ下さい　●カタログお送りします

(株)新興建材工業所
大阪市西区南堀江通６丁目39番地　TEL大阪(538)2951～5・(541)5757～９
営業所　東京・高槻・明石・姫路・四国・中国

発売元

新興壁材工業(株)
大阪市住之江区粉浜３－５－６　TEL大阪(672)１６６１～３

(株)九州新興建材工業所
福岡市博多区上牟田八田町２６の１　TEL福岡(41)５２２５～６

日進式 簡易間仕切 ディオ

オフィスでは人員の増減やシステムの改善等で，オフィスレイアウトも流動的です。取付，取はずしが簡単なディオは時代の要求にマッチした新しい簡易間仕切です。軽くて，剛性のあるディオパネル(イソバンド36)の表面は0.5%の塩ビ鋼板で構成され，美しい室内感覚を出しています。
(PAT.6件)

奥村重兵衛株式会社

本社 大阪市北区伊勢町22番地 〒530 電話(06) 312－4131(代)
東京 東京都港区新橋4－2 第29森ビル 〒105 電話(03) 437－3361(代)
福岡 福岡市博多区住吉2丁目16番27号 〒812 電話(092)291－0459(代)
名古屋 名古屋市西区倹町2丁目1番6号 〒451 電話(052)522－5436(代)

年中見ていただける 皆様の見本室

タイル 常設展示場

AM. 10.00～P.M. 5.00
日曜・祝日は休館

全国タイル展示協会

大阪市北区南森町46番地
八千代ビル南館2 F
TEL (06)364－2059



好評発売中!!

新刊 配筋読本

井上博・北小路宏共著 B5版・本文162頁・¥3,200(送料¥200)
鉄筋コンクリート工事の配筋方法には，大まかな規定しかないうえ，規定そのものが現場に合わない面が多い。これらの問題点を突いて「配筋方法」にたいする合理的な考え方の根拠をわかりやすく解説している。

新版 建築工事検査の実際

亀田泰弘監修
現場に即した試験・検査の技術を懇切ていねいに解説した初の工事検査方法指導書で，技術の急速な進歩に伴い全篇にわたって新しく書き改められ，一層充実した内容のものとなっている。
■上巻 B5判・453頁 ¥6,000・送料¥250
■下巻 B5判・534頁 ¥7,000・送料¥250
上下揃 都内送料 ¥350 / 地方送料 ¥500

各種建築構造の計画・設計に役立つ実用便覧

建築構造計算資料集

中川 淳編著 全8巻
1 鉄筋コンクリート構造編① B5判・188頁 ・ ¥2,500(送料¥250)
2 鉄筋コンクリート構造編② B5判・212頁 ・ ¥3,000(送料¥250)
3 鋼構造編① B5判・225頁 ・ ¥3,200(送料¥250)
4 鋼構造編② 近刊

増補改訂版 生活環境造りに好個の設計資料

住宅団地の造園施設

沖中 健著 B5判・本文114頁・¥1,600(送料¥200)
快適な住環境を造成する為の技術資料

住宅団地の土木設計

小池正次著 B5判・本文113頁・¥1,600(送料¥200)
コンクリート技術に関する好適の実務書

実用コンクリート技術

森茂二郎編 上巻B5判・360頁・¥3,200(送料¥250)
下巻B5判・414頁・¥3,600(送料¥250)
設計・施工に必要な接着工法の決定版

建築の接着工法

西 忠雄監修 B5判・505頁・¥3,000(送料¥280)

月刊 建築技術

建設省建築研究所監修
年間購読料 ¥8,400(送料含む)
〔7 月 号〕 定価 ¥700

●光庭方式の新しい学校建築……石川忠一ほか
●平行フランジ溝形鋼……千葉範夫
●マンションと木造住宅の維持費と問題点……橋本正吾
●大スパン床ばりの振動性状……川村政美ほか
●コンクリートの乾燥収縮予測……向井 毅
●グロスエマルションペイントの性能……鈴木正慶
●日本の住宅技術と住宅産業……広瀬鎌二
●設備ユニットの問題点と今後の動向……須貝 高

〔特集号案内〕
●軟弱地盤と建築/49年6月・特価¥1,000
●中小規模の鉄骨建築・配筋の要点/51年1月・特価¥780
●躯体生産技術の向上をめざして/51年4月・特価¥780
●建築と接合/51年7月・特価 ¥1,300
●住宅部品システムの普及/51年11月・特価1,400

〒160 東京都新宿区北新宿1-8-1中島ビル8F
☎03 〈363〉4211(代) 振替口座 東京0-72417番
有限会社 建築技術

特許・耐酸被覆鋼板
耐久建築屋根・外壁材料

オリエンタルメタル

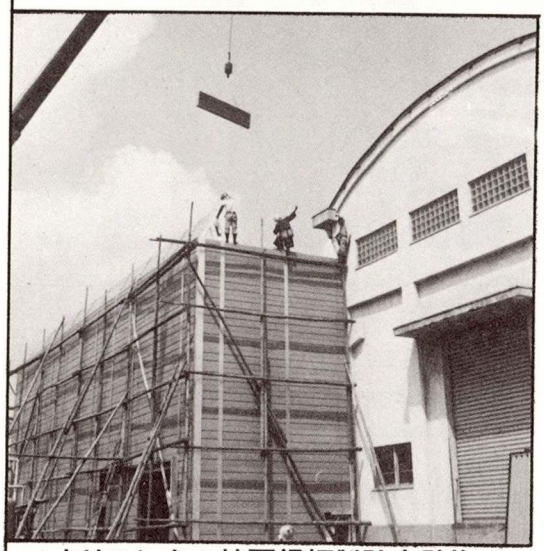
錆びない！
われない！
燃えない！

長尺物・色彩自由・責任施工

品種　オリエンタルメタル（O.P.M）
オリエンタルスーパーメタル（S.P.M）
オリエンタルスチールライト（S.T.L）
オリエンタルカラースーパーメタル（C.S.P.M）

波板規格　S小波　S大波　V波　ボックス波　Wジャンボ波　Vデッキ

用途　平板・波板・棟包・雨押類・谷樋・竪樋・軒樋
ホーンタイト（防音壁）
換気装置〔モニター・ベンチレーター・ムーバー・エキゾスター（強制）〕


オリエンタル被覆鋼板製防音壁施工

オリエンタルメタル製造株式会社

本社	兵庫県尼崎市昭和南通り3—26松本ビル	電話	大阪(412) 5131代表
営業本部	兵庫県尼崎市長洲稲川新田44	電話	大阪(488) 1081代表
東京本社及工場	埼玉県蕨市塚越5丁目6番32号	電話	蕨 (42) 3115代表
大阪支店及工場	兵庫県尼崎市長洲稲川新田44	電話	大阪(488) 1081代表
九州支店及工場	福岡県遠賀郡水巻町頃末	電話	北九州(691) 2831 代
名古屋支店	名古屋市中村区泥江町1の24第2中経ビル	電話	名古屋(581)2781 代

現場の信頼に応える


防水工事責任施工

マノール製品

セメント防水・防湿用	防水剤
セメント急硬・止水用	急結剤
セメント硬化促進用	早強剤
セメント耐寒・防凍用	防凍剤
コンクリート型枠脱型用	剝離剤
ノロ湿潤型モルタル密着用	接着剤
塗布型モルタル密着用	カプラー
非加硫ゴムシート防水用	ラバーシート
ウレタン弾性塗膜防水用	ウレタン
化学反応タイプ離型用	リケーダー
セメント起泡・軽量・裏込用	エスコート
場所打抗モルタル混和用	エアコール

— セメント混和剤・助材綜合メーカー —

株式会社 油脂化工社

東京都品川区二葉1—18—8　☎東京(787) 1131代表

東北支店	福島市下野寺字遠原3—2	☎0245(91) 1131(代)
関東営業所	茨城県土浦市大町14—3	☎0298(23) 1131(代)
盛岡営業所	岩手県盛岡市月ヶ丘3—39	☎0196(45) 1331(代)
大阪	大阪市東成区東中本2-17-26	☎ 06 (974) 1131

兵庫県障害者能力開発センター

施工　関西建設工業株式会社
本社 神戸市垂水区伊川谷町有瀬457
TEL 0789－74－1441



（協力業者・順不同）

■給排水・衛生 暖房設備工事　株式会社 大阪城口研究所　神戸出張所
神戸出張所　〒650 神戸市生田区下山手通６－１　TEL（078）341－5892
本　　社　〒530 大阪市北区高垣町１　TEL（06）372－7151
京都支店　〒605 京都市東山区大和大路正面上ル　TEL（075）561－4944

■電気工事　株式会社 ミナト電気工事
本　社　〒652 神戸市兵庫区荒日町３丁目22　TEL（078）511－5533～5
営業所　〒530 大阪市北区松ヶ枝町62 第２田渕ビル301号　TEL（06）351－6316

■塗装・吹き付け工事　株式会社 播州興業　〒674 明石市大久保町大久保町448－4　TEL（078）936－1446

■型枠工事　株式会社 大西組　〒654 神戸市須磨区天神町３－11－２　TEL（078）732－6921

■防水工事　株式会社 大信防水工業　〒653 神戸市長田区萩乃町１－１－734　TEL（078）621－4880

■軽鉄天井工事　株式会社 高橋金物
卸　部　〒675 加古川市加古川町木村116－1　TEL（0794）23－3456
小売部　〒675 加古川市加古川町寺家町3－329　TEL（0794）23－6311

■鉄骨工事　株式会社 富士金属工業　〒673 神戸市垂水区玉津町178－1　TEL（078）918－1212

■アルミサッシ工事　株式会社 岩住アルミサッシ　〒555 大阪市西淀川区千舟２－10－21　TEL（06）471－5123

■生コンクリート販売店　株式会社 北浦商事 神戸支店　〒652 神戸市兵庫区塚本通１－２－14　TEL（078）577－3011

■タイル工事　株式会社 中西タイル　〒673 明石市南貴崎町８－20　TEL（078）922－4625

■左官工事　有限会社 大寿産業　〒653 神戸市長田区宮川町４－10－８　TEL（078）691－0429

■メタラックC製造販売　株式会社 藤倉化成　〒530 大阪市北区金屋町１－41 南末広ビル　TEL（06）358－0291

■レンガタイル製造販売　有限会社 鈴村建陶社　〒479 愛知県常滑市鯉江新開17－６　TEL（05693）５－3626

本文６ページ参照

水に、スキをみせるな。

0.01ミリのスキ間でも、水は遠慮しません。〈日アス〉は、防水工事ひとすじに50余年。この小さなスキ間との、長いたたかいを続けているのです。もちろん、○シグマートによるウエルドシステム○特殊絶縁防水工法（特許ストライプ工法）○メルタン防水工法などの技術と、完全責任施工・年限保証が私たちの強力な武器。――――全国90カ所にもおよぶ〈日アス〉ネットワークの、水もモラさぬたたかいぶりに、ぜひご注目ください。



地区	会社名	所在地	電話
北海道	日本防水総業株式会社	札幌市	TEL (231) 7511代
	日本防水総業(株)旭川出張所	旭川市	TEL (32) 0084
	日本防水総業(株)釧路出張所	釧路市	TEL (23) 2056
	日新建工(株)札幌出張所	札幌市	TEL (221) 5015
	大和工業(株)苫小牧出張所	苫小牧市	TEL (34) 3358
東北	日新建工(株)仙台支店	仙台市	TEL (62) 4101代
関東	伊藤建材株式会社	東京都台東区	TEL (842) 1431代
	いわき建材工業株式会社	東京都中野区	TEL (385)8153・(389)4846
	春日工業株式会社	東京都荒川区	TEL (802) 3871代
	金岡工業株式会社	東京都新宿区	TEL (363) 4341代
	北原建材工業株式会社	東京都渋谷区	TEL (462) 5341代
	木下工業株式会社	東京都墨田区	TEL (634) 0821代
	協立工業株式会社	東京都港区	TEL (433)1961・8485
	大東スレート株式会社	東京都足立区	TEL (883) 3131代
	東京瀝青株式会社	東京都荒川区	TEL (803) 3481～3
	トーフジ工業株式会社	東京都千代田区	TEL (252) 5903
	日新建工株式会社	東京都荒川区	TEL (803) 2411代
	日本綜合防水株式会社	東京都渋谷区	TEL (403) 0171代
	野口工材株式会社	東京都渋谷区	TEL (444) 3531代
	鶫田工業株式会社	東京都千代田区	TEL (263) 4861代
	富士工材株式会社	東京都江東区	TEL (634) 0161代
	藤瀝青興業株式会社	東京都中野区	TEL (362)5697・(369)5697
	フタバ興業(株)東京営業所	東京都新宿区	TEL (208) 0256代
	北条瀝青工業株式会社	東京都江東区	TEL (643) 3963代
	マサル瀝青工業株式会社	東京都台東区	TEL (842) 6311代
	大和工業株式会社	東京都荒川区	TEL (802) 4751代
	瀝青建材株式会社	東京都千代田区	TEL (861) 2706～8
	有限会社神守建材社	横須賀市	TEL (22) 4288
	金港瀝青株式会社	横浜市	TEL (421) 6521～2
	不二防水工業株式会社	横浜市	TEL (231) 4461
	石田建材工業株式会社	高崎市	TEL (22) 3301～3
	石田建材工業(株)大宮支店	与野市	TEL (53) 1225～9
	石田建材工業(株)宇都宮出張所	宇都宮市	TEL (35)2816・(34)8424
	瀝青建材(株)宇都宮出張所	宇都宮市	TEL (22) 9737
	株式会社奈良屋商店	水戸市	TEL (41) 5141代
信越	同和建業株式会社	新潟市	TEL (45) 2251代
	同和建業(株)長野営業所	長野市	TEL (27) 0298
	株式会社仙嶺	松本市	TEL (58) 3187
北陸	有限会社折橋政次郎商店	高岡市	TEL (22) 0999
	有限会社小島工業所	高岡市	TEL (23) 0391
	島屋建設株式会社	金沢市	TEL (42) 5151
	石橋建材株式会社	福井市	TEL (23) 0775・0885
	協和建材工業株式会社	清水市	TEL (45) 2221代
	三井工業株式会社	静岡市	TEL (85) 9151～2

地区	会社名	所在地	電話
東海	三信建材工業株式会社	豊橋市	TEL (45) 8211代
	大池建工株式会社	名古屋市	TEL (211) 1885代
	重喜防水工業株式会社	名古屋市	TEL (991) 0111代
	辰己防水工業有限会社	名古屋市	TEL (501) 1401代
	中央建材工業株式会社	名古屋市	TEL (761) 6181代
	東京建材工業株式会社	名古屋市	TEL (411) 6621
	東海物産株式会社	名古屋市	TEL (721) 2211～5
	日本建材鋼業株式会社	名古屋市	TEL (571) 5541～4
	宮崎建材株式会社	名古屋市	TEL (331) 1531代
近畿	池田瀝青工業株式会社	大阪市	TEL (699) 5757～9
	株式会社神原商店	守口市	TEL (909)1433・(908)1282
	清水興業株式会社	大阪市	TEL (372) 0250～3
	日新工材株式会社	大阪市	TEL (541) 3785～6
	日新建工(株)大阪出張所	大阪市	TEL (541) 1607～8
	日本綜合防水(株)大阪支店	大阪市	TEL (361) 0471～5
	フタバ興業株式会社	吹田市	TEL (385) 2781代
	マルエス工業株式会社	大阪市	TEL (458) 4841～3
	有限会社丸藤商店	大阪市	TEL (351) 2150代
	大島応用化学工業株式会社	東大阪市	TEL (745) 5121代
	久下商店	京都市	TEL (311) 2044～5
	東洋建材株式会社	京都市	TEL (361) 9171
	中村瀝青工業株式会社	神戸市	TEL (341)5884・1223
	棚田建材有限会社	神戸市	TEL (841) 3551代
	有限会社ミサキ商会	和歌山市	TEL (22) 3922
	ヒカリ工業株式会社	大阪市	TEL (395) 1051
	国際工事株式会社	大阪市	TEL (211) 6385
中国	東中国防水工業株式会社	岡山市	TEL (72) 1221代
	株式会社三洋技建	大竹市	TEL (2) 5155代
	三和防水工業株式会社	広島市	TEL (83) 3366代
	豊永建材株式会社	広島市	TEL (61) 6371～3
	大和工業(株)広島出張所	広島市	TEL (71) 4687
	株式会社巴商会	宇部市	TEL (21) 0760
	和光工業株式会社	松江市	TEL (38) 1321
四国	大三工業株式会社	高松市	TEL (51) 6811代
	徳島大三工業株式会社	徳島市	TEL (31) 4161代
	株式会社マルマス河野商店	今治市	TEL (32) 5000代
	株式会社山本商会	松山市	TEL (31) 6261代
	大三工業(株)高知支店	高知市	TEL (45) 4800代
九州	安藤工業株式会社	福岡市	TEL (561) 7012代
	加茂装備株式会社	福岡市	TEL (561) 6250
	日建工材株式会社	福岡市	TEL (741) 6665代
	株式会社工材社	北九州市	TEL (371) 1468～9
	安藤工事株式会社	長崎県	TEL (2) 2200
	株式会社大二商会	宮崎市	TEL (51) 6155代
	日新興業株式会社	延岡市	TEL (3) 2455～9
	株式会社北原建材商会	鹿児島市	TEL (23) 9395～6
	上原建設工業社	沖縄県	TEL (09889)(2)2368

■建設省東計第240号認可

日本アスファルト防水工業協同組合

東京都足立区千住東2－21－28　日新工業株式会社内　☎(882)2424大代
関東支部　東京都足立区千住東2－21－28　日新工業内　☎(882)2424大代
中部支部　名古屋市千種区千種通り2-19(岐阜正ビル)　日新工業名古屋出張所内　☎(741)6257 代
関西支部　大阪市東淀川区瑞光通り4－30－2　日新工業大阪支店内　☎(329)7737 代
九州支部　福岡市博多区博多駅前1－24－10　日新工業九州出張所内　☎(451)1095 代

製造元／日新工業株式会社

新しい“ヒューマン床材”シリーズ誕生。

三星アコスティカルフロアーズと名づけました。



福祉の国スウェーデンからやってきたアコスチフロア。このたび，田島のすぐれた技術で国産化に成功しました。これを機会に，これまでの「アコスチ」「ジム」を用途別に分け，新しい仲間を加わえて，アコスティカルフロアーズと名づけました。待望！ヒューマン床材シリーズの誕生です。

この床材は，これまでの発泡層のない単一層のベーシックタイプの床材，クッションタイプの床材とは，まったく異質の床材で，衝撃吸収性にすぐれた性能をもっています。その秘密は，厚い発泡層をサンドイッチした複合構造にあります。つまり，発泡層が，従来のクッションフロアのようなケミカル発泡とちがい，メカニカルにつくられた緻密な連続気泡で構成されているからです。しかも，表層には，リップル（さざ波）状のすべりどめ加工もしてあります。また，衝撃音遮断性，保温性，耐久性，防水性，耐薬品性にも，すぐれており，清潔な床面をつくります。

アコスティカルフロアーズは，責任ある施工システムとともに，今，床材に求められているあらゆる条件を完備した長尺床材です。

ヒューマンスペースを創造する

三星
アコスティカルフロアーズ
Acoustical Floors

学校・一般用	病院・福祉用	体育館用
ACフロア28 新製品	ACフロア35（アコスチ）	ACフロア55（ジム）
2.8mm×184cm×18m・15色	3.5mm×184cm×25m・7色	5.5mm×184cm×21m・1色
3,600円／m²（材工共）	4,800円／m²（材工共）	9,200円／m²（材工共）

三星Pタイル 田島応用 TAJIMA OYO KAKO CO.,LTD.
責任施工 三星テラゾタ 東・西床協組

東京営業所●東京都千代田区岩本町3-11-13〒101☎03(866)6101(代)　大阪営業所●大阪市西区京町堀1-10-5〒550☎06(441)5951(代)
札幌：☎011(231)8261／仙台：☎0222(22)6413／宇都宮：☎0286(22)8264／新潟：☎0252(45)0816／横浜：☎045(681)4835／静岡：☎0542(81)5849
名古屋：☎052(571)6361／金沢：☎0762(31)5741／広島：☎0822(46)9436／高松：☎0878(62)5285／福岡：☎092(712)9141

＊詳しい資料をご請求ください。

建築と社会 ARCHITECTURE & SOCIETY 第58輯第6号
昭和52年6月25日発行（毎月1回25日発行）　昭和24年3月19日第3種郵便物認可
社団法人 日本建築協会　〒541 大阪市東区北浜3-1-37 電話大阪06(231)9648・9649・9640 振替口座大阪三九九七五番
（表紙絵・小泉豊渡欧スケッチ）　定価六百円